

インドネシア共和国
国立障害者職業
リハビリテーションセンター
終了時評価報告書

平成 14 年 8 月

国際協力事業団
社会開発協力部

序 文

インドネシア共和国では近年、経済が急速に成長する反面、社会福祉・保健医療等の社会インフラ整備が立ち遅れ、なかでも全人口の3.11%、約700万人に達する障害者のリハビリテーション体制の未整備が目立っていた。このためインドネシア共和国政府は、障害者に対して一般雇用に関わりつづける職業訓練を行う職業リハビリテーションシステムの構築をめざし、我が国の無償資金協力を得て「インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)」を建設した。また、これとあわせて、先に実施されたパイロットプロジェクト「ソロ身体障害者リハビリテーションセンター」計画の成果を踏まえ、身体障害者の募集・職業指導・評価・就職斡旋システムの確立と職業訓練、そのための職員研修や身体障害者の雇用・労働市場に関する調査研究を進めたいとして、NVRCの運営にかかる人材育成を目的としたプロジェクト方式技術協力を、我が国に要請してきた。

これを受けて、国際協力事業団は各種調査を経て1997年11月、討議議事録(R/D)等の署名を取り交わし、1997年から5年間にわたる「インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター」プロジェクト方式技術協力を実施してきた。

今般はプロジェクト終了を6か月後に控え、これまでの実績を評価するため、2002年6月27日から7月6日まで、当事業団専門技術嘱託 小泉 純作氏 を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣し、インドネシア共和国側と合同で最終評価にあたった。これによれば、本プロジェクトはNVRCにおける職業リハビリテーションシステムの確立に対して効果的・効率的に寄与し、協力期間終了までに、プロジェクト目標は十分に達成できると判断された。

本報告書は、同調査団の調査・評価及び協議結果を取りまとめたもので、プロジェクト関係者間での共有、類似プロジェクトへの参考のため広く活用されることを願うものである。

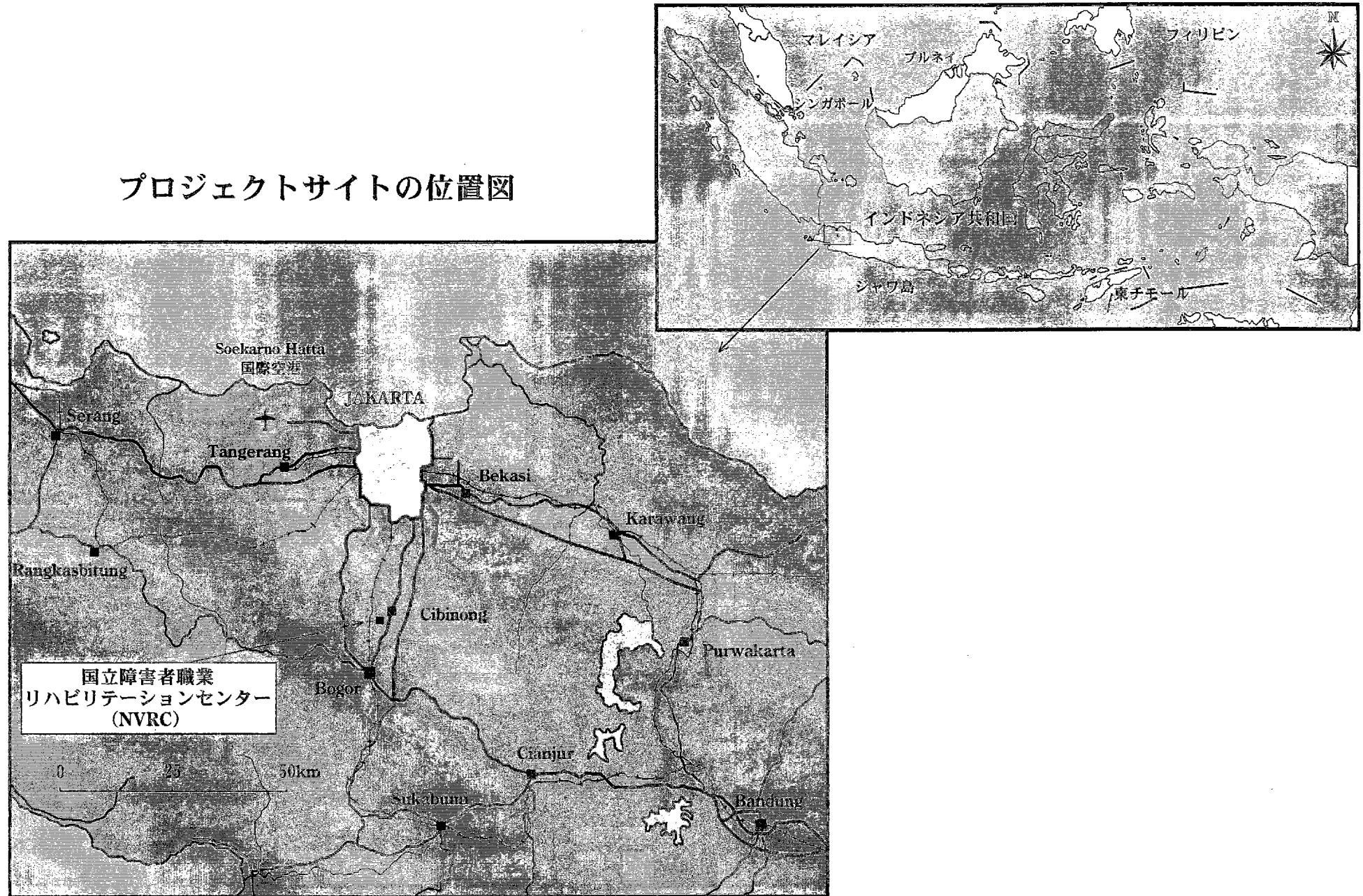
ここに、調査にご協力いただいた外務省、厚生労働省、雇用・能力開発機構、日本障害者雇用促進協会、在インドネシア共和国日本大使館など、内外関係各機関の方々に深く謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成14年8月

国際協力事業団

理事 泉 堅二郎

プロジェクトサイトの位置図





インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター（NVRC）建物



縫製コース教室



NVRC 食堂



宿泊棟でくつろぐ訓練生



電気電子コース



ミニッツ署名

略語一覧

BAPPENAS	国家開発企画庁
GATB	General Aptitude Test Battery(一般職職業適性検査)
JABOTABEK	首都ジャカルタとその周辺地域(Jakarta, Bogor, Tangerang and Bekasi)
LKB	郡レベルのワークショップ
NVRC	National Vocational Rehabilitation Centre(インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター)
PROPENAS	2000 年 ~ 2004 年国家開発計画
PSBD	地方障害者職業リハビリテーションセンター

< 補足・用語説明 >

Eshelon	インドネシア政府が管理職に与える核付(給与等級)、 ~ の 4 ランク
マガン	職業リハビリ訓練終了後、企業へ 2 か月間就労する訓練生の呼称

評価調査結果要約表

案件概要	国名：インドネシア共和国	案件名： (和)インドネシア共和国国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト (英)The Project for National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People in Indonesia
	分野：職業訓練	援助形態：プロジェクト方式術協力
	所轄部署：社会開発協力部 社会開発協力第一課	協力金額(無償のみ)：16億5,000万円
協力期間	(R/D)1997.12.20～2002.12.19	先方関係機関：インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(National Vocational Rehabilitation Centre:NVRC) 日本側協力機関：日本障害者雇用促進協会、雇用・能力開発機構、厚生労働省職業能力開発局海外協力課、同省職業安定局障害者雇用対策課
その他関連協力： 1) プロジェクト方式技術協力：ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンター(1995.12～1997.12) 2) 専門家派遣：政策アドバイザー(社会省) 3) 無償資金協力：障害者リハビリテーションセンター建設(1996年16億5,000万円)		
・協力の背景と概要 <p> インドネシアでは、近年の急速な経済成長の半面、社会福祉、保健医療等の社会インフラ整備は立ち遅れが目立ち、約700万人と言われる障害者に対するリハビリテーション体制等が未整備のため、その社会参加は進んでいない。このような状況の中でインドネシア国政府は、障害者に対して一般雇用に結びつく職業訓練を行う新たなリハビリテーション(職業リハビリテーション)システムの構築をめざしてインドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)の設立を計画し、施設は我が国の1996、1997両年度無償資金協力(16億5,000万円)により建設された。 </p> <p> NVRCではパイロットプロジェクトとして実施された「ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンター」計画の成果を踏まえ、全国の身体障害者を対象とする募集・計画・職業斡旋システムの確立、5つの職業訓練コース(金属加工、電子、印刷、縫製、コンピューター)の実施、他の公立リハビリセンター職員等に対する職員研修、身体障害者の雇用・労働市場に関する調査研究を行うことを計画し、同計画の実施に関して、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請した。 </p> <p> 要請目的： 障害者に対して一般雇用に結びつく職業訓練を行うこと。 </p> <p> 要請内容： 1. 全国の身体障害者を対象とする募集・計画・職業斡旋システムの確立 2. 5つの職業訓練コース(金属加工、電子、印刷、縫製、コンピューター)の実施 3. 他の公立リハビリテーションセンター職員等に対する職員研修 4. 身体障害者の雇用・労働市場に関する調査研究 </p>		

	<p>協力内容：</p> <p><上位目標> インドネシアにおいて、職業リハビリテーションシステムが確立し、障害者の就業が促進される。</p> <p><プロジェクト目標> インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター（NVRC）において、職業リハビリテーションシステムが確立される。</p> <p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. NVRCの組織・機能が確立される。 2. 広域の募集・選考システム、職業紹介システムが確立される。 3. 職業訓練が強化される。 4. 社会福祉施設等の職員の技能が向上する。 5. 調査・研究の機能が確立される。 <p><投入>(評価時点)</p> <p>日本側：</p> <table border="0"> <tr> <td>長期専門家派遣</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>短期専門家派遣</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>研修員受入れ</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>機材供与</td> <td>2億3,100万円</td> </tr> <tr> <td>ローカルコスト負担</td> <td>5,480万円</td> </tr> </table> <p>インドネシア側：</p> <table border="0"> <tr> <td>カウンターパート配置</td> <td>65名</td> </tr> <tr> <td>土地・施設提供</td> <td>NVRC施設内での専門家執務スペース</td> </tr> <tr> <td>運営コスト</td> <td>1,082万ルピー</td> </tr> </table> <p>(電話代、電気代、水道代等の経費等)</p>	長期専門家派遣	12名	短期専門家派遣	22名	研修員受入れ	26名	機材供与	2億3,100万円	ローカルコスト負担	5,480万円	カウンターパート配置	65名	土地・施設提供	NVRC施設内での専門家執務スペース	運営コスト	1,082万ルピー		
長期専門家派遣	12名																		
短期専門家派遣	22名																		
研修員受入れ	26名																		
機材供与	2億3,100万円																		
ローカルコスト負担	5,480万円																		
カウンターパート配置	65名																		
土地・施設提供	NVRC施設内での専門家執務スペース																		
運営コスト	1,082万ルピー																		
調査者	<p>(担当分野：氏名 職位)</p> <table border="0"> <tr> <td>団長・総括</td> <td>小泉 純作</td> <td>国際協力事業団専門技術嘱託</td> </tr> <tr> <td>センター運営管理</td> <td>五十嵐意和保</td> <td>厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課障害者雇用対策専門官</td> </tr> <tr> <td>職業訓練</td> <td>丸山 雅滋</td> <td>雇用・能力開発機構 職業能力開発企画部国際室専門役</td> </tr> <tr> <td>職業リハビリテーション</td> <td>成岡 衛</td> <td>日本障害者雇用促進協会 奈良障害者職業センター 所長</td> </tr> <tr> <td>協力計画</td> <td>山内 美樹</td> <td>国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課</td> </tr> <tr> <td>評価分析</td> <td>間宮志のぶ</td> <td>グローバルリンクマネジメント株式会社社会開発部</td> </tr> </table>	団長・総括	小泉 純作	国際協力事業団専門技術嘱託	センター運営管理	五十嵐意和保	厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課障害者雇用対策専門官	職業訓練	丸山 雅滋	雇用・能力開発機構 職業能力開発企画部国際室専門役	職業リハビリテーション	成岡 衛	日本障害者雇用促進協会 奈良障害者職業センター 所長	協力計画	山内 美樹	国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課	評価分析	間宮志のぶ	グローバルリンクマネジメント株式会社社会開発部
団長・総括	小泉 純作	国際協力事業団専門技術嘱託																	
センター運営管理	五十嵐意和保	厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課障害者雇用対策専門官																	
職業訓練	丸山 雅滋	雇用・能力開発機構 職業能力開発企画部国際室専門役																	
職業リハビリテーション	成岡 衛	日本障害者雇用促進協会 奈良障害者職業センター 所長																	
協力計画	山内 美樹	国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課																	
評価分析	間宮志のぶ	グローバルリンクマネジメント株式会社社会開発部																	
調査期間	<table border="0"> <tr> <td>2002年6月27日～2002年7月6日</td> <td>評価種類：終了時評価</td> </tr> </table>	2002年6月27日～2002年7月6日	評価種類：終了時評価																
2002年6月27日～2002年7月6日	評価種類：終了時評価																		

1. 評価の目的	<p>2002年12月のプロジェクト協力期間の終了を控え、</p> <p>(1) 本プロジェクト所期の計画に照らし、プロジェクトの活動実績、管理運営状況、カウンターパートへの技術移転状況について評価を行う。</p> <p>(2) 目標の達成度を判定したうえで、今後の協力方針について相手国側と協議する。</p> <p>(3) 評価結果から教訓及び提言を導き出し、今後の協力のあり方や実施方法の改善に資する。</p>
2. 評価結果の要約	
(1) 妥当性	<p>インドネシア政府は1997年に障害者の雇用促進を図るために、雇用法No.4(障害者に関する法令第4/1997年)を採択し、1999年には障害者福祉に関する大統領令によって社会省は障害者の福祉向上のための調整役と位置づけられた。また、NVRC所長は格づけが上がったことにより、省内でのNVRCの位置づけも上がり、予算配分や省内意思決定にもプラスの影響があった。加えて、2000～2004年国家開発計画(PROPENAS)において、障害者の社会能力を高めて生産力をもつ労働力とすることが社会福祉プログラムの一環として掲げられており、障害者の職業リハビリテーションのニーズが増大していることから、NVRCへの応募者も年々増加している。これらから、本プロジェクトの上位目標及びプロジェクト目標はインドネシア政府の開発政策に合致し、裨益者である障害者のニーズに合致しているといえる。またJICAの国別事業実施計画においても、社会福祉と労働環境の整備が社会開発における重点分野の1つとされていることから、本プロジェクトの上位目標及びプロジェクト目標は我が国の対インドネシア援助政策との整合性もあり、計画の妥当性は極めて高いといえる。</p>
(2) 有効性	<p>本プロジェクトは経済危機に伴う政府所轄機関の解体、またその後の地方分権化の導入に影響されはしたものの、本評価時においてプロジェクト目標はほぼ達成しているといえる。NVRC修了生の就職率は第2期生以降、いずれも目標の62%を達成している。NVRCは職業リハビリテーションシステムを確立し、NVRC訓練修了生の技能は就職先の企業において高く評価されている。設定された5つの成果はプロジェクト目標達成に貢献している。</p> <p>成果1ではNVRCの組織機能は確立し応募者数も拡大している。成果2ではNVRC訓練修了生の就職率は向上し、彼らの技能も受入先企業において高く評価されるようになってきている。広域の就職斡旋に関するシステムづくりについては更なる努力が必要である。成果3では、職業訓練は強化されつつある。訓練は予定どおりに実施されてきており、カリキュラムも市場のニーズを反映して改訂される仕組みになっている。成果4では職員研修ガイドラインが作成され、効果的に職員研修教材作りに活用されている。成果5では調査研究部は設立されたが、調査された結果を活動に組み入れる段階にはいたっていない。</p>
(3) 効率性	<p>プロジェクトへの投入は成果の達成のためにおおむね効果的に活用されたといえる。日本側の投入は専門家派遣、研修員受入れ、機材供与、ローカルコストであるが、いずれもほぼ予定どおり実行された。インドネシア側の投入は施設設備、機材、カウンターパートの配置、予算措置であるが、主管省の一時組織解体、経済危機及び地方分権化の影響を受け、カウンターパートの減少と予算不足に見舞われた。今後は機材の維持管理技術と維持管理予算の取得、研修材料予算等の獲得に尽力する必要がある。</p>
(4) インパクト	<p>プロジェクトの上位目標である全国レベルでの障害者の雇用状況改善についてはデータ不足のため把握することはできないが、NVRCの訓練修了生は第1期より第4期まで就職率が期ごとに上昇しており、プロジェクトはインドネシアの障害者に対する職業訓練の改善に貢献してきたといえる。</p> <p>この他に、本プロジェクトのプラスのインパクトとして次のことがあげられる。(1)障害者の職業リハビリテーションという新しい概念がJABOTABEK域内の企業や地域社会に浸透しつつあること。(2)NVRC訓練修了生の就職先での実績や規律正しい就業態度が評価され、健常者の同僚の就業意欲を高める結果にもなっていること。(3)障害者自身が働くことによって自信をもちはじめ、障害者の勤労者としての能力が認められつつあること。一方、本プロジェクトのマイナスのインパクトは、NVRC訓練修了生の多くがJABOTABEK域内への就職を希望するため、当該地域の就職競争が激化する傾向になっていることである。</p>

(5)自立発展性	<p>1) 組織 プロジェクト目標はインドネシア政府の政策に合致していること、障害者の職業リハビリテーションのニーズは拡大していること、NVRCの活動には地方センターや社会福祉機関の関心が高まっていることから、政府や関連機関からの継続的な支援は得られると思われる。</p> <p>2) 財政 インドネシア政府はこれまでNVRCへの予算獲得、拡充に尽力してきたが、今後も継続して確立された職業リハビリテーションセンターを維持していくためには更なる財源確保が必要である。特に研修材料費、機材維持管理費、就職斡旋等についての財源確保が重要である。</p> <p>3) 技術 インドネシアカウンターパートへの技術移転は計画どおり進展したといえる。今後は職員研修を拡充し、日本人専門家から習得した技術を職員間で普及させていく努力が必要である。</p>
3. 効果発現に貢献した要因	
(1)計画内容に関すること	NVRCのサービスに対する訓練生の評価、NVRC修了生の質に対する受入企業の評価、職員研修に対する参加者(職員)の評価等、本プロジェクトでは常に結果に対する評価を設定して質の向上に努めた点が、効果発現に貢献したと思われる。
(2)実施プロセスに関すること	本プロジェクトでは開始直後より、インドネシア経済危機、政情不安等の外部条件の予期せぬ変化に見舞われたが、それらに対して日本側、インドネシア側双方が予算の補填等を行い、柔軟に対処したことで、計画どおり5年間でプロジェクト目標を達成することができたといえる。
4. 問題点及び問題を惹起した要因	
(1)計画内容に関すること	<p>中間評価時点において、NVRC卒業生の職業紹介システムを広域に拡大する方針が打ち出されたが、実施のための関連機関との連携体制が構築されておらず、同方針は本プロジェクト期間中に実行可能な範囲を超えていたため、具体的に成果に結びつけることができなかった。</p> <p>また広域拡大のための計画として、具体的に何をすべきか、年間計画に明確に反映されていなかったことも、実績に結びつけることができなかった要因と思われる。</p>
(2)実施プロセスに関すること	<p>経済危機に伴う政府主管官庁の解体、地方分権化の導入等によって、NVRC内の職員の大量異動・流出があり、プロジェクトの進捗を阻害された。</p> <p>日本人専門家とカウンターパートとの定期的なコミュニケーションの場が少なかった。特に運営委員会(Steering Committee)が計画どおりの日程で開催されなかったため、プロジェクトの進捗状況、課題の把握に、日本側とインドネシア側で認識の相違があった。</p> <p>日本とインドネシア双方のコミュニケーションが少なかった要因のひとつは語学の壁である。特に短期専門家の場合は、語学の壁が技術移転状況を左右する要因となった。</p>
5. 結論	インドネシアの障害者職業リハビリテーションの分野において、本プロジェクトは職業リハビリテーションシステムの確立と職業訓練技術の向上に効率的に貢献してきたことが確認された。今後、NVRCをインドネシアにおける障害者職業リハビリテーションの中核センターとして位置づけていくためには、インドネシア政府は予算確保に引き続き尽力し、また関連省庁や地方自治下の関連機関との更なる連携を深めていく必要がある。
6. 提言(当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)	<p>(1) 社会省は他の関連省庁との連携調整を通じて、インドネシア唯一の国立職業リハビリテーションセンターであるNVRCの組織強化に努める必要がある。</p> <p>(2) 就職斡旋、職員研修、機材等の維持管理(機材、スペアパーツを含む施設設備)、研修用資材(消耗品)及び研究開発等の活動が特に円滑に行えるように、NVRCの活動に係る予算を継続的に配備する必要がある。</p> <p>(3) 職業リハビリテーションに関する国レベルの規準を策定する。</p> <p>(4) 教官配備が不足している部門に関しては早急に必要な数の教官を配備すること。臨時教官については正規教官として採用する必要がある。</p>
7. 教訓(当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)	<p>(1) 短期専門家の任期については、1か月間のみの派遣は技術移転を完了するには短すぎるので、技術移転を効果的に行うため、現行の任期を延長することが望ましい。</p> <p>(2) 障害者の職業リハビリテーションは市場ニーズにそって柔軟に対応し、企画、実施、評価を行うことが望ましい。</p>

目 次

序 文

地 図

写 真

略語一覧

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査団の概要	1
1 - 1 調査団派遣の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成と調査期間等	2
1 - 3 対象プロジェクトの概要	4
第2章 終了時評価の方法	6
2 - 1 合同評価	6
2 - 2 評価の枠組みとデザイン	6
2 - 3 PDMの見直し・評価用PDM(PDMe)	9
2 - 4 情報の収集・分析・結論の導出等	10
第3章 調査結果	12
3 - 1 プロジェクトの投入実績	12
3 - 2 活動実績	14
3 - 3 成果の達成度	14
3 - 4 プロジェクト目標の達成度	21
3 - 5 上位目標の達成度	23
第4章 評価結果	24
4 - 1 評価5項目の評価結果	24
4 - 1 - 1 妥当性	24
4 - 1 - 2 有効性	25
4 - 1 - 3 効率性	26
4 - 1 - 4 インパクト	27
4 - 1 - 5 自立発展性	28

4 - 2	分野別評価	29
4 - 2 - 1	センター運営管理	29
4 - 2 - 2	調査研究	30
4 - 2 - 3	職業訓練	31
4 - 2 - 4	職業指導・評価	36
4 - 2 - 5	職員研修	37
第5章	総括	38
5 - 1	結論	38
5 - 2	提言	38
5 - 3	教訓	39
5 - 4	その他	39
付属資料		
1.	ミニッツ	43
2.	PDM ₀ 及びPDM ₂	73
3.	終了時評価用PDM(PDM _e :和文)	77
4.	評価グリッド	79
5.	プロジェクト形成の経緯	81
6.	社会省関連組織図	82
7.	日本側投入実績(専門家派遣、研修受入れ、現地業務費、機材供与)	84
8.	カウンターパート配置実績	98
9.	設備投入実績	102
10.	NVRC委員会一覧	105
11.	安全管理委員会巡回状況	106
12.	マガンと就職の適合率	108
13.	就職斡旋活動	109
14.	各訓練コースのカリキュラム(2002年度)	110
15.	2002年第5期職業訓練カリキュラム検討会議内容	115
16.	作成教材リスト	118
17.	職員研修ガイドライン	122
18.	社会福祉施設研修の研修評価結果	124
19.	ワークショップ・セミナー開催実績	128
20.	調査研究部実績	129

21. NVRC Bulletin	130
22. 訓練生の NVRC 評価	134
23. マガンにおける企業からの訓練生評価	135
24. NVRC 視察者・団体リスト	136

第1章 終了時評価調査団の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

インドネシア共和国(以下、「インドネシア」と記す)では近年、経済が急速に成長する半面、社会福祉・保健医療等の社会インフラ整備が立ち遅れ、なかでも全人口の3.11%、約700万人に達する障害者のリハビリテーション体制の未整備が目立っていた。このため同国は、ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンターを中心として全国に散在するリハビリテーションセンターで、身体障害者に対する職業訓練を行ってきたが、施設・機材が旧式化・老朽化し、訓練レベルも低いいため、職業訓練者のうち就労できるものは少数であった。

このような状況下で、インドネシアは、障害者に対して雇用に結びつく職業訓練を行う職業リハビリテーションシステムの構築をめざして「インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(National Vocational Rehabilitation Centre :NVRC)」の設立を計画し、同センター施設建設についての無償資金協力を、また、パイロットプロジェクトとしてソロ身体障害者職業リハビリテーションセンターで行うプロジェクト方式技術協力を我が国に要請してきた。

本要請を受けて、1996年度及び1997年度の無償資金協力によりNVRCの施設、及び機材が整備され、1997年10月末に竣工して相手国に引き渡された。これと併せて国際協力事業団は、職業リハビリテーションシステムの導入・開発及び縫製・コンピューターの2分野における職業訓練を柱とした「ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト」(1994年12月～1997年12月)を実施した。

このパイロットプロジェクトの成果を踏まえて当事業団は、1997年4月に事前調査団、同年8月に長期調査員を派遣し、NVRCにおける新プロジェクトの協力内容を検討した。1997年11月には実施協議調査団により討議議事録(Record of Discussions :R/D)が署名・交換され、NVRCにおける職業リハビリテーションシステムの確立を目的とした「国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト」が開始された(本プロジェクト形成の経緯：付属資料3.参照)。

本プロジェクト開始後、1999年10月に運営指導調査団、2000年6月に運営指導(巡回指導)調査団が派遣され、本プロジェクトの進捗状況を確認して当初計画の見直しを行ってきた。

この間の1999年に、当初の主管省であった社会福祉省がインドネシア政府の機構改革で解体され、新たな主管省・社会省として再編されるまで、プロジェクトはスタッフの流出や異動などの影響を受けたが、2001年11月、社会省の組織編成が完了した。また、地方分権化政策により、地方社会福祉事務所との協力関係構築が難しくなる事態も生じたが、プロジェクトはこの難局を乗り越えて、着実に実績を積んできた。

今般は、協力期間の終了を2002年12月19日に控え、以下の目的で本終了時評価調査団が派遣

された。

- (1) これまで実施した協力活動全般を諸計画に照らし、プロジェクトの活動実績、運営管理状況、カウンターパート(C/P)への技術移転状況について把握する。
- (2) 上記(1)を踏まえたうえで、評価5項目の観点からプロジェクトを評価する。
- (3) 評価結果から教訓・提言等を導き出し、今後の先方政府によるセンター運営管理のあり方や我が国の協力方針について、先方関係機関と協議する。

1 - 2 調査団の構成と調査期間等

(1) 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
団長・総括	小泉 純作	国勢協力事業団 専門技術嘱託
センター運営管理	五十嵐 意和保	厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課障害者雇用対策専門官
職業訓練	丸山 正滋	雇用・能力開発機構職業能力開発企画部国際室専門役
職業リハビリテーション	成岡 衛	日本障害者雇用促進協会奈良障害者職業センター所長
評価分析	間宮 志のぶ	グローバルリンクマネジメント株式会社 社会開発部
協力計画	山内 美樹	国際協力事業団社会開発協力部社会開発協力第一課

(2) 調査日程

日順	日程	曜日	活動内容	
1	6/27	木	11:20	成田発(JL-725)
			16:35	ジャカルタ発 着後 団内打合せ
2	6/28	金	16:35	社会省訪問・調査
			11:30	日本大使館訪問
			PM	JICA事務所/専門家との打合せ
3	6/29	土	終日	NVRC訪問・調査
4	6/30	日	終日	団内打合せ
5	7/1	月	終日	NVRCでのヒアリング
6	7/2	火	9:00	合同評価委員会
			13:00	ミニッツ準備・打合せ
7	7/3	水	終日	ミニッツ協議
8	7/4	木	終日	ミニッツ協議
9	7/5	金	9:00	ミニッツ署名・交換
			14:30	日本大使館報告(釜石一等書記官)
			16:00	JICA事務所報告
			22:35	ジャカルタ発(JL-726)
10	7/6	土	7:45	成田着

(注) 評価分析団員は6月23日出発で先行し、24日「評価ワークショップ」で評価手法の説明・確認を行った。

(3) 主要面談者

[インドネシア側]

1) 社会省(Ministry of Social Services)

Mr. Bachtiar Chamsyah,	Minister
Dr. Pudji Hastuti,	Director General for Social Rehabilitation and Services
Mr. Suharno,	Director of Social Rehabilitation and Services for Persons with Disabilities
Mr. Abdul Malik,	Head of Planning Bureau
Ms. Tri Hananingsih,	Head of Sub. Directorate of Social Rehabilitation and Services for Persons with Physically Disabilities
吉光 清	JICA 個別専門家(職業リハビリテーション政策)

2) 国立障害者職業リハビリテーションセンター

(National Vocational Rehabilitation Centre :NVRC)

Drs. Abdul Rifai Mas	Director
Drs. Ade Suherman	Head, Division of Research and Development
Drs. Sumarsono	Head, Division of Vocational Rehabilitation

[日本側]

1) 在インドネシア日本大使館

釜石 英雄	一等書記官
-------	-------

2) JICA インドネシア事務所

神田 道男	所 長
大竹 祐二	次 長
木村 卓三郎	所 員

3) 国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト

八木 功	チーフアドバイザー
田中 隆弘	業務調整
狩野 隆	職業訓練(電子)
田中 章夫	職業指導・評価

1-3 対象プロジェクトの概要

本「インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター」プロジェクトは、1997年11月17日に署名を取り交わした討議議事録等に基づいて、ボゴール県チビノン市(ジャカルタを中心部から南に約55km)のNVRCをプロジェクトサイトに、インドネシア社会省を実施機関(主管機関)として、1997年12月20日から2002年12月19日まで、5年間の計画で実施してきた。

その概要は次のとおりである(詳細は付属資料1. ミニッツ ANNEX 1 PDMe、付属資料3. 和文 PDMe 参照)。

(1) プロジェクト目標

NVRCにおいて、職業リハビリテーションシステムが確立される。

(2) 期待される成果

- 1) NVRCの運営管理体制が確立される。
- 2) 募集・選考システム及び職業紹介システムが広域において実施される。
- 3) 職業訓練が実施される。
- 4) 社会福祉施設等の職員が養成される。
- 5) 調査・研究の機能が確立される。

(3) 協力活動内容

- 1) 職業指導・評価
- 2) 職業訓練(金属加工、電子、印刷、縫製、コンピューター)
- 3) 職員研修
- 4) 調査・研究

(4) 日本側の対応

- 1) 専門家派遣：長期専門家延べ12名(チーフアドバイザー、職業指導・評価、職業訓練＝電子、業務調整)のほか、職業訓練(印刷、金属加工、小型エンジン等)の短期専門家を延べ22名派遣した。
- 2) 研修員受入れ：合計26名を日本研修に受入れた。
- 3) 機材供与：知能検査・身体測定計等の測定装置、調査研究用コンピューター、職業訓練用の追加機材等

(5) 協力活動内容

- 1) 事前調査 1997年 4月 06日 ~ 1997年 4月 18日
- 2) 長期調査 1997年 8月 17日 ~ 1997年 9月 11日
- 3) 実施協議 1997年 11月 09日 ~ 1997年 11月 19日
- 4) 運営指導 1999年 10月 10日 ~ 1999年 10月 17日
- 5) 運営指導 2000年 6月 12日 ~ 2000年 6月 30日

(6) プロジェクトの実施体制

本プロジェクトは社会省社会リハビリテーションサービス総局長をプロジェクトダイレクターとし、NVRC所長をプロジェクトマネージャーとしている。社会省の組織図は付属資料6に示した。NVRCは障害者の職業リハビリテーションの中核センターとして地方障害者職業リハビリテーションセンター(PSBD)を含む社会福祉施設の職員に対する研修を実施しているが、2001年に6つのPSBDのうち地方分権化の影響で3センターが地方政府の所轄となった。全国的な職業リハビリテーションシステムの構築には、障害者の実態を把握し、労働市場を分析し、双方の効果的なマッチングが必要であるが、これまでは広域な範囲を対象として活動が行われてこなかった。今後はPSBDやその他の関係機関との効果的な連携体制が必要であり、事業主、地方政府を含んだ組織的な対策が望まれている(図1-1参照)。

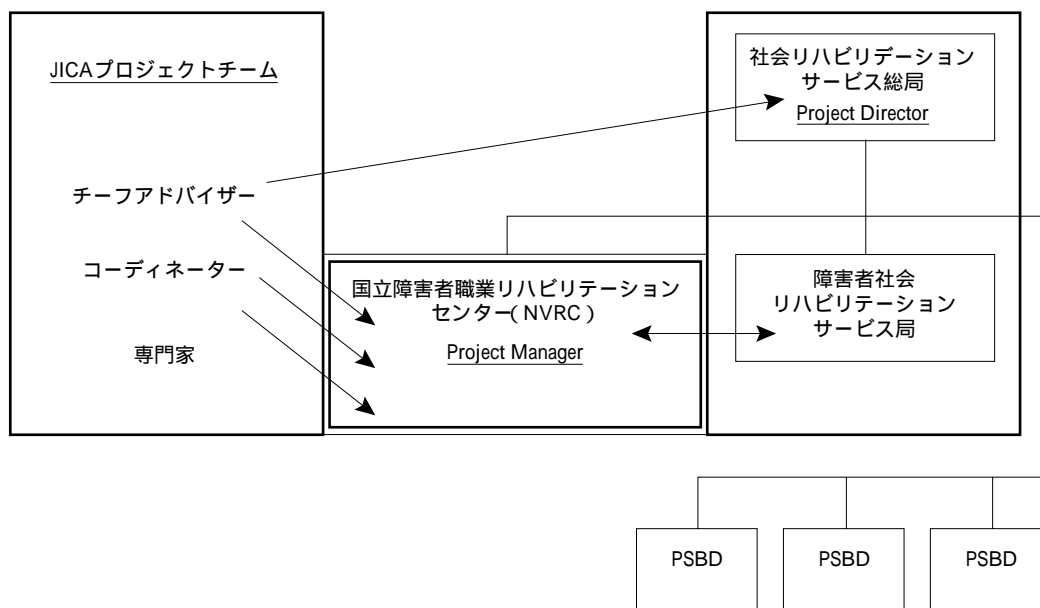


図1-1 プロジェクトの実施体制

第2章 終了時評価の方法

2 - 1 合同評価

日本側は本調査団、インドネシア側は下記のメンバーによる合同評価委員会を構成し、プロジェクトの合同評価にあった

< インドネシア側評価委員 >

Pudji Hastuti	Director General for Social Rehabilitation and Services, Ministry of Social Affairs
Suharno	Director of Social Rehabilitation and Services for Persons With Disabilities
Abdul Malik	The Head of Planning Bureau, MOSA
Abdul Rifai Mas	Director of NVRC

2 - 2 評価の枠組みとデザイン

本調査は、評価の枠組みとしてプロジェクト・サイクル・マネジメント(Project Cycle Management: PCM)の評価手法を取り入れた。PCM を用いた評価は、プロジェクトの諸要素を論理的に配置したプロジェクト・デザイン・マトリックス(Project Design Matrix: PDM)に基づいた評価のデザイン、プロジェクトの実績を中心とした必要情報の収集、「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「自立発展性」の5つの評価の観点(評価5項目)からの収集データの分析、分析結果からの提言・教訓の導出及び報告、という流れからなっている。なお、平成14年度より、JICA 事業評価ガイドラインが改訂されたため、本評価は、改定後の評価ガイドラインに準じている(PDM の構成要素：表2 - 1 参照)。

表2 - 1 PDMの構成要素

上位目標	達成されたプロジェクト目標の貢献が期待できる長期の開発目標
プロジェクト目標	プロジェクトの終了時まで達成されることが期待される中期的な目標であり、「ターゲットグループ」への具体的な便益やインパクト
成果	プロジェクト目標を達成するためにプロジェクトが実現しなければならない、短期的かつ直接的な目標
活動	成果目標を達成するために、投入を効果的に用いて行う具体的な行為
指標	プロジェクトの成果、目標及び上位目標の達成度を測るもので、客観的に検証できる基準
指標データ入手手段	指標を検証するためのデータソース
外部条件	各レベルの目標を達成するために必要な条件であるが、プロジェクトではコントロールできない条件
前提条件	プロジェクトを開始するために必要な条件
投入	プロジェクトの活動を行うのに必要な人員・機材・資金など

評価のデザインを確定するにあたり、討議議事録(Record of Discussions: R/D)、PDM(1997年11月にプロジェクト関係者が作成したもの及び2000年6月の運営指導調査時に改訂されたもの、その他プロジェクト関連文書、専門家報告書、四半期報告書などに基づき、終了時評価の実施要領を作成すると同時に、評価項目案(評価グリッド：付属資料4参照)を設定した。評価項目及び情報収集方法は、評価分析団員がプロジェクト関係者との協議を経て確定したものである。なお、本調査にあたっては、プロジェクト専門家及びカウンターパートに対する質問票によるサーベイとインタビューを行い、合同評価を実施した。主な検討項目は、表2 - 2 に示すとおりである。

表2 - 2 主な検討項目

大項目	中項目	主な検討事項
1. PDM 記載事項に係わる計画達成度	1-1 上位目標の指標数値の推移	職業リハビリテーションを受けた障害者の数、雇用されている障害者数の推移
	1-2 プロジェクト目標の指標数値の種類	NVRC訓練修了生の就職率(62%以上) NVRC訓練生のマガン受入企業への就職率(75%以上)
	1-3 各成果の指標数値の推移	NVRCへの予算の増加率、就職した訓練修了生の地域分布、研修コース数の推移、研修を受けた職員によるNVRC評価、研究発表回数等
	1-4 活動実績	それぞれの成果を達成するための活動実績
	1-5 投入実績	日本側及びインドネシア側の投入実績
	1-6 外部条件の推移	インドネシア政府社会省、地方自治体制、経済危機の影響など
2. 妥当性	2-1 上位目標の妥当性	上位目標は現時点でのインドネシア政府、社会省、我が国の援助方針などに合致しているか、していないとしたらその原因は何か。
	2-2 プロジェクト目標の妥当性	プロジェクト目標は現時点でのインドネシア政府及び社会省の政策、ターゲットグループのニーズに合致しているか、この目標は上位目標と整合しているか。また日本の援助政策と整合しているか。
3. 有効性	3-1 プロジェクト目標の達成度	上記1-2で調べた指標の実績からみてプロジェクト目標の達成度合いは期待された効果であったか。
	3-2 成果の達成がプロジェクト目標につながった度合い	各成果によって引き起こされた効果であったか。
	3-3 プロジェクト目標に至るまでの外部条件の影響	プロジェクト目標が達成されていないとしたらその原因は何か。外部条件の影響はあるか。
4. 効率性	4-1 成果の達成状況	上記1-3で調べた指標の実績からみて各成果はどの程度達成されたか。資源量に見合った成果が実施されているか。
	4-2 投入の妥当性	上記1-5で調べた投入の時期、質及び量は、成果達成のために妥当であったか。
	4-3 プロジェクト実施体制の妥当性	プロジェクト実施体制は成果達成のために妥当であったか。
5. インパクト	5-1 間接的・波及的效果	プロジェクトはインパクトを生み出したといえるか。上位目標に至るまでの外部条件の影響はあるか。
	5-2 予期しなかったプラス・マイナスの効果	政策、経済・財政、組織・制度、技術、社会、文化、環境等の視点からの効果は何か。
6. 自立発展性	6-1 組織・制度的側面	プロジェクトの効果は協力終了後も持続していくか。NVRCに対する支援の有無、社会省及びNVRCの組織体制、運営管理能力、また関連規制、法制度の整備はなされているか。
	6-2 財政的側面	NVRCの予算の見通しと政府からの財政支援は継続しているか。
	6-3 技術的側面	移転技術が維持・普及されているか。資機材は適切に維持管理されているか。

2 - 3 PDMの見直し・評価用PDM(PDMe)

本プロジェクトは1997年12月から協力が開始され、その後2000年6月に運営指導調査団が中間評価を行って、プロジェクト当初に作成されたPDM(PDMo)の見直しが行われ、改訂PDM(PDM₂)が作成された。今回の評価計画を立てるにあたっては、まずPDM₂を見直し、プロジェクトをとりまく環境の変化や活動の変化の有無を確認し、終了時評価のためのPDM(PDMe)を作成した(PDMo、PDM₂ は付属資料2参照)。この「PDMe」は、プロジェクトが最終的に意図したものと実施した活動を反映し、かつ包括的な評価を行うための基礎となるものである。基本的には現行のPDMを踏襲しつつ、現行のPDMにおいて具体的に示されていなかった前提条件、活動の外部条件を加えるとともに、成果の表現及び指標の一部に追加・修正を加え、投入についても計画どおり書き改めた。付属資料3.に「PDMe」の日本語訳を示す(修正箇所を下線で、追加項目は網目で示した)。

修正及び追加の内容は次のとおりである。

- (1) JICAのPCMにおいて、成果は達成された状態を表すことになっており、そのため、成果2について、文中の表現の“実施する”を“確立される”に書き換えた。
- (2) 項目1)と同様の理由で、成果3の文中の表現の“実施する”を“強化される”に書き換えた。
- (3) 項目1)、2)と同様の理由で、成果4の表現を“社会福祉施設等の職員が養成される”から“社会福祉施設等の職員の技能が向上する”に書き換えた。
- (4) 成果1の指標として、“職員の配置”、“定期的な運営委員会の開催”、“NVRCの組織図”を追加した。
- (5) 成果3の指標として、“研修コースの数の推移”を追加した。
- (6) 成果4の指標として、“新しく導入された研修技能の数、及び就職斡旋に関するセミナーやワークショップの開催数”を追加した。
- (7) プロジェクト目標から上位目標達成のための外部条件として、次の3条件を追加した。
 - ・ 募集、選考、就職斡旋に関する全国的なシステムが確立する。
 - ・ 地方のリハビリテーションセンターや関連機関の施設が適切に維持管理される。
 - ・ 民間企業の協力が得られる。

なお、中間評価時点にて指標として設定されたが、本評価時において情報収集が困難であることから、次の指標については日本側、インドネシア側調査委員合意の下に、本評価の指標として活用しないこととなった。

1 - 3 Specialities of Indonesian C/Ps (インドネシア側カウンターパートの専門性)

- 2 - 8 Adaptability of training courses to Magang (研修のマガンへの適応度)
- 4 - 5 Whether staff training is implemented along the policy (職員研修が政策に沿って実施されているかどうか)

2 - 4 情報の収集・分析・結論の導出等

(1) 情報収集

前述の評価デザインに従い、PDM 記載事項の実績データを中心に情報を収集した。使用した主な情報源は以下のとおりである。

- 1) ミニッツ、R/D、活動計画(Plan of Operation : PO)、専門家報告書、各種調査団報告書、会議議事録など
- 2) 終了時評価用 PDM(日本語訳は付属資料 3、オリジナルは付属資料 1. ミニッツ ANNEX 1 に添付)
- 3) 日本側及びインドネシア側の投入に関する記録(ミニッツ ANNEX 3 Achievement of the project に添付)
- 4) インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)及びプロジェクトにより作成された統計資料
- 5) 日本人専門家及びカウンターパートに対する質問票及びインタビュー

(2) 情報の分析

本評価調査では、質問票によるサーベイとインタビューによって日本側及びインドネシア側のプロジェクト関係者が共同で収集情報の整理と分析を行った。その結果を日本側、インドネシア側双方の関係者が、これまでの実績について認識を共有し、協力終了後の活動の方針が明確にされた。

(3) 結論の導出及び報告

本評価調査の分析結果をもとに、日本側及びインドネシア側関係者と協議を行い、その結果を英文の「合同評価」としたミニッツ(付属資料 1.)に取りまとめ、署名・交換した。

(4) その他

本評価調査に先立って6月24日、評価ワークショップ(表 2 - 3)を開き、インドネシア側カウンターパート、日本人専門家を対象に、終了時評価調査の目的、JICA プロジェクト・サイクル・マネジメント(JPCM)における評価手法の概要とプロジェクト・デザイン・マトリックスの説明及び評価用 PDM の確認を行った。また評価グリッドを確認し、活動実績の確認を行った。

表2-3 評価ワークショップの概要

日 時	2002年6月24日（日） 13：00～16：00
場 所	NVRC オーディオビジュアル室
目 的	<p>ワークショップの参加者にJICAプロジェクト・サイクル・マネジメント(JPCM)における評価手法の概要を理解してもらう。</p> <p>終了時評価用PDMを用いることにより、プロジェクトの上位目標、プロジェクト目標、成果、活動、それぞれの指標、外部条件、及び投入についての確認を行う。</p> <p>評価グリッドを説明し、プロジェクトの実績表(ACHIEVEMENT OF THE PROJECT)に基づいて必要な情報収集を行う。</p>
参 加 者	<p>カウンターパート(NVRCの職員)20名、日本人専門家4名 (モデレーター：評価分析団員、通訳及びアシスタント1名)</p>
主な作業内容	<p>終了時評価の概要、日程の確認</p> <p>JPCMにおける評価手法の概要とPDMの説明</p> <p>終了時評価用PDMの説明及び討議</p> <p>評価グリッドの理解</p> <p>活動実績の確認</p>

第3章 調査結果

3-1 プロジェクトの投入実績

(1) 日本側投入

1) 専門家派遣

日本側は、本評価時点までに延べ12名の長期専門家を派遣した。分野別にみると、チーフアドバイザー、業務調整員、職業指導・評価、職業訓練(金属加工、印刷、電子)及び職員研修の各分野である。短期専門家については、延べ22名を派遣している。その内訳は職業訓練分野では合計15名(印刷3名、縫製3名、小型エンジン4名、電子2名、コンピューター2名、機械加工1名)、職員研修1名、職業指導・評価2名、調査・研究4名となっている。

職業訓練の縫製とコンピューター分野はソロ・パイロットプロジェクトにおいて既に技術移転が完了していることから長期専門家は派遣せず、短期専門家の派遣で対応し、また調査・研究分野も討議議事録(R/D)においてインドネシア側が主体的に実施すると規定されていることから長期専門家は派遣せず、短期専門家の派遣で対応した。中間評価時点では暴動や政変等の不可抗力によってプロジェクトの進行が妨げられたことが指摘されたが、その後は専門家派遣がおおむね計画どおり実施されたといえる。(専門家派遣実績：付属資料7.(1)参照)。

2) 研修員受入れ

日本側は、本調査時点までに延べ26名の研修員を受入れた。年度別にみると、1997/1998年度が4名、1998/1999年度が5名、1999/2000年度が6名、2000/2001年度が5名、2001/2002年度が6名となっている。分野別実績をみると、プロジェクトマネジャー(社会福祉省所属)2名、調査・研究分野3名、職員研修3名、職業評価・指導4名、職業訓練14名(機械4名、電子4名、印刷3名、コンピューター1名、エンジン1名)となっている。(研修員受入実績：付属資料7.(2)参照)。

3) ローカルコスト負担

現地活動経費として、1999年度、2000年度、2001年度においてはインドネシア側の活動予算の不足を補うため、経済危機への救急援助(LLDC特別現地業務費)など日本からの支援措置が行われた。職業リハビリテーション普及促進セミナーを7都市で開催するため、現地適用化事業費を2000年度は213万6,000円取得して2都市で、2001年度は900万円取得し

て5都市で実施した。2002年度の現地活動経費の総額は1,890万9,000円となっている。詳細を付属資料7.(3)に示す。

4) 機材供与

日本側は、インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)の運営管理及び障害者職業訓練に必要とされる機材を、評価時点までに総額約2億1,700万円相当供与している。供与機材実績を付属資料7.(4)に示す。これとは別に専門家の携行機材として総額約1,412万円を支出している。この他に2億7,000万円相当の機材が無償資金協力にて供与されている。

(2) インドネシア側投入

1) カウンターパート(C/P)の配置

社会福祉省の解体に伴い、NVRCのスタッフの流出があり、121名であったスタッフは2000年に24名が他の組織に異動、7名が他の理由で流出している。インドネシア経済危機や政変の影響を受けて、主管官庁であった社会省が再び正式な組織として確立されたのは2001年8月、その後省内人事が固まったのは2001年11月のことであった。インドネシア側は、プロジェクト活動に必要なカウンターパートを本評価時点で65名配置している。カウンターパートの配置実績：付属資料7.(5)参照。

2) 施設設備

本プロジェクトの活動拠点となるNVRCは、ジャカルタの南約55kmの西ジャワ州ボゴール県チビノン市の中心部より約10kmのところであり、ジャカルタとボゴールを結ぶ幹線道路からのアクセスも便利なところに位置している。NVRCの建物はインドネシア側に土地の提供を受け、日本の無償資金協力によって建設され、1997年12月にインドネシア側に正式に引き渡された。敷地面積は5万m²で、2階建ての施設内には各分野の訓練室、講義室、視聴覚室、図書室、訓練生用宿舎(100名収容)、食堂、講堂、職員研修用の宿舎(36名収容)、日本人専門家執務室などがある。施設内はバリアフリーを考慮に入れた設計となっている。インドネシア側はプロジェクト活動に必要な、訓練室、研究室、会議室、日本人専門家執務室を提供した。さらに、総額計3億4,900万ルピア(約500万円)の設備を投入した。(設備投入の実績：付属資料9参照)。

3) 運営コストの負担

ローカルコストについては、インドネシア側はこれまでに総額計167億ルピア(約2億

3,860万円、人件費除く)を投入している。インドネシア投入予算の実績を表3 - 1に示すとおりである。1999/2000年度の開発予算が少額に査定されたため、1999年10月の運営指導調査団訪問時に国家開発企画庁(BAPPENAS)へ申し出た結果、2000/2001年度予算は増額となった経緯がある。また2001年度、2002年度においていずれも前年度比で約20%の増額となっている。しかしながら、職業指導・評価/社会復帰分野、職業訓練分野、職員研修分野、調査・研究分野において、恒久的に活動費が不足しているのが現状である。

表3 - 1 インドネシア側の予算措置 (単位:千ルピア)

	1997/1998	1998/1999	1999/2000	2000	2001	2002
予算に計上されている月数	4	12	8	12	12	12
通常予算	116,348	882,223	2,108,701	1,958,739	2,635,493	3,123,109
開発予算	1,998,617	770,760		500,000	350,467	400,000
OECFよりの借入	57,160	460,000	752,500			
特別予算	424,000	58,800				103,550
合計	2,596,125	2,171,783	2,861,201	2,458,739	2,985,960	3,626,659
月平均額	649,031	180,982	357,650	204,895	248,830	302,222
予算増加率(前年比)		-72%	98%	-43%	21%	21%

出所: NVRC総務部

3 - 2 活動実績

各活動の実績は4 - 2分野別評価の節に記載した。

3 - 3 成果の達成度

本評価調査において、各成果に設定された指標を基に成果の達成度を確認した。

成果(1) NVRCの組織と機能が確立される。

インドネシア政府主管庁である社会福祉省の解体に伴うNVRC職員の異動、流出と予算不足など外部条件の変化に影響されながらも、NVRCの活動はほぼ計画どおり実施されており、基本的な運営管理体制は確立されたといえる。

NVRCは障害者の職業リハビリテーションの組織として確立した。(組織図p.16:図3 - 1参照)。現在は総務部、職業リハビリテーション部、研修部、調査研究部が設立され、合計90名のスタッ

フが配置されている(指標 1-8)。R/Dにおいては121名のスタッフの配属が定められていたが、社会福祉省の解体に伴い、職員の他省庁への異動、その他の理由での職員の流出があったため、現在は90名である。社会省への聞き取り調査によると、職員の育成が図られたことにより、効率的かつ効果的な運営が可能となったので、現行の90名体制で当面運営をしていく方針とのことであった。また、組織運営のための種々の委員会が設立されている。これらの委員会リストは付属資料10に示すとおりである(指標 1-7)。一方、R/Dにおいては運営委員会(Steering Committee)は2か月に1度開催されることになっていたが、中間評価後2度開催されたのみであった。年1回の開催が規定されている合同調整委員会(Joint Coordinating Committee: JCC)についても、これまでのプロジェクト期間中に2度開催されたのみであった。プロジェクト運営に係る日本人専門家とインドネシア側カウンターパートとのコミュニケーションが円滑であったとはいえない。またアンケート調査においてもプロジェクトの計画、進捗に関して日本側とインドネシア側が情報を共有していなかったとのコメントがあった。

予算措置については2000年まで経済危機の影響が強く、この時期は通常予算のほかに海外経済協力基金(OECF・当時)からの借入れ、社会省からの特別予算割り当てがあった(指標 1-2)。表3-1(前掲)に示したとおり、2001年、2002年にかけては前年度比でいずれも21%の予算の増額があった。

プロジェクトのカウンターパートは付属資料8.に示すとおりで、所長1名、総務部1名、職業リハビリテーション部21名、職員研修部27名、調査研究部15名となっており、総勢65名である。1998年11月にNVRCが組織として承認されてから本評価調査(2002年6月)までのカウンターパートの在籍率は平均87%となっている(指標 1-6)。また、職員の出勤状況は、記録(1999年より実施されている)によると、職員欠勤率0.5%となっており、極めて良好である(指標 1-1)。本評価のアンケート調査によると、職員配置について、カウンターパートの適性にあった配置がなされていなかったというコメントがあった。

機材の維持管理については、おおむね良好であった(指標 1-4)。機材によって使用頻度は異なるが、どの機材も活用可能な状態に管理されており、整備状況は良好であった。機材リストと管理状況については付属資料7.(3)~(5)に示すとおりである。しかし2002年にコンピューター機器の盗難事故が2度発生し、コンピューター19台(うち2台はインドネシア側購入機材)とプリンター6台が盗まれている。この事故以降、高額な機材のある訓練室には窓枠に鉄格子が設置された。また安全管理委員会は月1度の巡回を実施していたが、盗難事故以降は警備員と男性職員による巡回が日中と夜間、毎日行われている(指標 1-5)。本来の機材の安全管理と同様、盗難等が発生しないための安全保管体制にも留意していく必要がある。(安全管理巡回の資料: 付属資料11. 参照)。

(National Vocational Rehabilitation Centre, Cibinoug) 総人員 90名

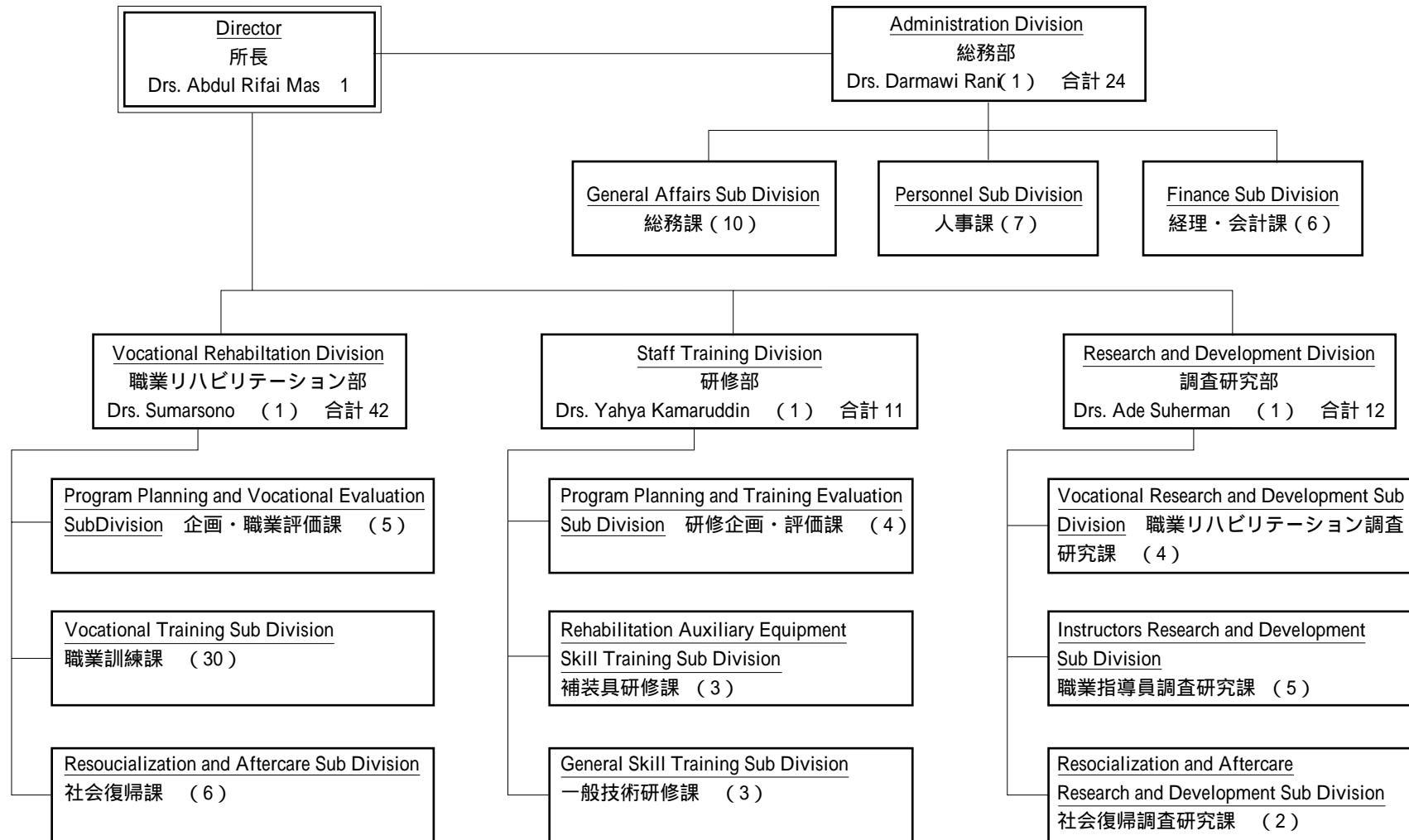


図3 - 1 国立障害者職業リハビリテーションセンターの組織図

成果(2)広域の募集・選考システム、職業紹介システムが確立される。

中間評価時において、職業斡旋システムが首都ジャカルタとその周辺の地域(Jakarta, BOgor, TAngerang and BEKasi :JABOTABEK)域内にとどまっていたことで、広域への展開がその後の課題であった。本評価時点での NVRC 修了生の就職先の地域分布によると JABOTABEK 域外の割合がやや増加の傾向になっていることが認められた。しかし、中間評価時点で問題視された企業開拓するための活動費(職員の交通費や宿泊費等)の不足、地方の労働事務所や他の関係機関の協力が十分に得られていないこと等は依然として課題となっている。

NVRC への応募者の推移を地域別にみると表3 - 2 のようになる(指標 2-1)。第2期生より NVRC に直接応募するようになり、その割合は年々増えている。第5期生では70%の応募者が NVRC への直接応募者である。

表3 - 2 出身センター別応募者分布の推移

センター名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
Medan	0	15	8	12	10
Palembang	20	22	28	31	32
Cengkareng	38	15	31	13	7
Bangil	22	26	0	25	0
Makasar	0	18	11	22	11
Solo	0	3	4	3	0
Timor	0	7	0	0	0
NVRC	0	85	81	87	133
Total	80	191	163	193	193

出所：NVRC職業リハビリテーション部

次に、選考を経て NVRC に入所した訓練生の出身センターの割合は表3 - 3 のとおりである(指標 2-2)。

表3 - 3 出身センター別入所者の分布の推移

センター名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
Medan	0	4	8	7	5
Palembang	10	19	19	17	19
Cengkareng	19	5	13	4	6
Bangil	11	20	0	16	0
Makasar	0	8	5	12	10
Solo	0	3	4	1	0
Timor	0	1	0	0	0
NVRC	0	41	51	39	58
Total	40	101	100	96	98

出所：NVRC職業リハビリテーション部

訓練生はNVRCでの訓練を終了後にマガン¹として企業で実施訓練をする。その後マガン受入先企業で雇用されるケースが多いが、NVRCからマガンを受入れる企業数は表3 - 4のとおり、増加の傾向にある(指標2-3)。

表3 - 4 マガン受入企業数の推移

	第1期生	第2期生	第3期生	第4期生
マガン受入企業数	18	32	43	37
日系企業の内訳	(2)	(9)	(8)	(8)

出所：NVRC職業リハビリテーション部

マガンが就職に結びつくケース(マガンと就職の適合率)を調査した結果、期ごとに適合率は上昇していることが確認された。また5コースのうち電子部門の修了生の適合率が高い。このことはNVRCでの訓練が市場のニーズに合致していることを裏づけている。(マガンと就職の適合率：付属資料12.参照)。

ケース会議はNVRCで 職業リハビリテーションを受ける訓練生を選抜する、 マガン受入れを決定する、 訓練終了後のNVRC卒業を確定するという3つの目的で毎年3回開かれている。この会議は、NVRC 所長、職業リハビリテーション部長、評価課職員、心理職員、訓練課所属のソーシャルワーカー、コーディネーター、社会復帰課職員と専門家が参加し、所長の指揮の下に行われている。これまで予定どおり毎年実施されている(指標2-4)。NVRCの訓練修了生の就職先の地域分布はJABOTABEK 域内と、域外を比較すると、徐々にではあるが、表3 - 5のとおり、JABOTABEK 域外への就職の割合が増えていることがわかる(指標2-5)。

表3 - 5 NVRC修了生の就職先への分布

	就職者総数	JOBOTABEK域内への就職者数	JOBOTABEK域外への就職者数
第1期生	30	18 (60%)	12 (40%)
第2期生	58	53 (91%)	5 (9%)
第3期生	72	60 (83%)	12 (17%)
第4期生	79	59 (75%)	20 (25%)

出所：NVRC職業リハビリテーション部

これはNVRC職員による職業斡旋活動が積極的に行われてきた結果であると思われる。NVRC職員はNVRC訓練生のマガンへの受入れについては職員が直接企業を視察訪問している。マガン受入れ後には職員が企業を視察、マガンとして就業しているときにも彼らの就業状況を視察し、指導している。また修了生が企業に就職後には文書発送、電話・テレックス等で問い合わせをし

¹ マガン(Magang)とは、職業リハビリテーション訓練の後、実施体験を得るために企業で2か月間訓練生として就業することになっている訓練生の呼び名である。

たあと企業訪問し、就職後のアフターケアを行っている(指標2-6、7)。(職業斡旋活動：付属資料13.参照)。

成果(3) 職業訓練が強化される。

本評価では、職業訓練は計画どおり実施されており、またカリキュラム委員会によって訓練内容の充実も図られて、職業訓練が強化されてきたといえる。今後 NVRC では訓練生を増加し、コースを拡充することも検討されており、更なる改善が期待される。

計画された研修生数が確保され、第1期生は40名、第2期生以降は100名が入所している(指標3-3)。第1期では計画どおりソロセンターから技術移転を受けたコンピューターと縫製の2コースが行われ、第2期生より電子、印刷、金属加工の3コースが新たに開始され、全5コースが計画どおり実施されてきた(指標3-5)。また、訓練時間はR/Dにおいて全コースとも1,000時間と規定されていたが、各コースのニーズに合わせて変更され、現行では全コースともに1,640時間となっている(指標3-4)。各訓練コースの現行カリキュラムを付属資料14.に示す。訓練内容については毎年カリキュラム委員会が開催され、市場のニーズを反映させるべく検討がなされており、カリキュラムの改訂はほぼ毎年行われている(指標3-2)。2001年11月に開催された2002年第5期職業訓練カリキュラム検討会議に関する資料を付属資料15.に示す。この結果、数多くの教材やマニュアルが作成されており、また今後も引き続き作成される予定である(指標3-1)。(コース別教材のリスト：付属資料16.参照)。

成果(4) 社会福祉施設等の職員の技能が向上する。

NVRC 及び社会福祉施設等の職員研修は職員研修ガイドラインを有効活用して実施された。NVRC の研修参加者からは研修時間を増強することが期待されている。また地方センター職員の研修参加を拡充して、NVRC の技術を普及していくことが今後の課題と思われる。

日本人専門家の指導により職員研修ガイドラインが作成された。ガイドラインには、研修原則、研修システム(訓練インストラクター研修、リハビリテーション職員研修、職業リハビリテーション総務職員研修)が詳細に記載され、職員の研修の指針として活用されている。研修教材やマニュアルは、このガイドラインに準じて作成されている(指標4-1)。職員研修ガイドラインの目次は付属資料17.に示すとおりである。このように職員の技能向上は図られつつあるといえるが、NVRC 職員からの聞き取り調査では、職員研修時間が不足しているため、職員研修時間を増加させるこ

とが技能向上に必須であるというコメントが多かった。職員研修の開催回数は年平均3回となっており(指標4-2)、参加者は地方の社会福祉施設やNVRCから毎年平均で60名ほどになっている(指標4-3)。(職員研修のリスト:表3-6参照)。

表3-6 職員研修の実績と今後の予定

	コース名	期間	参加者数
1998年	金属加工指導員研修	1週間	20名
	職業評価職員研修	8週間	35名
1999年	職業評価職員研修	2週間	20名
	電子指導員研修	10週間	5名
	縫製指導員研修	10週間	5名
2000年	社会復帰業務担当者研修	2週間	30名
	ソーシャルメーカー研修	2週間	20名
	コンピュータ科インストラクター研修	8週間	25名
	金属加工科(溶接科)インストラクター研修	8週間	20名
2001年	社会福祉施設研修	2週間	30名
	印刷科インストラクター研修	4週間	20名
2002年	職業アセスメント・ネットワーク職員基礎研修(1)	4週間	20名
	職業アセスメント・ネットワーク職員基礎研修(2)	4週間	20名
	(予定) NVRC/地方センターの インストラクター指導法研修(予定)	4週間	30名

出所:NVRC職員研修部

また初回の職員研修から、研修参加者の研修内容、研修講師に対する評価を実施しており、研修の質の向上が図られている(指標4-4)。2001年に実施された社会福祉施設研修の研修評価結果は付属資料18.に示すとおりである。また職業紹介を目的としたセミナーは2001年及び、2002年に7回開催されている。セミナーでは職業リハビリテーションの説明、啓蒙活動を目的として、地方政府、施設職員、NGO、事業主を対象に、障害者に対する職業リハビリテーションの必要性を説明している。と同時に事業主を招待し、障害者の雇用促進にも役立てるように配慮している。毎回90名ほどの参加者がいる(指標4-6)。(セミナー開催実績:付属資料19.参照)。

この職員研修については、地方分権化の導入によって、地方政府の管轄となった地方事務所、社会福祉施設との連携が困難になりつつある。今後はこれら地方政府との協力体制構築に努力していく必要がある。

成果(5) 調査・研究の機能が確立される。

調査・研究部門が設立され、種々の調査が実施された。調査結果を発展させて活動に織り込んでいくことが今後の課題である。また市場のニーズを把握する調査に焦点を当てていく必要がある。

これまで22件の調査が計画されたが、12件が実施されている(指標5-1)。R/Dに規定された研究分野のほとんどを網羅しているが、職業訓練評価・分析に関する調査はまだ行われていない。調査研究部門についてはインドネシア側の自助努力を前提としていたため日本人長期専門家による技術移転は行われず、短期専門家によって技術移転を実施してきた。現時点では実施した調査の結果を発展させて具体的な活動に取り入れていくレベルにはまだ達していない。今後は、障害者に対する市場のニーズを的確にとらえていくための調査に力をいれていく必要がある。これまでの調査研究実績は付属資料20.に示すとおりである。調査研究の成果発表はこれまでに6回行われた。成果発表のほかにNVRCのBulletin、Leafletの作成も行っている。NVRCのBulletinは年2回発行されるが、調査研究部が編集し、職業訓練印刷コースによって500部印刷・製本され、地方の社会事務所、センターに配布されている。発行経費等はNVRCで賄っており、これはNVRC内部の連携の大きな成果だといえる。参考としてBulletinのコピーは付属資料21.に示すとおりである。また、調査・研究部門ではNVRCの活動の広報についても貢献しており、NVRC活動のビデオを完成した。

3-4 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標NVRCにおいて、職業リハビリテーションシステムが確立されるインドネシアはほぼ達成されたといえる。NVRCでの職業リハビリテーションシステムは確立し、NVRC訓練修了生の企業での就業実績は良好である。プロジェクト目標に対する指標のうち、マガン受入企業へのNVRC修了生の就職率は第4期生では100%(JABOTABEK域内、域外ともに)を達成、また全修了生の就職率も第2期生より目標の62%を超えている。第1期生からのマガン受入企業へのNVRC修了生の就職率(指標1)と、修了生全体の就職率(指標2)は表3-7~9に示すとおりである。

表3-7 マガン受入企業への訓練生の就職率(JABOTABEK域内)

	マガン訓練生数	就職者数	マガン受入企業への就職率
第1期	28	18	64%
第2期	92	53	58%
第3期	85	60	71%
第4期	57	59	100%
合計	262	190	73%

出所：NVRC職業リハビリテーション部

表3 - 8 マガン受入企業への訓練生の就職率 (JABOTABEK域外)

	マガン訓練生数	就職者数	マガン受入企業への就職率
第1期	0	12	NA
第2期	3	5	100%
第3期	12	12	100%
第4期	12	20	100%
合計	27	49	100%

出所：NVRC職業リハビリテーション部

表3 - 9 NVRC修了生の就職率

	修了生数	就職者数	修了生の就職率
第1期	40	23	57%
第2期	96	61	64%
第3期	98	71	72%
第4期	94	75	80%
合計(平均)	328	230	(70%)

出所：NVRC職業リハビリテーション部

また、2002年6月時点におけるNVRC修了生の就業状況を確認したところ、期ごとに修了生の定着率も改善している。本評価時に訓練中であった第5期生に対してアンケート調査をした結果によると、NVRCでの訓練に対し86%が満足であると回答している(指標3)。問題点として指摘されたのは研修材料の不足であった。また今後NVRCに導入されることを期待している訓練コースとして工芸品、英語、料理があげられた。市場ニーズにあった訓練内容改訂の可能性はNVRC所長、社会省担当官からも示唆されており、今後更なる検討が必要と思われる。(訓練生アンケート結果：付属資料22.参照)。

また、マガン受入企業20社へのアンケートによると、訓練生の技能、就業姿勢等について75%は大変良好又は良好と回答している(指標4)。

修了生を採用の対象としている企業からのコメントは次のとおりである。

訓練生には従業員になりたいとの強い希望がある。

訓練生は一般的な従業員の候補者として、機械作業に従事するだけの能力と注意力を有している。

マガンにおける訓練生の勤務状況には満足している。

健常者でも経験のない者よりは、訓練を受けた障害者を雇用することのメリットの方が高い。

作業態度、能力面で優秀であり、即戦力と考えられる。

健常者を含め、これまで行った採用試験の合格者の中で最高得点者である。

訓練で習得したことが、当社でそのまま生かされている。

修了生を採用の対象としなかった企業からのコメントは次のとおりである。

採用計画の変更により採用に至らないが、能力的には満足している。来年度は受入れたい。

技術的な面及び従業員としての適性に満たない。

(アンケートの結果：付属資料 23. 参照)。

NVRC の設立後、政府関係者、社会福祉事務所、大学、医療機関が NVRC を視察している(指標 5)。

視察機関は 1999 年は 76 社(者)、2000 年は 15 社、2001 年は 26 社、2002 年はこれまで 16 社が訪問している。主な視察者のリストは付属資料 24. に示すとおりである。また日本人専門家による訓練指導の技術移転度について、各カウンターパートに調査した結果(自己評価によるもの)、インドネシア側カウンターパートの多くは移転された技術はおおむね習得できたとしている。技術移転の対象となった科目は金属加工 6 科目、電子 9 科目、印刷 6 科目、縫製 6 科目、コンピューター 4 科目である(指標 6)。

専門家による技術移転の結果は各成果の実績にそれぞれ反映されている。しかし自己評価における技術移転レベルはデータとしての客観性を期待できないため、本指標の結果は技術移転された分野を確認した参考データにとどめることとした。

3 - 5 上位目標の達成度

本評価時点では、インドネシア全国レベルでの職業リハビリテーションを受講した障害者の数及び障害者の就業人口を把握することは困難であったため、上位目標の達成度を図ることはできない。しかし、NVRC の修了生数及び修了生の就職率はプロジェクト期間中に明らかに向上していることから、本プロジェクトが上位目標に対して貢献していることは確認できた。本プロジェクトの上位目標の指標を測るシステムづくりを今後検討する必要があると思われる。

第4章 評価結果

4-1 評価5項目の評価結果

本節では、妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性という5つの観点(評価5項目)からプロジェクトの実績を分析し、課題を検討する。

4-1-1 妥当性

妥当性とは、プロジェクト目標及び上位目標が、受益者のニーズと合致しているか、援助国側の政策と日本の援助政策との整合性はあるか、など「援助プロジェクトの正当性」をみる評価項目である。

(1) インドネシア国政府の政策との整合性

インドネシアの障害者人口は約700万人(総人口の3.11%)と推計されているが、障害者に対するサービスは十分とはいえず、彼らの就業機会は限られている。このような状況の中で、1997年にインドネシア政府は「障害者に関する法律(法律第4号)」を制定し、障害者の権利と機会均等、社会参加を奨励した。また1998年には「障害者の福祉向上に関する政令」を制定し、各企業に総従業員の1%は障害者を雇用することを奨励し、障害者の雇用の促進に力を入れている。一方、1998年以降の経済危機は障害者の雇用促進を阻む大きな要因となり、また本プロジェクトの主管官庁であった社会福祉省の組織解体はプロジェクトの進捗を阻む大きな要因となった。しかし1998年には開発調整大臣並びに社会大臣より、インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)は組織として法的にEselon III¹の承認をされており、1999年には、大統領令83号によって社会省が障害者の雇用促進を含めた社会福祉改善のための調整役として指定される等、インドネシア政府は障害者の社会福祉改善を後押ししている。加えて、2000年～2004年国家開発計画(PROPENAS)において、障害者の社会能力を高め、生産力をもつ労働力とすることが、社会福祉プログラムの一環として掲げられており、障害者の職業リハビリテーションのニーズが増大していることから、NVRCへの応募者も年々増加している。これらのことから、本プロジェクトの上位目標及びプロジェクト目標はインドネシア政府の開発政策に合致し、また裨益者である障害者のニーズに合致しているといえる。

¹ Eselonとは管理職に与えられる格づけ(給与等級)であり、4ランクある。EshelonIが最高位となっている。この格づけがあがることによって組織の長がどのクラスにあるのか明らかになり、省内での組織の位置づけに影響を与える。具体的には、予算配分、省内意思決定における組織の位置づけが有利になる。

(2) 受益者のニーズとの整合性

インドネシアでは障害者の職業リハビリテーションのニーズが拡大しており、NVRCではプロジェクト開始後、年々入所希望者が増大している。第3期、4期においては入所訓練生枠100名の2倍の障害者が応募している。

(3) 日本の援助政策との整合性

JICAの国別事業実施計画において、社会福祉と労働環境の整備が社会開発における重点分野の1つとされていることから、本プロジェクトの上位目標及びプロジェクト目標は我が国の対インドネシア援助政策との整合性もあり、計画の妥当性は高いといえる。

4 - 1 - 2 有効性

有効性とはプロジェクト目標が期待どおり達成されているか、それが成果の結果もたらされたものであるかどうかを見る評価項目である。

(1) プロジェクト目標の達成度

第3章に見たとおり、NVRCにおける職業リハビリテーションシステムが確立され、NVRC修了生の就業実績は企業からも高く評価されるようになってきたことから、プロジェクト目標はほぼ達成されたといえる。

(2) 成果の達成がプロジェクト目標につながった度合い

5つの成果はプロジェクト目標達成に貢献している。成果1では、NVRCの組織・機能が確立され、応募者数も年々増加している。成果2では、NVRC修了生の就職率は向上しており、また彼らの就職先での業務実績は企業側から高い評価を受けるようになってきた。今後は広域への就職斡旋について焦点をあてていくことが重要と思われる。成果3については、職業訓練は計画どおり実施され、カリキュラムについては市場ニーズを反映させる努力も行われている。成果4については、職員研修ガイドラインを有効活用しながら、社会福祉事務所の職員の技能向上が図られている。職員研修の時間を更に増強することが期待されている。成果5については、調査研究部門が確立され、有効な調査が実施された。今後は研究成果を発展させて、具体的に活動に織り込んでいくことが期待されている。このように、NVRCの組織、訓練、調査研究のすべての分野にわたる改善が、職業リハビリテーションシステムの確立に有効的に結びついたといえる。

(3) 成果の達成がプロジェクト目標につながるのを阻害した要因

上述したとおり、本プロジェクトのプロジェクト目標はほぼ達成されており、深刻な阻害要因は認められない。一方、インドネシアの経済危機と政情不安に伴う政府関係省庁の再編、及び地方分権化が、プロジェクトの進捗を阻害した要因となったことは事実である。プロジェクトの所轄官庁である社会省は2001年11月によりやく組織編成が完了した。地方分権化によって地方の社会福祉事務所との協力関係の構築が困難になりつつあるため、今後地方政府や労働移住省等の関係省庁の連携体制構築が重要である。

4 - 1 - 3 効率性

効率性とは投入と成果の関係性を調べることによってプロジェクトの資源の有効活用ができていのかどうかをみる評価項目である。各成果の達成度及びそれに対する投入の手段、方法、時期・期間を検討した結果、プロジェクト実施の効率性はほぼ満足できるレベルに達しているといえる。

(1) 投入の妥当性

1) 日本側の投入

専門家派遣 専門家派遣時期、派遣専門家数、専門家の技能はおおむね妥当であった。しかし派遣分野については、アンケート調査によると縫製、コンピューター、調査研究分野にも長期専門家を派遣すべきであったとの意見が多く聞かれたように、より多岐にわたる訓練ニーズに応えることがより効果的であったと考えられる。

機材供与 投入された機材については、おおむね適切に利用されている。また機材によって使用頻度は異なるが、どの機材も活用可能な状況に維持管理されており、整備状況は良好であった。

研修員受入れの妥当性 研修内容、期間、派遣時期はいずれも適切であったが、インドネシア側からは日本での研修機会の増加を希望する声が多く聞かれた。

ローカルコスト負担の妥当性 経済危機の深刻な影響に対して、日本側から特別予算の割り当てがあり、緊急事態の打開に効果的であった。

2) インドネシア側の投入

人員の配置 経済危機に伴う政府省庁の再編成の影響で111名中24名のカウンターパートが他の組織等に異動している。またカウンターパートの配置が適材適所ではないため効率性が低い部分もあった。

プロジェクト事務所・施設提供措置 JICAのプロジェクト事務所はNVRCの2階部分にあり、プロジェクト活動に必要なスペースと機能が与えられており、適切であった。

運営コスト負担 予算は2001年より前年度比で約20%増加しており、インドネシア側の財政確保努力が認められ、それらは効率的かつ有効に活用された。しかしながら、プロジェクト終了後も現行の活動を維持していくには、今後は研修材料費、機材維持管理費、就職斡旋に係る経費等を捻出する更なる努力が必要である。

(2) プロジェクト支援体制

政府関係省庁の再編のため、合同調整委員会(JCC)はこれまでに2度開催されただけである。また、実務レベルの運営委員会(Steering Committee)は中間評価後に2度開催されたのみで、プロジェクト支援体制は効率的に機能していたとはいえない。

4 - 1 - 4 インパクト

インパクトとはプロジェクト実施によりもたらされる、より長期的、間接的効果や波及効果を見る評価項目であり、プロジェクト計画時に予期しなかった正・負のインパクトも含んでいる。

(1) 間接的・波及的効果

プロジェクトの上位目標である国レベルでの障害者の雇用状況改善については、データがないため厳密に把握することはできないが、NVRCの訓練修了生においては、第1期から第4期まで就職率は期ごとに上昇しており、プロジェクトはインドネシアにおける障害者の雇用状況の改善に貢献してきたといえる。

(2) 予期しなかったプラスの影響

本プロジェクトのプラスのインパクトとして次のことがあげられる。障害者の職業リハビリテーションという新しい概念が首都ジャカルタとその周辺地域(JABOTABEK)内の企業や地域社会に浸透しつつあること、NVRC訓練修了生の就職先での実績や規律正しい就業態度が評価され健常者の同僚の就業意欲を高める結果にもなっていること、障害者自身が働くことによって自信をもちはじめ、障害者の勤労者としての能力が認められつつあること。

(3) 予期しなかったマイナスの影響

本プロジェクトのマイナスのインパクトとしては、NVRC訓練修了生の多くがJABOTABEK域内への就職を希望するため、当該地域の就職競争が激化する傾向になっていることがあげられる。

4 - 1 - 5 自立発展性

自立発展性とは我が国の協力が終了した後も、プロジェクト実施による便益が持続されるかどうかを検討する評価項目である。

(1) 組織的側面

NVRCにおいて職業リハビリテーションシステムを確立するというプロジェクト目標はインドネシア政府の政策に合致しており、障害者の職業リハビリテーションのニーズは拡大している。また、NVRCの活動には、地方センターや社会福祉機関の関心が高まっており、NVRCに対する政府や関連機関からの支援は今後も継続されると思われる。

(2) 財政的側面

インドネシア政府はこれまでNVRCへの予算獲得、拡充に尽力してきているが、本プロジェクトによって得られた成果を継続させ、向上させていくには、今後更なる財源確保が必要である。特に研修材料費、機材維持管理費、就職斡旋等についての財源確保が重要である。

(3) 技術的側面

インドネシア側カウンターパートへの技術移転は、計画どおり進展してきたといえる。今後は職員研修を拡充し、日本人専門家から習得した技術を職員間で普及させていく努力が必要である。

4 - 2 分野別評価

各分野別の評価を、それぞれ表形式でまとめた。

4 - 2 - 1 センター運営管理

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 1名 (計2名) 2. 短期専門家 0名 (計0名) 3. カウンターパート研修 1名 (計2名) 4. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等 (各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 1名 (計1名) 2. 予算措置 7,701,405,000Rp (1997~2001年) (各コース共通) 3. 土地・建物: NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. NVRCの組織、体制の整備及び施設、設備の整備を完了した。 2. NVRCの運営体制確立のために、NVRC合同調整委員会(JCC)をはじめとして、運営委員会、部長会議を設置した。また、カリキュラム整備のためのカリキュラム委員会と施設防犯のための安全委員会(1999年)を設置した。 3. 機材の維持管理責任者を任命し、維持・管理体制を確立した。 4. カウンターパートを適切に配置した。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織、体制の整備については、整備されてはいるものの、社会省へと移行(1999年)する際に、NVRCの職員に他省への移動が許され、24名がこれを希望し、(このうちカウンターパート研修受講者1名を含むカウンターパート3名含む)現在の職員数が90名と当初の予定(121名)を下回る状況にある。カウンターパートの何人かは補充されているが、カウンターパートとなるべき幹部職員(職員研修部長)については4か月間未着任状態が続いている。カウンターパートの配置については運営上大きな支障はないものと思われるが、幹部職員については早急に対応が図られるべきであろう。社会省としては職員の育成が図られたことにより、効率的効果的な運営が可能になったので、現行の90名体制で当面運営していくこととしたいとの説明があった。定員は減になっているものの組織の格づけには変更がないとのこと。 2. 運営体制としては、(1)運営委員会(2~3か月に1回、プロジェクト参加)及び部長会議が開催されているが、合同調整委員会は、社会省が社会庁へと移行した時期から開催されていない。(2)カリキュラム委員会では2002年4月のものを含め4回のカリキュラムの改訂を実施している。(3)盗難事故が2度発生しており、コンピューター19台(うち2台はインドネシア側購入機材)とプリンター6台が盗まれた。このため、高額な機材のある訓練室等については窓枠に鉄格子をはめ、警備員5、6名及び職員若干名による巡回(7時までは2名、7時以降は5、6名のチーム編成)、警備員の警察での研修(2回/週を3か月間)の実施などの対策が講じられている。盗難による機器の不足のため、訓練生複数で1台の機器を利用するなど訓練等への影響が出ているものの、この対策実施以降には盗難被害は発生していない。 3. 機材維持管理については、責任者を決め、対応を具体的に定めてはいるものの、恒常的な維持管理経費の不足により、頻繁な断水、訓練機器の未修理等の状況が常時みられる。また施設的设计上照明設備などにやや管理しにくい面もある。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. インドネシアにおける職業リハビリテーションシステムの中核となるべき施設の運営としては、一定の成果をあげており、プロジェクト目標はおおむね達成されているといえる。現在の施設運営体制により当面は障害者の雇用促進に資することができるが、障害者の障害内容、あるいは産業の動向等を見据えながら自立発展することが期待される。システムとしては今後更なる機能向上が望まれる状況である。達成状況を遅らせることとなった要因の1つとして、度重なるインドネシア国社会省を含む行政組織の改編に加え、地方分権化等の影響により、社会省の対障害者政策、特に職業リハビ

	<p>リテーションに関するものが具体的に定められなかったこと、またNVRCの運営のための関係省庁、機関との連携が十分に図られなかったことなどがあげられる。ただし、研修講師の派遣などの労働移住省本省との関係は改善され、良好に保たれている。</p> <p>2. 職業リハビリテーションシステムではそのときどきの障害者の状況と、労働市場とを分析し、個人を尊重しつつも効果的なマッチングを計画しなければならないが、今後PSBDやその他の関係機関との効果的な連携体制が望まれ、特に職場開拓を含んだ対事業主への活動が、地方政府も含み、組織的かつ自主的に行われることが不可欠である。</p> <p>3. 各カウンターパートの専門性の向上が図られたが、さらに専門職としての位置づけを明確にし、NVRCの自立発展性を向上させる必要がある。現在確認されている資格制度としては訓練指導員(労働移住省)、調査員(人事院ほか)などがあるが、職業評価あるいは職場実習先開拓などを含めた業務に携わる職員の専門性について、社会省自らが制度化することが必要ではないか。</p>
--	---

4 - 2 - 2 調査研究

計画達成度

1. 投入実績	<p>(日本側)</p> <p>1. 短期派遣専門家 2名 計3名 2. カウンターパート研修 2名 計3名 3. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通)</p> <p>(インドネシア側)</p> <p>1. カウンターパート配置 8名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997~2001年)各コース共通) 3. 土地・建物：NVRC施設、土地</p>
2. 活動実績	<p>1. 短期専門家による調査、研究手法の技術移転を中心に活動が行われた。</p> <p>2. 調査研究は22本計画され、このうち13本(1998年3本、1999年1本、2000年3本、2001年3本、2002年3本)が実施された。報告書は各研究調査で平均50部程度作成され、社会省、労働移住省、地方障害者職業リハビリテーションセンター(PSBD)、JICA事務所、事業主団体等に配布された。</p> <p>3. 調査研究以外にNVRC広報用のパンフレットの作成や、図書館の管理も調査研究部門の業務と位置づけられている。このほか定期的(年2回)に発行する広報誌があり、500部を関係諸機関に配布している。</p> <p>4. 広報活動も兼ねた展覧会を年2回程度実施している。関係機関の要請(労働移住省からのもの)を受けて出展したものもある。</p>
3. 成果の達成状況	<p>1. 調査研究は基本的な内容にとどまるものの、確実に実施され、調査手法の習熟、向上がなされている。</p> <p>2. 長期専門家の派遣はなかったが短期派遣専門家の協力を得て、独自に調査を企画することができている点については、評価できる。</p>
4. プロジェクト目標の達成状況	<p>調査研究部門としては長期専門家の派遣がなかったが、基本的な調査を行う体制は整えられた。</p> <p>しかしながら現在専門職として認められた調査員がいないため、すべての調査研究は本省の調査研究部門の承認が必要となり、進行状況を逐次報告する必要がある。</p> <p>このためさらに基礎調査を行い、調査研究機関としての実績を重ねつつ、調査員の育成を図り、公的な調査研究機関としての位置づけを明確にする必要がある。</p> <p>本来は政策支援や自立発展性の要となるべき部門であるが、このような意味では十分な目標達成とはいえない。</p>

4 - 2 - 3 職業訓練

(1) 金属加工

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 1名 (計2名) 2. 短期専門家 3名 (計5名) 3. カウンターパート研修 1名 (計5名) 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 7名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練計画を作成した。 2. 金属加工コースのカリキュラムを作成した。 3. カリキュラムに必要な訓練用教科書21種を作成した。 4. 長期専門家及び小型エンジン・機械加工の短期専門家による実習機器の訓練が行われた。 5. 機械加工カウンターパートの日本研修を実施した。 6. インストラクター7名が指導にあっている。 7. これまでに56名(第1期21名、第2期20名、第3期15名)が訓練を受けた。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練計画に基づいて職業訓練が実施されている。また、カリキュラム検討委員会が毎年実施され、企業ニーズなどにより翌年度のカリキュラムが決定されている。 ・教材の整備はほとんどの科目で終わっている。 ・技術移転は機械加工仕上げの専門分野を残し、ほぼ終了している。 ・機器の保守・管理は十分行われており、軽微な故障の修理ができる。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の技術能力はほぼ充足しており、訓練実施に問題はない状況になる。 ・教材の作成も終わっており、現行の訓練を継続して実施することに問題はない。 ・金属加工・機械加工・小型エンジンの訓練時間数と指導員配置とのバランスがとれていないため、調整が必要である。

(2) 電 子

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 1名 (計2名) 2. 短期専門家 1名 (計2名) 3. カウンターパート研修 1名 (計4名) 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 5名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物 NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練計画を作成した。 2. 電子コースのカリキュラムを作成した。 3. カリキュラムに必要な訓練用教科書9種を作成した。 4. 長期専門家及び空調冷凍の短期専門家による実習機器の訓練が行われた。 5. 電子計測等カウンターパートの日本研修を実施した。 6. インストラクター5名が指導にあっている。 7. これまでに60名(第1期16名、第2期22名、第3期22名)が訓練を受けた。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練計画に基づいて職業訓練が実施されている。また、カリキュラム検討委員会が毎年実施され、企業ニーズなどにより翌年度のカリキュラムが決定されている。 ・ 技術移転はデジタル分野の制御技術分野を残し、ほぼ終了している。 ・ 教材の整備は、PLCなどの制御技術に係る科目を除き、ほとんどの科目で作成が終了している。 ・ 機器の保守・管理は十分行われており、一部の訓練機器についてカウンターパートが修理できる。また、修理用部品の入手方法も可能となっている。
<p>4. プロジェクト 目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導員の技術能力はプロジェクト終了時には充足する予定で、訓練実施に問題はない。 ・ プロジェクト終了時には教材の作成を終える予定となっており、現行の訓練を継続して実施することに問題はない。

(3) 印刷

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 1名 (計1名) 2. 短期専門家 2名 (計3名) 3. カウンターパート研修 2名 (計3名) 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 4名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練計画を作成した。 2. 印刷コースのカリキュラムを作成した。 3. カリキュラムに必要な訓練用教科書6種を作成した。 4. 長期専門家及び印刷短期専門家による実習機器の訓練ではグラフィックデザインソフトを使った実習が行われた。 5. グラフィックデザインを専門とするカウンターパートの日本研修を実施した。 6. インストラクター4名が指導にあっている。 7. これまでに58名(第1期22名、第2期17名、第3期19名)が訓練を受けた。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練計画に基づいて職業訓練が実施されている。また、カリキュラム検討委員会が毎年実施され、企業ニーズなどにより翌年度のカリキュラムが決定されている。 ・技術移転は、印刷工程の専門分野を残し、ほぼ終了している。 ・教材の整備は、印刷工程を除き、ほとんどの科目で教材の作成を終えている。 ・機器の保守・管理については、複数の供与機材が盗難にあった。 ・数台の機材が故障した際に、インドネシア国内の代理店により修理が行われた。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の技術能力は一部の機器操作を除き充足している。現行のカリキュラムでの訓練実施に問題はない。 ・プロジェクト終了時には教材の作成を終える予定になっており、現行の訓練を継続して実施することに問題はない。 ・機器の保守・管理については、複数の供与機材が盗難にあうなど保守・管理体制の強化・維持が必要であり、また、円滑な訓練実施の確保のためには機材の補充が必要である。

(4) 縫 製

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 0名 2. 短期専門家 1名 (計3名) 3. カウンターパート研修 0名 (計1名) 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 5名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練計画を作成した。 2. 縫製コースのカリキュラムを作成した。 3. カリキュラムに必要な訓練用教科書5種を作成した。 4. 短期専門家による縫製技能指導及びミシン維持管理方法が指導された。 5. 縫製カウンターパートの日本研修を実施した。 6. インストラクター5名が指導にあっている。 7. これまでに87名(第1期20名、第2期22名、第三期23名、第4期22名)が訓練を受けた。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<p>訓練計画に基づいて職業訓練が実施されている。また、カリキュラム検討委員会が毎年実施され、企業ニーズなどにより翌年度のカリキュラムが決定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の整備は、ほとんどの科目で終わっている。 ・技術移転はすべての専門分野で終了している。 ・機器の保守・管理は十分行われており、故障した機器についても短期専門家からの技術移転より修理が行われていた。
<p>4. プロジェクト 目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の技術能力は充足しており、訓練実施に問題はない。 ・教材の作成も終わっており、現行の訓練を継続して実施することに問題はない。 ・軽微な修理は指導員が自らできるものの、いくつかの機材が故障したまま修理されていない。短期専門家の派遣期間が短かったことがひとつの要因であるといえる。

(5) コンピューター

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 0名 2. 短期専門家 2名 (計3名) 3. カウンターパート研修 1名 (計1名) 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 4名 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業訓練計画を作成した。 2. コンピューターコースのカリキュラムを作成した。 3. カリキュラムに必要な訓練用教科書8種を作成した。 4. 短期専門家によるソフトウェア実習機器の訓練が行われた。 5. コンピューターカウンターパートの日本研修を実施した。 6. インストラクター4名が指導にあっている。 7. これまでに76名(第1期20名、第2期20名、第3期18名、第4期18名)が訓練を受けた。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<p>訓練計画に基づいて職業訓練が実施されている。また、カリキュラム検討委員会が毎年実施され、企業ニーズなどにより翌年度のカリキュラムが決定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術移転は、ネットワーク構築技術を残し、ほぼ終了している。 ・教材の整備は、ほぼ半数の科目のテキストの作成を終えている。 ・機器の保守・管理については、複数の供与機材が盗難にあった。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の技術能力は一部を除き充足しており、現行のカリキュラムでの訓練実施に問題はない。 ・プロジェクト終了時までには教材の作成を終えるため、これまで以上に取り組みを強化する必要がある。 ・供与機器について、IT技術の急速な進展で機器の陳腐化が急激に進んでいることから、企業ニーズに応えにくい。 ・機器の保守・管理については、複数の供与機材が盗難にあうなど保守・管理体制の強化・維持が必要であり、また、円滑な訓練実施の確保のためには機材の補充が必要である。

4 - 2 - 4 職業指導・評価

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 鈴木瑞哉、田中章夫 計2名 2. 短期専門家 緒方昭一郎、奥村博志 計2名 3. カウンターパート研修 4名 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 12名(2002年度現在：9名) 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6か所(メダン、パレンバン、チェンカレン、バンギル、マカッサル、ソロ)のPSBD、社会省地方事務所(現地方政府担当部局)、LBK(郡レベルのワークショップ)等を通じて訓練生の募集が行われた。 2. NVRCの応募者は、居住地近くのPSBDで職業評価を受け、その内容がNVRCに送られるという広域の訓練生募集システムが確立された。PSBDで実施される職業評価の内容は、毎年改定され、応募者の1次評価として有効に活用された。 3. NVRCで行う職業評価(2次評価)のテストバッテリーが改訂(GATB適性検査の導入)され、試行実施された。 4. 事業主への啓発活動のための調整会議(出席者はPSBDの所長、地方事務所の担当者等)が開催され、マガン及び就職受入企業の開拓が行われた。 5. 訓練終了生を出身地でも就職させられるよう、新たな社会復帰システムの検討が始められた。 6. 就職した卒業生に対する追跡調査が行われた(調査研究部門が実施)。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソロで開発された職業リハビリテーションシステム(職業評価・指導、職業紹介、アフターケア)が実施され、改訂・改善が行われている。 ・ 広域の訓練生募集システムについては、うまく稼働しており毎年定員を上回る応募がある。また、応募に係るPSBDでの職業評価(広域にわたる職業評価システム)も問題なく行われており、1次評価として有効なデータがNVRCに提供されている。ただ、5期生の募集において、特定のセンター(ソロ)からの応募が0名となっている状況がある。 ・ 就職斡旋(職業紹介)システムについては、これまで首都ジャカルタとその周辺(JABOTABEK)地域を中心に行われていた職場開拓に加え、新たに訓練生の出身地をもターゲットにしたシステムの開発が取り組み始められている。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<p>職業指導、評価担当職員が養成され、広域の募集システム、評価システムが順調に動いている。</p> <p>しかし、就職斡旋システムに関しては、社会省の度重なる組織改革のあおりを受け、地方政府や労働省等の十分な協力を得られず、NVRC単独の活動にとどまっている。</p>

4 - 2 - 5 職員研修

<p>1. 投入実績</p>	<p>(日本側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長期専門家 谷口大司 計1名 2. 短期専門家 金澤恭子 計1名 3. カウンターパート研修 3名 4. 予算措置 5,480万6,000円(1997～2001年)〔各コース共通〕 5. 機材供与 教育用訓練機材、試験検査用機器、特殊工具等(各コース共通) <p>(インドネシア側)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンターパート配置 12名(2002年度：11名) 2. 予算措置 7,701,405,000Rp(1997～2001年)〔各コース共通〕 3. 土地・建物：NVRC施設、土地
<p>2. 活動実績</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修ガイドブック、研修実施指針が策定された。 2. 研修教材(「医療リハビリテーションの基礎」、「職業指導」)が作成された。 3. NVRCにおいて、NVRC職員、PSBD職員等を対象とする研修が行われた。 4. 事業主、地方政府職員、施設職員、NGO職員等を対象とした職業リハビリテーションセミナーが開催された。
<p>3. 成果の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業リハビリテーション職員、職業訓練指導員を対象とした研修要綱、カリキュラムが策定、作成された。 ・ ワークショップ/セミナーとして、職員研修が開催された。それぞれの研修の趣旨・目的は明確にされているが、研修によっては参加者の職種にばらつきがみられ、研修効果の点で今後検討を要する面もあった。 ・ インストラクターの養成に係る研修では、労働省と連携した研修が行われている。
<p>4. プロジェクト目標の達成状況</p>	<p>職員研修担当職員は養成されたと考えられるが、研修を実行するための予算が十分に確保されておらず、体系的、段階的に実施されるまでには至っていない。</p> <p>職員研修に係る指導技術、管理技術の技術移転は行われているものの、評価技法の具体的実施に関しては、体系的、継続的に研修が実施されていないため、その効果に関しては不明である。</p> <p>また、地方からの研修生のリクルートに関しては、社会省の地方事務所がなくなり、地方政府の担当部局が行うようになったため、適切な人材の選定に問題を残している。</p> <p>研修教材の開発に関しては、ソロ・プロジェクトを含めた職業指導・評価、職業訓練等の活動の中で各種の技術指導書が作成されており、これらを研修教材として活用するとともに、今後更なる教材の開発が望まれる。</p>

第5章 総括

5-1 結論

インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンターにおける職業リハビリテーションシステムの確立に対し、本プロジェクトは、効果的・効率的に寄与した。よって、本プロジェクトは、プロジェクト期間終了までに PDMe における目標を達成できると考えられる。

ただしインドネシア側より、職業リハビリテーションを広域にわたり確立するために、プロジェクトを1年延長することが JICA に対して要請された。その内容は5-4節(ミニッツでは4. CONCLUSION AND RECOMMENDATION / OTHERS)に記載のとおりである。

5-2 提言

インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンター(NVRC)の持続的発展のために以下の事項の確実な履行が必要である旨、調査団とインドネシア側とで合意された。

(1) NVRC の開発政策の確立

社会省は、他の関係機関・省庁との連携調整を通じて、インドネシア唯一の国立職業リハビリテーションセンターである NVRC の組織強化に努める必要がある。

- 1) 社会省は労働移住省並びに他の関係省庁、地方政府、事業主団体、他の福祉施設等との連携の下、NVRC の運営に関するビジョンを打ち出す必要がある。
- 2) NVRC がセンターオブセンターとして他の福祉施設職員の訓練を行うために、必要な数のインストラクターが NVRC に配置される必要がある。
- 3) 他の社会福祉施設の職員に対する研修が体系的・段階的に継続される。
- 4) NVRC の調査研究部が社会省の調査研究部門から独立し、自発的・自立的な調査研究を行うことのできる機関となる。

(2) 就職斡旋、職員研修、機材等の維持管理(スペアパーツを含む施設整備)、研修用資材(消耗品)及び研究開発等の活動が円滑に行えるよう、NVRC の活動に係る予算を継続的に措置する必要がある。

(3) NVRC における職業訓練が一定水準を満たしていることが客観的に評価されるために、職業リハビリテーションに関する国レベルの訓練基準(訓練科目、訓練設備、職業訓練指導員

の認可等)を策定する必要がある。

- (4) インストラクター配置が不足している部門について、早急に必要数を配置する必要がある。また、非常勤インストラクターについては、正規インストラクターとして採用する必要がある。

5 - 3 教 訓

- (1) 障害者の職業リハビリテーションの企画及び実施にあたっては、訓練生である障害者側の条件(障害の種類並びに程度、希望職種、適正等)及び受入企業側の市場ニーズ(障害者雇用の可能性をもつ職種、職務、求められる職能)を調査し、施策に柔軟に反映させる体制を構築することが望ましい。
- (2) 長期専門家が不在の分野を中心に短期専門家が各1～2か月の任期で投入されたが、技術移転を遂行するためには時間的に不十分であったことが懸念される。短期専門家の任期を延長することが望ましい。

5 - 4 その他

インドネシア側より本調査団に対し以下の考えが提示された。

- (1) インドネシア政府は、NVRCの職業リハビリテーションシステムを今後6州の地方リハビリテーションセンターに拡大発展させるため、1年間プロジェクト延長をJICAを通じて日本政府に要請する手続きをしている。
- (2) インドネシア社会省は、今後NVRCでの収容人員を100名から150名に拡大したいと考えている。これは、インドネシアにおける障害者の8割を占める小学校卒業レベルの障害者を受け入れるためである。このために、NVRCの宿舍を拡張し、手工芸や籐製品の職業訓練導入を図っていく予定である。

日本側調査団はインドネシア側に対して、上記(1)の新たな要請については内容を更に明確にしたうえで、今後の申請手続きを含め、JICAインドネシア事務所に相談するよう助言した。

付 属 資 料

1. ミニッツ
2. PDM₀ 及び PDM₂
3. 終了時評価用 PDM(PDM_e : 和文)
4. 評価グリッド
5. プロジェクト形成の経緯
6. 社会省関連組織図
7. 日本側投入実績(専門家派遣、研修受入れ、現地業務費、機材供与)
8. カウンターパート配置実績
9. 設備投入実績
10. NVRC 委員会一覧
11. 安全管理委員会巡回状況
12. マガンと就職の適合率
13. 就職斡旋活動
14. 各訓練コースのカリキュラム(2002 年度)
15. 2002 年第 5 期職業訓練カリキュラム検討会議内容
16. 作成教材リスト
17. 職員研修ガイドライン
18. 社会福祉施設研修の研修評価結果
19. ワークショップ・セミナー開催実績
20. 調査研究部実績
21. NVRC Bulletin
22. 訓練生の NVRC 評価
23. マガンにおける企業からの訓練生評価
24. NVRC 視察者・団体リスト

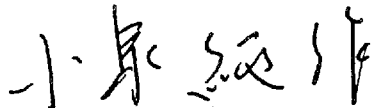
MINUTES OF MEETING
BETWEEN
THE JAPANESE FINAL EVALUATION TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED
OF
THE GOVERNMENT OF REPUBLIC OF INDONESIA
ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR THE NATIONAL VOCATIONAL REHABILITATION CENTRE
FOR DISABLED PEOPLE

The Japanese Final Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Japanese Team”), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Junsaku Koizumi, visited the Republic of Indonesia from June 27 to July 5, 2002.

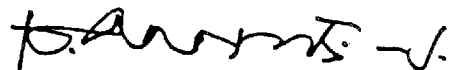
During its stay in the Republic of Indonesia, the Japanese Team had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned and jointly evaluated the present achievements of the Project for the National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People (hereinafter referred to as “the Project”) and exchanged views on the Project activities to fulfill the Record of Discussions signed on November 17, 1997.

As a result of the discussions, the Japanese Team and the Indonesian authorities concerned agreed to report to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Jakarta, July 5, 2002



Mr. Junsaku Koizumi
Leader
The Japanese Team
Japan International Cooperation Agency
Japan (JICA)



Dr. Pudji Hastuti, Msc. PH
Director General for
Social Rehabilitation and Services,
Ministry of Social Affairs
The Republic of Indonesia (MOSA)

TABLE OF CONTENTS

1. INTRODUCTION

- 1-1. Preface
- 1-2. Objectives of Evaluation
- 1-3. Schedule of the Japanese Team
- 1-4. Evaluators/Personnel Interviewed
 - 1-4-1. Evaluators/The Japanese Side
 - 1-4-2. Evaluators/The Indonesian Side
 - 1-4-3. List of Personnel Interviewed
- 1-5. Methodology of Evaluation

2. BACKGROUND AND SUMMARY OF THE PROJECT

- 2-1. Background of the Project
- 2-2. Summary of the Project
- 2-3. Plan of Operation for the Whole Period

3. EVALUATION

- 3-1. Achievements of the Plan
- 3-2. Results of the Evaluation
 - 3-2-1. Relevance
 - 3-2-2. Effectiveness
 - 3-2-3. Efficiency
 - 3-2-4. Impact
 - 3-2-5. Sustainability

4. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

- 4-1. Conclusion of the Evaluation
- 4-2. Recommendations for the sustainable development of NRVC
- 4-3. Lessons Learned

ATTACHMENT

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| Annex 1 | PDMe |
| Annex 2 | Plan of Operation |
| Annex 3 | Achievement of the Project |
| Annex 4 | Result of the Evaluation |
| Annex 5 | Achievement of the Plan-Each Section |



1. INTRODUCTION

1-1. Preface

The Project was initiated in December 1997 and will be completed by December 2002. The Japanese Team dispatched by JICA visited the Republic of Indonesia from June 27 to July 5, 2002 for the purpose of evaluating the achievements of the Project. The evaluation has been undertaken jointly by the Indonesian authorities concerned and the Japanese Team.

1-2. Objectives of Evaluation

Objectives of the evaluation are as follows:

- 1) To grasp the inputs of Indonesian and Japanese sides to the Project and summarize the Achievement of the Plan of Operation of the Project (Annex 2).
- 2) To execute a comprehensive evaluation on the achievements of the Project from the viewpoint of five components of evaluation (explained later in this document).
- 3) To make a recommendation to the future perspective of the Project and draw lessons learned from the Project for the same field of technical cooperation.

1-3. Schedule of the Japanese Evaluation Team

(June 27 – July 5, 2002)

<u>Date</u>	<u>Schedule</u>
June 27	Arrival at Jakarta
June 28	Courtesy Call to the Ministry of Social Affairs Courtesy Call to the Embassy of Japan Meeting at the JICA Indonesia office
June 29	Visit to the National Vocational Rehabilitation Centre (hereinafter referred to as "NVRC") Interview with Japanese experts
June 30	Team Meeting Checking Data within Evaluation Team
July 1	Survey in NVRC Interview with Indonesian counterpart personnel and Japanese experts
July 2	Joint Evaluation Committee Discussion on the Minutes (Joint evaluation)
July 3	Discussion on the Minutes
July 4	ditto
July 5	Signing the Minutes, Reception Report to the Embassy of Japan and the JICA Indonesia office Departure from Jakarta

1-4. Evaluators/Attendants

1-4-1. Evaluators/The Japanese Side

Junsaku Koizumi	Leader
Iwaho Igarashi	Management of Training Center
Masaju Maruyama	Vocational Training
Mamoru Naruoka	Vocational Rehabilitation
Miki Yamauchi	Cooperation Planning
Shinobu Mamiya	Project Analysis

1-4-2. Evaluators/The Indonesian Side

Pudji Hastuti	Director General for Social Rehabilitation and Services, Ministry of Social Affairs
Suharno	Director of Social Rehabilitation and Services for Persons with Disabilities
Abdul Malik	The Head of Planning Bureau, MOSA
Abdul Rifai Mas	Director of NVRC

1-4-3. Lists of Personnel Interviewed

Embassy of Japan:

Hideo Kamaishi First Secretary

JICA Indonesian Office:

Michio Kanda Resident Representative
Yuji Otake Deputy Resident Representative
Takusaburo Kimura Assistant Resident Representative

Project Team:

Tsutomu Yagi Chief Advisor
Takahiro Tanaka Coordinator
Norio Tanaka Long-term Expert (Vocational Guidance and Assessment)
Takashi Kano Long-term Expert (Vocational Training-Electricity)

MOSA

Bachtiar Chamsyah Minister
Pudji Hastuti Director General for Social Rehabilitation and Services
Suharno Director of Social Rehabilitation and Services for Persons
with Disabilities

Tri Hananingsih Head of Sub. Directorate of Social Rehabilitation and
Services for Persons with Physically Disabilities

Kiyoshi Yoshimitsu JICA Expert

NVRC

Abdul Rifai Mas Director
Ade Suherman Head, Division of Research and Development
Sumarsono Head, Division of Vocational Rehabilitation

(-11)

1-5. Methodology of Evaluation

The evaluation study was conducted in accordance with the JICA Project Cycle Management method in the following steps:

- 1) The Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") prepared on June 2000 was agreed by both sides to be used as PDM for final evaluation (hereinafter referred to as "PDMe") which is shown in Annex 1.
- 2) Achievement of the Project was studied by collecting data and other relevant information.
- 3) Analysis was made for five evaluation criterion described below.

(1) Relevance

Relevance of the Project is reviewed by the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the development policy of the Government of Indonesia and needs of the beneficiaries and also by the logic of the Project plans.

(2) Effectiveness

Effectiveness is assessed by evaluated to what extent the Project has achieved its purpose, and clarifying the relationship between that purpose and outputs.

(3) Efficiency

Efficiency of the Project implementation is analyzed with emphasis on the relationship between outputs and inputs in terms of timing, quality and quantity.

(4) Impact

Impact of the Project is assessed by either positive or negative influence caused by the Project.

(5) Sustainability

Sustainability of the Project is assessed in terms of organizational, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Project are sustained or expanded after the Project is completed.

- 4) Finally, the evaluators reached an agreement on the conclusion of the evaluation and made recommendations.
- 5) For evaluation, the materials used are the followings: the Record of Discussions of November 1997, the series of PDMs, the Plan of Operation (PO) in Annex 2, a series of minutes of discussions held during the Project term, the reports made by the Project and the results of meetings, interviews and observations made by the Japanese Team during its stay in Indonesia.

(-)?

2. BACKGROUNDS AND SUMMARY OF THE PROJECT

2-1. Background of the Project

In spite of rapid economic growth, the development of social infrastructure, such as social welfare and health care, has been relatively slow. Although people with disabilities (hereinafter referred to as "PWD") accounted for 3.11% (approximately 6.4 million people) of the total population, the job opportunities for the PWD were very limited because rehabilitation and job placement services for the PWD were not fully developed.

Under these circumstances, Indonesian Government planned to construct NVRC, which would become the core facility in Indonesia in the future, as a center of centers in the field of vocational rehabilitation. NVRC was constructed in 1996-1997 by Japanese grant aid program. Then, the Indonesian Government requested to the Japanese Government for the development of Vocational Rehabilitation System for The National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People. Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (RC Solo). Project-type technical cooperation for RC Solo was conducted from 1994 to 1997 as a pilot project of NVRC.

Based on the result of the pilot project, in 1997, the Government of Indonesia made a request to Japan for implementation of a project-type technical cooperation aiming at training the personnel involved in the operation of NVRC. In response to the request, the Japanese Government conducted two studies in 1997. Based on the results of these studies, Japan dispatched an implementation consultation study team to Indonesia in November 1997, and in December of the same year it commenced a five-year project-type cooperation. This project initiated with the purpose of establishing vocational rehabilitation system in NVRC.

2-2. Summary of the Project

The Project has been implemented based on PDM and PO (5-Year Plan).

The Japanese Team has carefully studied the revised PDM, which was revised at Mid-term Evaluation of the Project Implementation Stage, and concluded that minor adjustments should be made to make the PDM more applicable for Evaluation.

Therefore, the Japanese Team has prepared a PDM for the evaluation (PDMe=see the Annex 1), which includes revised and additional items. Revised items are shown with under line in the attached PDMe, and added items are in shadow.

The adjustment of the PDMe are described as follows:
(Refer to Annex 1)

- 1) Regarding PDMe OUTPUT 2, the verb in the sentence was reworded to "established" from "implemented", to reflect the state of achievement.
- 2) Regarding OUTPUT 3, the verb in the sentence was reworded to "strengthened" from "implemented", to reflect the state of achievement.

- 3) Regarding OUTPUT 4, "The staff of social welfare institutes etc. are trained." is rephrased as "The skills of staff of social welfare institutes etc. are improved." to reflect the state of achievement.
- 4) Three new items, "Allocation of the staff", "Regular management meeting held" and "Organization chart of NVRC" are added as Objectively Verifiable Indicators so as to evaluate results of the OUTPUT 1 more precisely.
- 5) A new item "Trends of number of training courses" is added as Objectively Verifiable Indicators so as to evaluate results of the OUTPUT 3 more precisely.
- 6) A new item "Number of seminars/workshops on job guidance held" is added as Objectively Verifiable Indicators so as to evaluate results of the OUTPUT 4 more precisely.
- 7) Three new items "Nationwide system of recruitment, selection, and job placement is established." "Infrastructure of regional rehabilitation centers and related institutes is properly maintained." and "Cooperation from the private sector is obtained." are added as IMPORTANT ASSUMPTIONS to clarify the necessary factors for OVERALL GOAL to be attained.

2-3. Plan of Operation for the Whole Period

The Plan of Operation for the whole period is shown in Annex 2 and it has been revised according to the progress of the Project every year, and is being implemented thereby.

3. EVALUATION

3-1. Achievements of the Plan

The details of the achievements are shown in Annex 3.

3-2. Results of the Evaluation

Followings are summaries of the results of the evaluations based upon the evaluation method described in 1-5. Through the surveys and interviews to those concerned, the both sides jointly assessed the project's relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability. And the both sides evaluated the Project explained below.

Refer to the Result of the Evaluation (Annex 4).

3-2-1. Relevance

The Indonesian Government declared the Law No.4, 1997 on PWD, the Government Regulation No.43, 1998 on the Measure of Social Welfare enhancement for PWDs. The Ministry of Social Affairs has been assisted by the Presidential Decree No.83, 1999 concerning the coordination and directing of the improvement of social welfare for PWD



institutions. And NVRC, as the institution has legally obtained the status of a Centre echelon II. In addition, the demands of vocational rehabilitation for PWD are great and the number of applicants for NVRC has been increasing every year. Therefore, it is concluded that the Overall Goal and the Project Purpose are consistent with the policy of the Indonesian Government and needs of Indonesian people.

The Overall Goal and the Project Purpose are also consistent with the policy of JICA's assistance to Indonesia, which defines the development of social security including enriching social welfare and improving the environment of employment and labor as one of the key issues to be tackled for building up a medium and long-term safety net.

3-2-2. Effectiveness

The Project Purpose has been achieved in general. The vocational rehabilitation system has been established in NVRC and the job performance of NVRC graduates has gradually been appreciated by companies.

Five outputs are effectively contributing to the Project Purpose. Under OUTPUT 1, the organization and function of NVRC has been successfully established. The number of applicants has been increased. Under OUTPUT 2, the number of graduates employed has been increasing and their job performance has been appreciated by companies. The job placement system for wide area should be improved further. Under OUTPUT 3, the vocational training has been strengthened. The number of trainees was trained as planned. And the training curriculum has been developed and occasionally revised with the reflection of the market demands. Under OUTPUT 4, the skills of staff of social welfare institutes, etc. has been improving by the effective use of guideline of staff training. Total hours of staff training should be increased to further improve their knowledge and skills. Under OUTPUT 5, the function of Research and Development has been established, but not satisfactory in terms of Development. Researches on market demand for PWD should be encouraged.

It is noted that the Indonesian economic crisis, decentralization policy, and series of re-organizations of the concerning ministries have been affecting the implementation and activities of the project. The collaboration with the ministries and other organizations concerned should be promoted.

3-2-3. Efficiency

The efficiency of the Project is satisfactory as a whole.

[The Japanese Side]

The inputs from the Japanese side were generally appropriate.

The number, the timeliness of dispatch, and the competency of Japanese experts were appropriate. The timing, quality and quantity of the provision of equipment were appropriate. C/P training in Japan was effective. C/P trained in Japan have played major



roles at NVRC and are expected to contribute more in the future.

[Indonesian Side]

Indonesian side has provided the appropriate facilities, however, the number of assigned counterparts has been less than planned, and some counterparts have been assigned to the position, which are not suitable for their expertise. The organizational change in the government and economic crisis has still affected the project implementation. The overall budget has been increased, however, the budget for job placement, the training materials, and equipment maintenance should be increased to successfully achieve the OUTPUTS.

3-2-4. Impact

The Project has been contributing to the field of vocational rehabilitation for PWD. Although the impact of the Project cannot be assessed in national level as the nationwide employment rate of PWD is not available, the employment rate of NVRC graduates has increased during the Project period. Following positive impacts have also been observed.

First, the new concept of vocational rehabilitation for PWD has gradually been recognized mainly by the society and the number of companies in JABOTABEK area. And the discipline and hardworking attitude of NVRC graduates has been encouraging the colleagues and to improve their motivation to work. Moreover, the PWD have gained the self-confidence and can make other people recognize the ability of PWD as a workforce. The negative impact of the Project is that the graduates tend to remain in JABOTABEK area, which makes the employment more competitive in this area.

3-2-5. Sustainability

The sustainability of the Project has almost reached to a sufficient level while there still are some concerns:

1) Organizational Sustainability

The Project Purpose is consistent with the Indonesian development policy, and there is a great demands of vocational rehabilitation for PWD. Other regional centers and social welfare institutes are interested in NVRC activities, therefore, the support from the government and related organizations should be continuously secured.

2) Financial Sustainability

Both sides understand the efforts of Indonesian Government of increasing the budget allocation, however, the Government should maintain the budget allocation of NVRC more than current level. For instance, their budget for training materials, maintenance of equipments, job selection and placement, and purchase of consumables should be secured, as well as for the proper maintenance of NVRC facilities.

3) Technical Sustainability

Technical transfer to the Indonesian counterparts has been progressed in accordance with the Plan of Operation. For the technical sustainability, it is recommended that the staff of



NVRC should be increased in numbers, and the transfer of technology by Japanese experts should be shared among them.

4. CONCLUSION AND RECOMMENDATIONS

4-1. Conclusion of the Evaluation

Both sides conclude that the Project has efficiently and effectively contributed to the needs of the Indonesian Government and the Indonesian human resources development in the field of vocational rehabilitation for PWD to develop and improve both the management and training technology of vocational rehabilitation system.

However, both sides understand that the support of the Indonesian Government in terms of budget, and coordination between local governments/related organizations furthermore shall be a very important issue for NVRC as to become the national center of the centers in Indonesia.

4-2. Recommendations for the sustainable development of NVRC

(1) Establishment of development policy of NVRC

It is recommended that MOSA should make the necessary arrangement in consultation with the ministries and organizations concerned to make a development policy for NVRC, which is the only national center for vocational rehabilitation.

- ① MOSA is recommended to work in closer cooperation with Ministry of Manpower and Transmigration and other concerning ministries/organizations.
- ② Appropriate number of instructors should be allocated to NVRC and trainings of trainers in NVRC be conducted to enable NVRC to function as a center of centers.
- ③ Strong supporting system should be built up so that NVRC could function as a center of centers.
- ④ Training system for the staff of other social welfare institutes should be improved and strengthened.

Allocation of sufficient budget to NVRC

Appropriate budget allocation should be continuously secured for NVRC's activities including job selection and placement, staff training, maintenance (equipments & facilities including spare parts), purchase of consumables, and research & development.

(2) National regulations on vocational training should be made soon.

(3) Assignment of instructors

Necessary numbers of instructors should be assigned at the earliest time to the divisions where the instructors are not assigned. Temporary instructors should be employed on



regular basis.

4-3. Lessons Learned

- (1) Duration of short-term experts should be longer than the current level so as to transfer their technology to counterparts.
- (2) Planning, implementation and assessment of vocational training for persons with disabilities should be made flexibly to meet the market demands.

5. Others

5-1. Indonesian Team explained the future plans of NVRC to the Japanese Team as follows;

- (1) The Government of Indonesia has been in the process of requesting to the Government of Japan through JICA to extend the one-year cooperation period in order to develop wider vocational rehabilitation system in NVRC to the 6 PSBDs in 6 provinces.
- (2) In the future, Indonesian side willing to enlarge the NVRC capacity from 100 to 150 clients in order to accommodate people with disabilities who has elementary educational background which made up of almost 80% from total people with disabilities in Indonesia. In line with this, Indonesia side will increase the quantity as well as quality of dormitories, vocational workshop on handicraft and wooden.

5-2. The Japanese Team suggested the Indonesian Team to consult JICA Indonesia Office on the new requests, including the procedure to apply for JICA's cooperation after elaborating and clarifying the substances of the requests in writing.

(D)

The Revised Project Design Matrix for Evaluation (PDM-e) : The Project for the National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People (Final Evaluation)

Project Name: The Project for The National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People

Duration : 20.12.1997 - 19.12.2002

Project Area : Indonesia

Target Group : Disabled People In Indonesia

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATIONS	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p>OVERALL GOAL</p> <p>Employment for disabled people is promoted by the establishment of vocational rehabilitation system in the Republic of Indonesia.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Number of disabled people who received vocational rehabilitation increases. • Number of disabled who are employed increases 	<ul style="list-style-type: none"> • Documents of BKSNI • Documents of Ministry of Manpower 	
<p>PROJECT PURPOSE</p> <p>Vocational rehabilitation system is established in the National Vocational Rehabilitation Centre for disabled people (NVRC).</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Ratio of people employed after Magang in the same company to people placed increase (75% at the end of the project) • Ratio of graduates who are employed (62% at the end of the project) • Wage level, ratio of graduates who quit the job after employment • Evaluation of NVRC by trainees and graduates • Evaluation of graduates by employers • Number of visitors from other organizations • Degree of technical transfer to Indonesian C/Ps 	<ul style="list-style-type: none"> • NVRC documents • NVRC documents • Interviews with or questionnaires to trainees and graduates • Interviews with companies which accept Magang or employ trainees • NVRC documents • Interviews with Indonesian C/Ps 	<ul style="list-style-type: none"> • The Indonesian policies related to vocational rehabilitation do not change • Nationwide system of recruitment, selection, and job placement is established. • Infrastructure of regional rehabilitation centers and related institutes is properly maintained. • Cooperation from the private sector is obtained.
<p>OUTPUTS</p> <p>1 The organization and functions of NVRC are established.</p> <p>2 Recruitment and selection system and job placement system <u>are established</u> in wide areas.</p> <p>3 Vocational Training is <u>strengthened</u>.</p> <p>4 <u>The skills of staff of social welfare institutes etc. are improved.</u></p> <p>5 Function of Research and Development (R&D) is established.</p>	<p>1-1 Frequencies of staff absence</p> <p>1-2 Growth ratio of budget</p> <p>1-3 Specialities of Indonesian CPs</p> <p>1-4 Operation rate of machines</p> <p>1-5 Number of patrol by member of the safety committee</p> <p>1-6 Allocation of the staff</p> <p>1-7 Regular management meeting held</p> <p>1-8 Organization chart of NVRC</p> <p>2-1 Trends of number of applicants (by region)</p> <p>2-2 Trends of number of trainees (by region)</p> <p>2-3 Number of companies which accept Magang</p> <p>2-4 Frequencies of case conferences</p> <p>2-5 Regional distribution of graduates employed</p> <p>2-6 Frequencies of visiting to companies for Magang and job seeking</p> <p>2-7 Frequencies of aftercare (in person, by mail, by telephone)</p> <p>2-8 Adaptability of training courses to Magang</p> <p>3-1 Number of texts and manuals produced</p> <p>3-2 Number of curriculum committee held</p> <p>3-3 Trends of number of trainees</p> <p>3-4 Actual hours of training</p> <p>3-5 Trends of number of training courses</p> <p>4-1 Number of prepared manuals and teaching materials</p> <p>4-2 Number of staff training</p> <p>4-3 Number of participants of staff training</p> <p>4-4 Evaluation by the participants of staff training courses</p> <p>4-5 Whether staff training is implemented along the Policy</p> <p>4-6 Number of seminars / workshops on job guidance held</p> <p>5-1 Number of reports prepared</p> <p>5-2 Number of presentations outside NVRC</p>	<p>1-1 NVRC documents</p> <p>1-2 NVRC documents</p> <p>1-3</p> <p>1-4 NVRC documents</p> <p>1-5 NVRC documents</p> <p>1-6 NVRC documents</p> <p>1-7 NVRC documents</p> <p>1-8 NVRC documents</p> <p>2-1 NVRC documents</p> <p>2-2 NVRC documents</p> <p>2-3 NVRC documents</p> <p>2-4 NVRC documents</p> <p>2-5 NVRC documents</p> <p>2-6 NVRC documents</p> <p>2-7 NVRC documents</p> <p>2-8 NVRC documents</p> <p>3-1 NVRC documents</p> <p>3-2 NVRC documents</p> <p>3-3 NVRC documents</p> <p>3-4 NVRC documents</p> <p>3-5 NVRC documents</p> <p>4-1 NVRC documents</p> <p>4-2 NVRC documents</p> <p>4-3 NVRC documents</p> <p>4-4 NVRC documents</p> <p>4-5</p> <p>4-6 NVRC documents</p> <p>5-1 NVRC documents</p> <p>5-2 NVRC documents</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Indonesian C/Ps remain in NVRC. • Cooperation with related organization, such as Ministry of Manpower is maintained. • Discrimination against disabled people does not increase. • Economic conditions do not get worse than when the project started.

74



ACTIVITIES (mentioned below)	INPUTS		<ul style="list-style-type: none"> The structure and function of related governmental organizations does not change. The policy regarding NVRC does not change. Financial condition of NVRC is properly maintained NVRC staff are secured. NVRC staff do not quit. Local cost is secured.
	INDONESIAN SIDE	JAPANESE SIDE	
	1 Necessary personnel to implement the project 2 Necessary expenses and materials to implement the project 3 Training facilities and office spaces for Japanese experts	1 Dispatch of Experts Long-term experts * Chief Advisor * Coordinator * Vocational Training (Metal work, Printing, Electronics) * Staff Training * Vocational Guidance / Assessment Short-term experts If necessary 2 Training in Japan 3 Equipment provision 4 Local cost support	<ul style="list-style-type: none"> Work motivation of disabled people is high. NVRC is constructed as scheduled. Cooperation with the Solo project is secured.

ACTIVITIES

1) The organization and functions of NVRC are established.

- 1)-1 To establish the organization and structure
- 1)-2 To assign appropriate and qualified personnel
- 1)-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment

2) Recruitment and selection system and job placement system are established, in wide areas.

- 2)-1 To develop recruitment and selection system and job placement system in wide areas
- 2)-2 To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas
- 2)-3 To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas

3) Vocational Training is strengthened.

Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing

- 3)-1 To make vocational training plans
- 3)-2 To develop curricula
- 3)-3 To make teaching materials
- 3)-4 To improve technical specialities of Instructors
- 3)-5 To improve teaching technique
- 3)-6 To implement training courses
- 3)-7 To improve on each item above

4) The skills of staff of social welfare institutes, etc., are improved.

- 4)-1 To make staff training plans
- 4)-2 To develop curricula
- 4)-3 To make teaching materials
- 4)-4 To improve management method
- 4)-5 To implement training courses
- 4)-6 To develop evaluation method
- 4)-7 To improve on each item above

6) Function of Research and Development (R&D) is established.

- 5)-1 To make R&D plans
- 5)-2 To improve R&D method
- 5)-3 To improve the analysis techniques
- 5)-4 To implement R&D
- 5)-5 To utilize the results of R&D for activities of NVRC
- 5)-6 To spread the results of R&D and all activities of NVRC all over Indonesia
- 5)-7 To improve on each item above

7a

Plan of Operation for whole period (based on revised PDM)

①

Outputs	Activities	Japanese Fiscal Year												Responsible Person in the Project	Input	Remarks					
		1997		1998				1999				2000					2001		2002		
		III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II				III	IV	I	II	III
The organisation and functions of NVRC are established	To establish the organisation and structure																		Chief Advisor Deputy III, MMK Deputy II, BKSNI Director, NVRC	Long-Term Experts	Structure was authorized on Sep 98, and job descriptions were authorized on Oct 98. The number of staff reached 113 persons on Apr 98.
	To assign appropriate and qualified personnel																				
	To establish a maintenance system for facilities and equipment																				
Recruitment and selection system and job placement system are implemented in wide areas.	To develop recruit and selection system and job placement system in wide area																		Chief Advisor Director of NVRC	Long and Short-Term Experts C/Ps Necessary Equipment and Building	
	To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas																				
	To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas																				
Vocational Training is implemented	To make vocational training plans																		Chief Advisor Director of NVRC	Long and Short-Term Experts C/Ps Necessary Equipment and Building Budget for Training course	
	To develop curricula																				
	To make teaching materials																				
	To improve technical specialties of instructors																				
	To improve teaching techniques																				
	To implement training courses																				
	To improve each item above																				
The staff of social welfare institutes etc. are trained.	To make staff training plans																		Chief Advisor Director of NVRC	Long and Short-Term Experts C/Ps Necessary Equipment and Building Budget for Staff Training	
	To develop curricula																				
	To make teaching materials																				
	To improve management method																				
	To implement training courses																				
	To develop evaluation method																				
	To improve on each item above																				
Function of Research and Development (R&D) is established	To make R&D plans																		Chief Advisor Director of NVRC	Short-Term Experts C/Ps Necessary Equipment and Building Budget for R&D	
	To improve R&D method																				
	To improve the analysis techniques																				
	To implement R&D																				
	To utilize the results of R&D for activities of NVRC																				
	To spread the results of R&D and all activities of NVRC all over Indonesia																				
	To improve on each item above																				

Ref: — Plan — Actual

Note: For the period of 1997~1999, P/O is based on R/O. For the period of 2000~2002, P/O is based on the M/D of Mid-term Evaluation in 2000.

fl

Achievement of the Project (based on PDM):

The Project for the National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People

NARRATIVE SUMMARY OF OBJECTIVES	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS (OVIs)	ACTUAL PERFORMANCE OF OVIs																																										
<p>OVERALL GOAL</p> <p>Employment for disabled people is promoted by the establishment of vocational rehabilitation system in the Republic of Indonesia.</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Number of disabled people who received vocation rehabilitation increases - Number of disabled who are employed increases 	<p>- The judgement of Overall Goal is difficult because actual and reliable figures in national level are not available at present time.</p>																																										
<p>PROJECT PURPOSE</p> <p>Vocational rehabilitation system is established in the National Vocational Rehabilitation Centre for disabled people. (NVRC)</p>	<p>1 Ratio of people employed after Magang in the same company to people placed Increase (75% at the end of the project)</p> <p>2 Ratio of graduates who are employed (62% at the end of the project), wage level, ratio of graduates who quit the job after employment.</p> <p>3 Evaluation of NVRC by trainees and graduates</p>	<p>1 Ratio of people employed after Magang in the same company to people placed are as follows: For those who came from within JABOTABEK area</p> <table border="1" data-bbox="1120 574 1825 694"> <thead> <tr> <th>Batch number</th> <th>Ratio of people employed after Magang in the same company</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>#1</td><td>64%</td></tr> <tr><td>#2</td><td>58%</td></tr> <tr><td>#3</td><td>71%</td></tr> <tr><td>#4</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table> <p>For those who came from outside of JABOTABEK area, the ratio of people employed after Magang in the same company is 100%.</p> <p>2 Ratio of graduates who are employed are as follows:</p> <table border="1" data-bbox="1120 790 1590 917"> <thead> <tr> <th>Batch number</th> <th>Ratio of graduates who are employed</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>#1</td><td>57%</td></tr> <tr><td>#2</td><td>64%</td></tr> <tr><td>#3</td><td>72%</td></tr> <tr><td>#4</td><td>80%</td></tr> </tbody> </table> <p>All graduated were employed under the wage level set by the government regulation in each state. And the stability of those graduates who were employed has been improving. According to the data, the rate of graduates who left their job are as follows:</p> <table border="1" data-bbox="1120 989 1332 1093"> <thead> <tr> <th>Batch number</th> <th>Rate of graduates who left their job</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>#1</td><td>43%</td></tr> <tr><td>#2</td><td>26%</td></tr> <tr><td>#3</td><td>32%</td></tr> <tr><td>#4</td><td>20%</td></tr> </tbody> </table> <p>3 The result of survey conducted for 94 trainees under batch No. 5 revealed that as a whole, trainees are satisfied with the services at NVRC, such as recruitment, assessment, and vocational training, and others. (The degree of their satisfaction is assessed by four-grade scale: 1 = Very satisfied, 2= Satisfied, 3= Somewhat dissatisfied, 4=Dissatisfied. The smaller the number becomes, the greater the degree of satisfaction is.)</p> <table border="1" data-bbox="1120 1173 1400 1316"> <thead> <tr> <th>Course Name</th> <th>Average Score</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>Metal work</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>Electricity</td><td>2.1</td></tr> <tr><td>Printing</td><td>2.8</td></tr> <tr><td>Sewing</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>Computer</td><td>2.1</td></tr> </tbody> </table> <p>In terms of services, trainees are in general satisfied with the services of NVRC. - Major concerns of trainees are the shortage of materials, and the employment after the graduation. - Many of trainees expect to the training on Handicrafts, English, and Cooking in the future.</p>	Batch number	Ratio of people employed after Magang in the same company	#1	64%	#2	58%	#3	71%	#4	100%	Batch number	Ratio of graduates who are employed	#1	57%	#2	64%	#3	72%	#4	80%	Batch number	Rate of graduates who left their job	#1	43%	#2	26%	#3	32%	#4	20%	Course Name	Average Score	Metal work	1.8	Electricity	2.1	Printing	2.8	Sewing	2.2	Computer	2.1
Batch number	Ratio of people employed after Magang in the same company																																											
#1	64%																																											
#2	58%																																											
#3	71%																																											
#4	100%																																											
Batch number	Ratio of graduates who are employed																																											
#1	57%																																											
#2	64%																																											
#3	72%																																											
#4	80%																																											
Batch number	Rate of graduates who left their job																																											
#1	43%																																											
#2	26%																																											
#3	32%																																											
#4	20%																																											
Course Name	Average Score																																											
Metal work	1.8																																											
Electricity	2.1																																											
Printing	2.8																																											
Sewing	2.2																																											
Computer	2.1																																											

Handwritten mark

11

HL

	<p>4 Evaluation of graduates by employers</p> <p>5 Number of visitors from other organizations</p> <p>6 Degree of technical transfer to Indonesian C/Ps</p>	<p>4 The staff of NVRC interviewed 20 employers which received the Magang under batch No. 4. Overall, employers have highly evaluated the quality of NVRC graduates.</p> <p>Result of survey is as follows:</p> <table border="1"> <tr> <td>Very good</td> <td>Good</td> <td>Unsatisfactory</td> <td>No answer</td> </tr> <tr> <td>55%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>Several positive comments on the graduates' performance have been received from some employers.</p> <ul style="list-style-type: none"> - We have decided to hire another two graduates from NVRC for the next year. - NVRC graduates perform better than some of other employees who are not disabled. - We are satisfied with the ability as well as discipline of NVRC graduates. - What the graduates have acquired at NVRC have been very practical and met the needs of our company. <p>Major reasons that companies do not accept NVRC graduates are due to the company's unstable financial condition, and that the skill of graduates do not match to their needs.</p> <p>5 According to the record, NVRC received 76 visits from other organizations during the year 1999. It received 15 visits in 2000, 26 visits in 2001, and 16 visits (as of June 12) in 2002. (During the year 1997/98, the visits from other organizations were not recorded.) The organization includes the governmental organizations such as the Ministry of Social Affairs and their affiliates, educational institutes such as Universities, medical hospitals, enterprises, etc.</p> <table border="1"> <tr> <th>Year</th> <th>number of visits from other organizations.</th> </tr> <tr> <td>1997/98</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1999</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>2000</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>2001</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>2002</td> <td>16</td> </tr> </table> <p>6 Technical transfer from Japanese experts (long-term and short-term) have made to the following number of subjects in each course. As a whole, the Indonesian counterparts have acquired sufficient skills and knowledge on the vocational training.</p> <table border="1"> <tr> <th>Training Course</th> <th>Number of subject</th> </tr> <tr> <td>Metal Work</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Electricity</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>Printings</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Sewing</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Computer</td> <td>4</td> </tr> </table>	Very good	Good	Unsatisfactory	No answer	55%	20%	5%	20%	Year	number of visits from other organizations.	1997/98	0	1999	76	2000	15	2001	26	2002	16	Training Course	Number of subject	Metal Work	6	Electricity	9	Printings	6	Sewing	6	Computer	4
Very good	Good	Unsatisfactory	No answer																															
55%	20%	5%	20%																															
Year	number of visits from other organizations.																																	
1997/98	0																																	
1999	76																																	
2000	15																																	
2001	26																																	
2002	16																																	
Training Course	Number of subject																																	
Metal Work	6																																	
Electricity	9																																	
Printings	6																																	
Sewing	6																																	
Computer	4																																	
<p>OUTPUTS</p> <p>1 The organization and functions of NVRC are established</p>	<p>1-1 Frequencies of staff absence</p> <p>1-2 Growth ratio of budget</p>	<p>1-1 The staff absence were recorded from 1999, and the rate of absence in average is 0.5%.</p> <p>1-2 Economic crisis, and political turmoil in 1998 and 1999 affected the budget growth in the year 1998, 1999, and 2000. Since 2001, the growth of budget was steadily improved by 21% compared with the one in the previous year. The budget provided by the Indonesian government are as shown below.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Due to the change of fiscal year, the number of month included in the annual budget differs in year 1997/98 and 1999/00. The budget for the year 1997/1998 includes 4 months budget, and the budget for the year 1999/2000 includes 8 months of budget. 2. The budget includes the revenue budget, development budget, yen credit from OECF, and the special budget provided by DepSos during the economic crisis. <table border="1"> <tr> <th colspan="2">Revenue budget (Rp in thousand)</th> </tr> <tr> <td>Yr 1997/98</td> <td>116,348</td> </tr> <tr> <td>Yr 1998/99</td> <td>882,112</td> </tr> <tr> <td>Yr 1999/00</td> <td>2,108,701</td> </tr> <tr> <td>Yr 2000</td> <td>1,958,751</td> </tr> <tr> <td>Yr 2001</td> <td>2,635,493</td> </tr> <tr> <td>Yr 2002</td> <td>3,123,109</td> </tr> </table>	Revenue budget (Rp in thousand)		Yr 1997/98	116,348	Yr 1998/99	882,112	Yr 1999/00	2,108,701	Yr 2000	1,958,751	Yr 2001	2,635,493	Yr 2002	3,123,109																		
Revenue budget (Rp in thousand)																																		
Yr 1997/98	116,348																																	
Yr 1998/99	882,112																																	
Yr 1999/00	2,108,701																																	
Yr 2000	1,958,751																																	
Yr 2001	2,635,493																																	
Yr 2002	3,123,109																																	

Development budget

Yr 1997/98	1,998,817
Yr 1998/99	770,760
Yr 1999/00	75,000
Yr 2000	495,052
Yr 2001	342,742
Yr 2002	398,758

Yen credit from OECF

Yr 1997/98	571,600
Yr 1998/99	460,000
Yr 1999/00	752,500

Special budget provided by MOSA

Yr 1997/98	424,000
Yr 1998/99	58,800

1-3 Specialties of Indonesian C/Ps

1-4 Operation rate of machines

1-5 Number of patrol by member of the safety committee

1-6 Allocation of the staff

1-7 Regular management meeting held

1-3

1-4 Operation rate of machines varies from machine to machine. All machines which were provided by the project-type technical cooperation are in operative condition and utilized upon the needs of each machine.

1-5 Number of patrol by member of the safety committee are as follows:

Yr 1999	8 times
Yr 2000	11 times
Yr 2001	10 times
Yr 2002	6 times

In February, 2002, NVRC suffered damage from robbery. Since that time, the patrol system by the member of the safety committee are drastically strengthened.

The patrol is now conducted every day by two members in daytime and 6 members at night.

1-6

As of June, 2002 90 staff are allocated at NVRC which include 1 director, 24 staff in Administration division, 42 staff in Vocational Rehabilitation Division, 11 staff in Staff Training Division, and 12 staff in the Research & Development Division.

The number of allocated staff was agreed under R/D as 121. 24 staff had left / been transferred to other institutes due to the economic crisis, and 7 had left for other reasons.

1-7

NVRC has established the following committee / meetings:

- a. Leader meeting with director and four division manager (monthly)
- b. Leader meeting with structural staff (monthly)
- c. Instructor's meeting (monthly)
- d. Social Worker's meeting (monthly)
- e. Steering Committee Meeting (planned every two months, but held only twice after mid-term evaluation.)
- f. Staff meeting (every three months)
- g. Incidental Meeting (when needed)
- h. Management Review meeting between division manager and the chief (monthly)
- i. Morning Meeting (every Mondays and Thursdays)
- j. Meeting of equipment maintenance

10

2 Recruitment and selection system and job placement system are established, in wide areas.

1-8 Organization chart of NVRC

2-1 Trends of number of applicants (by region)

2-2 Trends of number of trainees (by region)

2-3 Number of companies which accept Magang

1-8 The following 4 divisions have been established.

- a. Administration Division
- b. Vocational Rehabilitation Division
- c. Staff Training Division
- d. Research & Development Division

2-1 Number of applicants has been increased.

Batch Number	Total number of applicants
1	80
2	191
3	163
4	193
5	193

The ratio of applicants through regional centers are as follows:
(In general, the number of applicants directly to NVRC has been increased.)

Batch No.	Medan	Palembang	Cengkareng	Bangil	Makasar	NVRC	Solo	Chimor
1	0%	25%	48%	28%	0%	0%	0%	0%
2	8%	12%	8%	14%	9%	45%	2%	4%
3	5%	17%	19%	0%	7%	50%	2%	0%
4	6%	18%	7%	13%	11%	45%	2%	0%
5	5%	17%	4%	0%	6%	69%	0%	0%

2-2 Number of trainees are as follows:

Batch Number	Total number of trainees
1	40
2	101
3	100
4	96
5	98

The ratio of trainees through regional centers are as follows:

Batch No.	Medan	Palembang	Cengkareng	Bangil	Makasar	NVRC	Solo	Chimor
1	0%	25%	48%	28%	0%	0%	0%	0%
2	4%	19%	5%	20%	8%	41%	3%	1%
3	8%	19%	13%	0%	5%	51%	4%	0%
4	7%	18%	4%	17%	13%	41%	1%	0%
5	5%	19%	6%	0%	10%	59%	0%	0%

2-3 Number of companies which accept Magang are as follows:

Batch Number	number of companies which accept Magang
1	18
2	32
3	43
4	37

5

11

3 Vocational Training is strengthened.

2-4 Frequencies of case conferences

2-4 Case conference was conducted three times (1. Selection of trainees, 2. Magang preparation, 3. Approval for graduation) as planned.

2-5 Regional distribution of graduates employed

2-5 Regional distribution of graduates employed are as follows:

Batch Number	Total employed	Within JABOTABEK area	Outside of JABOTABEK area
1	30	18(60%)	12(40%)
2	58	53(91%)	5 (9%)
3	72	60(83%)	12(17%)
4	79	59(75%)	20(25%)

2-6 Frequencies of visiting to companies for Magang and job seeking

2-6 Frequencies of visiting to companies for Magang and job seeking are as follows:

a. Visits to companies for Magang preparation

Batch Number Number of visits to companies for Megang preparation

3	424
4	240

b. Visits to companies for Magang supervision

Batch Number Number of visits to companies for Magang supervision

3	252
4	222

c. Aftercare for trainees

Batch Number Aftercare for trainees by visiting, telephone/telex, and letter/fax

2	45
3	126
4	30

2-7 Frequencies of aftercare (in person, by mail, by telephone)

2-7 Aftercare is conducted by three procedures. The letter or fax is sent to the company and the telephone call is made. Then, the person in charge visits the company. All three procedures are strictly followed by the staff in charge for all aftercares conducted.

2-8 Adaptability of training courses to Magang

2-8

3-1 Number of texts and manuals produced

3-1 The following texts and manual were produced.

Name of the Training Course	number of texts and manual produced
Sewing	5
Electronics	9
Computer	8
Printing	4
Metalwork	21

In addition to the above, 7 supporting textbooks were produced.

In 2002, there is a plan to produce following textbooks.

6 texts for computer, 6 texts for sewing, 6 texts for printing, 6 texts for metal work, 6 textbooks for

3-2 Number of curriculum committee held

3-2 Curriculum Committee was conducted once a year as planned. The committee is consisted of the workshop and discussions for curriculum revision. Workshop is conducted by each course separately, and the discussion is based on the presentation from each course on the findings during the workshop. It takes 9 days to cover the whole process. Participants are those who represent each course, chief of each training course, social workers, chief of resocialization, assessment, staff training, vocational training, and Japanese experts

3-3 Trends of number of trainees

3-3 The number of trainees was selected as planned.

Batch number	The number of trainees
1	40
2	101
3	100
4	98
5	98

7A

10

<p>4 The skills of staff of social welfare institutes etc. are improved.</p>	<p>3-4 Actual hours of training</p> <p>3-5 Trends of number of training courses</p> <p>4-1 Number of prepared manuals and teaching materials</p> <p>4-2 Number of staff training</p> <p>4-3 Number of participants of staff training</p> <p>4-4 Evaluation by the participants of staff training courses</p> <p>4-5 Whether staff training is implemented along the policy</p> <p>4-6 Number of seminars / workshops on job guidance held</p>	<p>3-4 Actual hours of training was planned as 1,000. In 1999, the number of actual hours of training was increased according to the training need. There were 1,154 hours for sewing, 1,449 hours for computers, 1,455 hours for printing, 1,457 hours for electronics, and 1,462 hours for metal work. In 2002, the actual hours of training has been increased further to 1,640 hours for all five courses.</p> <p>3-5 The number of training courses was set for two in 1998. Two courses were conducted as planned. From 1999, the number of training courses was set for five and five courses have been conducted as planned.</p> <p>4-1 The Training Guideline "The Guideline of the Training for the Vocational Rehabilitation for disabled people" was published with the assistance of Japanese long-term experts. The staff followed this guideline to prepare the manuals, teaching materials, and syllabus for each training course.</p> <p>4-2 Staff training was conducted every year as follows:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Number of staff training course</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1998</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>1999</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>2000</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2001</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2002</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>4-3 Number of participants of staff training are as follows:</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>Total number of participants</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1998</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>1999</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2000</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>2001</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2002</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>4-4 The evaluation by the participants of staff training courses are conducted after the each staff training. The participants evaluate the instructors as well as the contents of training. The method used for evaluation had been practiced since the first staff training.</p> <p>4-5</p> <p>4-6 Seven workshop seminars were held during 2001 and 2002. In each workshop, approximately 90 people were participated from the regional centers, social welfare institutes, NGOs, and the companies.</p>	Year	Number of staff training course	1998	2	1999	3	2000	4	2001	2	2002	3	Year	Total number of participants	1998	55	1999	30	2000	95	2001	50	2002	70
Year	Number of staff training course																									
1998	2																									
1999	3																									
2000	4																									
2001	2																									
2002	3																									
Year	Total number of participants																									
1998	55																									
1999	30																									
2000	95																									
2001	50																									
2002	70																									
<p>5 Function of Research and Development (R&D) is established.</p>	<p>5-1 Number of reports prepared</p> <p>5-2 Number of presentations outside NVRC</p>	<p>5-1 There are 22 researches planned, and 12 researches were conducted for the following field.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) the physically disabled issues 2) labor market issues 3) job opportunities issues 4) appropriate vocational training courses for the disabled 5) Study of NVRC activities on Magang, and curriculum improvement <p>The research on the evaluation and analysis of vocational training results was planned under RD, but has not been conducted.</p> <p>5-2 Presentation on the research was conducted 6 times outside of NVRC. R & D division also produces the Bulletin and Leaflet with a collaboration of trainees of Printing Course. 500 copies of Bulletin are published twice a year and distributed to regional centers and other social welfare institutes.</p>																								

HR

		ANNUAL INFUSIONS OF FUNDS (MMR)
1-1	To establish the organization and structure	The Indonesian Side
1-2	To assign appropriate and qualified personnel	001 Necessary personnel to implement the project Administration Division 83MM Vocational Rehabilitation Div. 2,112MM Staff Training Div. 660MM Research & Development Div. 519MM
1-3	To establish a maintenance system for facilities and equipment	002 Necessary expenses and materials to implement the project (Rb. in thousand) Yr. 1997/98 116,348 Yr. 1998/99 882,112 Yr. 1999/2000 2,108,701 Yr. 2000 1,958,751 Yr. 2001 2,635,493 Yr. 2002 3,123,109 TOTAL: 10,824,514
2-1	To develop recruitment and selection system and job placement system	
2-2	To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas	003 Facilities/Building NVRC building and facilities
2-3	To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas	
3-1	To make vocational training plans	The Japanese Side
3-2	To develop curricula	001 Dispatch of Experts Long-term experts 1) Chief advisor 54MM 2) Coordinator 54MM 3) Vocational Training 117MM (Metal work, Printing, Electronics) 4) Staff Training 29MM 5) Vocational Guidance/Assessment 54MM
3-3	To make teaching materials	
3-4	To improve technical specialties of instructors	
3-5	To improve teaching technique	
3-6	To implement training courses	Short-term experts (23 persons)
3-7	To improve on each item above	
4-1	To make staff training plans	
4-2	To develop curricula	
4-3	To make teaching materials	
4-4	To improve management method	002 Training in Japan Number of counterparts trained in Japan: 26
4-5	To implement training courses	
4-6	To develop evaluation method	003 Equipment provision (in thousand Yen) Year Expenses 1997 8,834 1998 85,061 1999 54,893 2000 48,500 2001 8,640 equipments brought by experts (1997-2001) :14,120 TOTAL 231,048
4-7	To improve on each item above	
5-1	To make R&D plans	004 Local Cost Support (in thousand Yen) 1997 2,473 1998 13,345 1999 10,581 2000 9,578 2001 18,829 TOTAL 54,806
5-2	To improve R&D method	
5-3	To improve the analysis techniques	
5-4	To implement R&D	
5-5	To utilize the results of R&D for activities of NVRC	
5-6	To spread the results of R&D and all activities of NVRC all over Indonesia	
5-7	To improve on each item above	

12

HA

Results of the Evaluation

The evaluation on five criterion is based on the result of survey questionnaire and interviews to those who involved in the Project both as Indonesian and Japanese sides. Average Score in the column of "Results of questionnaire" is calculated using the following four-grade scale. The grade 1 indicates as respondents do NOT agree toward the question AT ALL, the grade 2 as respondents NOT SO MUCH agree, grade 3 as respondents SOMEWHAT agree, and grade 4 as respondents VERY MUCH agree toward the question. The bigger the number becomes, the greater the degree of their agreement toward the question is. The answer of all respondents are averaged out to reflect the degree of their agreement as a whole.

1. RELEVANCE

Evaluation Point	Evaluation Results	Results of questionnaire
1.1 Relevance of the overall goal to the Indonesian development policy	-The Overall Goal is consistent with the policy of the Government of Indonesia.	1-1 Average Score: 3.7 - The Overall Goal is relevant with the government policies. - It is in line with the Country Study of Indonesia. (GBHN) and is appropriate in broad outlines of the Nation's Direction (GBHN/Garis-garis Besar Haluan Negara) and Social Welfare Development Policy.
1.2 Relevance of the project purpose to the Indonesian development policy	-The Project Purpose is consistent with the policy of the Ministry of Social Affairs (MOSA) in Indonesia, it matches the development policy of Indonesia.	1-2 Average Score: 3.7 - The Project Purpose fits with the mission of MOSA "Improvement of Human Resources (SDM)". - The Indonesian Government declared the Law No. 4, 1997 on PWD*, the Government Regulation No. 43, 1998 on the improvement of the Social Welfare Services for PWD. - The Ministry of Social Affairs has been assisted by the Presidential Decree N.83, 1999 concerning the coordination and directing of the improvement of social welfare for PWD institutions. - NRVC, as the institution has legally obtained the status of a Centre echelon II.
1.3 Relevance of the project purpose to the target population	-The demands of vocational rehabilitation for disabled people (PWD) is great. - The Project Purpose is highly matches the needs of the target population.	1-3 Average Score: 3.4 - The Project Purpose has properly matched the needs of PWD in Indonesia. - The demands has been much greater than the capacity of NVRC can cover. - To meet the demands of PWD in Indonesia, the nationwide system of vocational rehabilitation should be established. - As a result of this Project, graduates of NVRC can play a role model for PWD in Indonesia. They can encourage and motivate other PWD.
1.4 Relevance of the project purpose to the Japanese aid policy	- The Overall Goal and the Project Purpose are also consistent with the policy of JICA's assistance to Indonesia, which defines the development of social security including enriching social welfare and improving the environment of employment and labor as one of the key issues to be tackled for building up a medium and long-term safety net.	1-4 - The Overall Goal and the Project Purpose are also consistent with the policy of JICA's assistance to Indonesia, which defines the development of social security including enriching social welfare and improving the environment of employment and labor as one of the key issues to be tackled for building up a medium and long-term safety net.

Note: Both sides agreed that for this evaluation, the phrase for "disabled people", "the disabled", and "the disabled persons" should be replaced by "People with Disabilities (PWD)."

Results of the Evaluation

2. EFFECTIVENESS

Evaluation Point	Points to be checked	Evaluation Results		Results of questionnaire
2.1 Degree of achievement of the Project Purpose	2.1.1 Skill level of graduates	- The Project Purpose has been achieved as a whole. - The vocational rehabilitation system has been established in NRVC.	2-1-1	Average Score: 3.6 - The skill level of graduates were overall met the expectation by employers. - The marketable skill level should always be reviewed in order to meet the needs of automation in the factory.
	2.1.2 Adaptability of graduates to the company employed.	- as a result, the job performance of NRVC graduates has been appreciated by the company.	2-1-2	Average Score :3.4 - The training curriculum reflected the company's needs, and the adaptability of graduates to the company employed was improved. - Most of the graduates can properly perform their duties in the companies. - The graduates have been contributing to give positive impression of PWD to employers.
2.2 Degree of achievement of Outputs	2.2.1 OUTPUT 1 (Organization and function of NVRC are established.)	- The organization and function of NVRC has been successfully established.	2-2-1	Average Score: 3.7 - The organization of NVRC has been successfully established. - The management of NVRC has been properly conducted by Indonesian CPs. - The capacity of trainees at NVRC can be increased to 200.
	2.2.2 OUTPUT 2 (Recruitment and selection system and job placement system are established for wide areas.)	- The recruitment and selection system for wide areas has been properly established. - The job placement system in wide areas should be improved.	2-2-2	Average Score: 3.0 - The recruitment and selection system have been already formed for wide area, but for job placement has not formed yet. - The job placement is limited within the JABOTABEK area, and it may be extended to cover the whole Indonesia. - The decentralization policy has affected the construction of network for job placement outside of the JABOTABEK area.
	2.2.3 OUTPUT 3 (Vocational training is strengthened.)	- The vocational training has been properly implemented. - The vocational training has been improved through the process of curriculum review.	2-2-3	Average Score: 3.7 - The vocational training has been properly implemented. - The curriculum has been reviewed every year to reflect the market demands. - The curriculum review can be conducted based on the thorough analysis of market demands.
	2.2.4 OUTPUT 4 (The skills of staff of social welfare institutes, etc, are improved.)	- The skills of staff of social welfare institutes, etc. have been improving by the effective use of guideline of staff training. - More staff at regional centers and other social welfare institutes have been encouraged to receive the staff training.	2-2-4	Average Score: 3.3 - The training hours of staff training should be increased in each course. - The staff training conducted by NVRC has motivated the staff at regional centers and other social welfare institutes - The staff training for regional centers and other social welfare institutes should be promoted.
	2.2.5 OUTPUT 5 (Function of Research and Development is established.)	- Function of Research and Development has been established, but not satisfactory in terms of Development. - Researches conducted by R&D have been effectively utilized to generate the products.	2-2-5	Average Score: 3.3 - The appropriateness of research expertise should be re-considered. - The products of NVRC such as Bulletin, Leaflets, and Brochures made in collaboration of the trainees (printing course) reflected the achievement of project activities. - Several researches have been conducted during the project period. The research outcome can be materialized in the future.
2.3 Inhibiting factors (The grade is not applicable for this question.)		- The Indonesian economic crisis, decentralization policy, and series of re-organization of the concerning ministries have been affecting the implementation and activities of the Project.	2-3	- The economic crisis and the organizational changes in MOSA have affected the project implementation. - The decentralization policy has some negative impact on the development of network for job placement for wide areas. - The collaboration with the Ministry of Manpower and Transmigration should be strengthened to expand the job placement possibility for PWD.

Results of the Evaluation

3. EFFICIENCY

Evaluation Point	Points to be checked	Evaluation Results	Results of Questionnaire
3.1 Appropriateness of the Japanese inputs (quality, quantity, timeliness)	3.1.1 Japanese Long-term experts	- Long-term experts have properly transferred the technology as planned. - The number and the field of long-term experts have required more consideration.	3-1-1 Average Score: 3.1 - The number of long-term expert in each field requires more consideration. - The field of experts needs more consideration. (computer, sewing, R&D, management) - The competence of each expert is appropriate.
	3.1.2 Japanese Short-term experts	- The term of short-term experts should be longer than two months.	3-1-2 Average Score: 3.2 - The ground design of dispatch for short-term experts should have been made for entire project period. - The period of assignment was too short for some experts. It should be preferable for at least 2 months.
	3.1.3 CP training in Japan or the third countries	- Timelines and the field of CP trainings were appropriate. - There are more demands of CP training from the Indonesian side.	3-1-3 Average Score: 3.2 - The number of CP training in Japan should be increased. - The timeliness and the field of training were appropriate.
	3.1.4 Provision of equipment	- The quantity and quality of equipment were appropriate. - The type and kinds of equipment met the needs and were adaptable to the local market.	3-1-4 Average Score: 3.8 - The quantity and quality of equipment are appropriate, in general. - The timeliness of provision was affected by the political turmoil in 1998, 1999. - The type / kinds of equipment are fitted with the needs and are in line with the local market.
	3.1.5 Local cost support	- Local cost support is sufficient, and has been properly executed as planned.	3-1-5 Average Score: 2.8 - Local cost support was sufficient. - Local cost support was not fully supportive in the field of recruitment, job placement.
3.2 Appropriateness of the Indonesian Inputs (quality, quantity, timeliness)	3.2.1 Allocation of Indonesian CPs	- The number of CPs allocated to NVRC was less than planned.	3-2-1 Average Score: 3.2 - The number of CP allocated to NVRC has been less than planned. - The expertise of CP may not be appropriate to the position he/she has been assigned.
	3.2.2 Provided Facilities / Equipment	- The facilities and equipment provided by the Indonesian side were appropriate and properly maintained.	3-2-2 Average Score: 3.8 - The facilities have been properly maintained and have been in good condition over the project period.
	3.2.3 Operational Costs	- The Operational cost is expected to cover the cost of job placement.	3-2-3 Average Score: 3.4 - It would be preferable if the budget of the equipment maintenance, training material, recruitment, and the job placement is increased.
3.3 Utilization of inputs	3.3.1 Personnel	- Inputs by both sides were properly utilized.	3-3-1 Average Score: 3.6
	3.3.2 Equipment/facilities/supplies		3-3-2 - The inputs by both sides have been properly utilized for the most part.
	3.3.3 Operational Costs		3-3-3
3.4. Supporting System	3.4.1 Has the Joint Committee functioned well?	- The Joint Coordinating Committee was held twice. - The Steering Committees were not functioned well.	3-4-1 Average Score: 2.9 - The supporting system of the Project was partially influenced by the condition of MOSA and the decentralization policy - The Joint Coordinating Committee was held twice.
	3.4.2 Has the Steering Committee functioned well?		3-4-2 Average Score: 3.4 - The steering committee were held twice since the mid-term evaluation.

Results of the Evaluation

4

4. IMPACT

Evaluation Points	Evaluation Results		Results of Questionnaire
4.1 Impact on Project Purpose and Overall Goal	<ul style="list-style-type: none"> - The Project has greatly contributed to establish the vocational rehabilitation system, so that those who completed the vocational training at NVRC has been employed by the company as a workforce. - The number of those graduates employed by the company has been increased. 	4-1	<ul style="list-style-type: none"> -It supports the employment distribution of PWD, since NVRC has been the only institution serving to this purpose in Indonesia. - More people became aware of the ability of PWD. - The number of PWD employed by the company has been increased. - The Project greatly contributed to establish the system that those who completed the vocational training at NVRC can be employed by the company as a workforce. And the rate of employment has been gradually improved over the five years period.
4.2 Unintended positive impact	<ul style="list-style-type: none"> - The new concept of vocational rehabilitation for PWD has gradually been recognized mainly by the society and the number of companies in JABOTABEK area. - The discipline and the hardworking attitude of NVRC graduates has been encouraging the colleagues and to improve their motivation to work. - The PWD have gained The self-confidence and can make other people recognized the ability of PWD as a workforce. 	4-2	<ul style="list-style-type: none"> - NVRC shows the model of relevant institution in the field that makes the government be proud of. - The community has become aware of the ability of PWD. - The Project itself has been recognized as the one of assets of MOSA. - PWD have gained the self-confidence, and make other people understand their abilities. - It helped to obtain the recognition from the families of PWD, and they have understood that vocational rehabilitation is necessary for PWD. - The discipline and the hardworking attitude of NVRC graduates working in the company have even encouraged the colleagues and to improve their motivation to work harder. - A number of trainees at regional centers (PSBD) have expected to receive the training at NVRC. - The concept of vocational training for PWD has been properly introduced and understood by the society in JABOTABEK are.
4.3 Unintended negative impact	<ul style="list-style-type: none"> - The graduates tend to remain in JABOTABEK area which makes the employment more competitive in that area. 	4-3	<ul style="list-style-type: none"> - Many of the graduates expect to find the job in JABOTABEK area and do not return to the states they originally come from. Therefore, too many PWD tend to remain in JABOTABEK area which makes the employment in that area more competitive.
4.4 Influence of the inhibiting factors	<ul style="list-style-type: none"> - Economic crisis and the decentralization policy have affected the project implementation. 	4-4	<ul style="list-style-type: none"> - Economic crisis, and decentralization policy affected the job market in general.

Note: Grading to each question is not applicable for the criteria of "Impact".

7

5.SUSTAINABILITY

17

Evaluation Point	Points to be checked	Evaluation Results	Results of Questionnaire
5.1 Organizational Sustainability	5.1.1 Is the Indonesian government likely to continue the policy to promote the employment for disabled people?	<ul style="list-style-type: none"> - The Indonesian government will continue to promote the employment for PWD. - The administrative and operational system of vocational rehabilitation at NVRC is organized. - Since there is a great demands of vocational rehabilitation for PWD and the other regional centers and social welfare institutes are interested in NVRC, the support from the government and these organizations are expected in the future. 	5-1-1 Average Score: 3.8 -The employment of PWD has now become the one of priority issues not only in Indonesia but also in other Asian countries. - The Indonesian government (the Ministry of Manpower and Transmigration) has been monitoring the PWD's labor.
	5.1.2 Is the administrative and operational system of vocational rehabilitation system at NVRC well maintained?		5-1-2 Average Score: 3.7 - Proper management system should be implemented.
	5.1.3 Does NVRC has the sufficient support from other concerned organizations?		5-1-3 Average Score: 3.6 - The collaboration with related institutes and organizations have to be promoted. - The effective implementation of income generation activities should be promoted to generate the management funds for NVRC.
5.2 Financial Sustainability	5.2.1 Is the Indonesian government likely to continue supporting to NVRC to allocate the sufficient operational budget?	<ul style="list-style-type: none"> - The government support should be obtained to maintain the current level of NVRC activities. - The budget for training material, equipment maintenance (including the cost of spare parts), the job placement should be secured. 	5-2-1 Average Score: 3.3 - The budget allocation may not be sufficient in the future for NVRC, but the government support will be provided to maintain the current level of NVRC activities.
5.3 Technical Sustainability	5.3.1 Is the transferred technology properly utilized?	<ul style="list-style-type: none"> - Technical transfer to the Indonesian counterparts has been progressed in accordance with the Plan of Operation. - It is necessary to strengthen the skills of equipment maintenance 	5-3-1 Average Score: 3.8 - The transferred technology has been properly utilized. - The technical expertise on the equipment maintenance should be improved.
	5.3.2 Are the trained Indonesian instructors / NVRC staff appropriately posted?		5-3-2 Average Score: 3.7 -Some instructors are posted to the position of whose expertise may not match.
	5.3.3 Are the trained Indonesian administrators still remaining in related positions within MOSA?		5-3-3 Average Score: 3.7
	5.3.4 Are the facilities and equipment well maintained?		5-3-4 Average Score: 3.6 - Facilities and equipment had not been properly maintained. Therefore, several computers were robbed. - More support and guidance may be necessary for the maintenance of training equipment.
5.4 Future perspective of the project	<ul style="list-style-type: none"> - Communication and socialization of training results have to be improved. - Funds for equipment maintenance and provision of training materials should be obtained. 	5-4 <ul style="list-style-type: none"> - Communication and socialization of training result have to be improved. - More training for English are required because the computer related work requires the English capability. - The Government of Indonesia has been in the process of requesting to the Government of Japan through JICA to extend the 1 year cooperation period in order to develop wider vocational rehabilitation system in NVRC to the 6 PSBDs in 6 provinces. - In the future, Indonesian side willing to enlarge the NVRC capacity from 100 to 150 clients in order to accommodate people with disabilities who has elementary educational background which made up of almost 80% from total people with disabilities in Indonesia. In line with this, Indonesia side will increase the quantity as well as quality of dormitories, vocational workshop on handicraft and wooden. 	

7

Annex 5 Achievement of the Plan:Each Section

SECTION	ACHIEVEMENT
MANAGEMENT OF TRAINING CENTER	
Management of Training Center	<p>1 The organization of NVRC has been established, however, the management requires further improvement. It is recommended that NVRC shall continuously monitor the market needs or types of disabilities for sustainable progress as a center of centers for vocational rehabilitation in Indonesia.</p> <p>2 It is advised that NVRC should work in closer cooperation with relating organizations including PSBDs. Systematic and spontaneous cooperation with industry is necessary for increasing job opportunities in the future .</p> <p>3 The staff of NVRC should be properly qualified in accordance with their specialities. MOSA is advised to take an initiative among other ministries in formulating system to qualify those who are involved in vocational assessment&guidance, vocational training and placement.</p>
VOCATIONAL TRAINING	
Metal works	<p>1 Technical capacity of the instructors has been built up to reach the sufficient level.</p> <p>2 Training materials have been fully developed..</p> <p>3 The curriculum needs to be reviewed so that the allocation of time and instructors between three subjects -Machine works, Welding and Motor & Diesel could be more balanced.</p>
Electronics	<p>1 Technical capacity of instructors has been improving, and will be reached to the sufficient level by the end of the project</p> <p>2 Development of training materials has been progressed, and will be completed by the end of the project.</p> <p>3 The training course can be continued under the current curriculum.</p>
Printing	<p>1 Technical capacity of instructors has reached to the sufficient level except for operation method of several equipments.</p> <p>2 Development of training materials has been progressed, and will be completed by the end of the project.</p> <p>3 The training course can be continued under the current curriculum, however, the provision of spareparts and consumables are indispensable to conduct training courses effectively.</p> <p>4 Several components of computers provided by JICA were stolen. NVRC is advised to put more efforts on the proper maintenance and security of the equipments.</p>

(1)

Sewing	<ol style="list-style-type: none">1 Technical capacity of the instructors has been built up to reach the sufficient level:2 Training materials have been fully developed..3 . Instructors are able to manage the minor repair of the equipment, however, some equipments are remained broken. It is assessed that the duration of short-term experts were not long enough to fully transfer his or her technology regarding operation and maintenance of equipments.4 The training course can be continued under the current curriculum.
Computer	<ol style="list-style-type: none">1 Technical capacity of the instructors has been progressed enough to continue the training courses under current curriculum, however, they are encouraged to make efforts to complete the development of training materials by the end of the project.2 Some of the equipments provided by JICA have become out of date due to the rapid growth of Information Technology, which has made it more difficulut to meet the needs of industry.3 Several computers and printers provided by JICA were stolen. NVRC is advised to put more efforts on the proper maintenance and security of the equipments.4 Provision of spareparts are necessary to conduct training courses effectively.
VOCATIONAL REHABILITATION	
Vocational Guidance & Assessment	Skills of staff has improved, and the recruitment and selection system has been well functioning in wide areas. However, re-organization of MOSA and decentralization of the government has affected the collaboration with concerning ministries/organizations including Ministry of Manpower and Transmigration and local governments in buiding up a wide system of job placement .
Staff Training	<ol style="list-style-type: none">1 Skills of staff has been improved, however, problem of budget has made it difficult to carry out staff training for in more phased and systematic way.2 Teaching and management method of staff training has been transfered, however, evaluation method has not been taught in systematic and continuous way.3 As the decentralization policy of the Government of Indonesia caused the regional offices of MOSA resolved, and replaced their functions with social welfare offices under local governments, the recruitment of adequate participants has been hindered.4 Various kinds of teaching materials has been developed throughout the activities of Solo and NVRC in terms of vocational guidance/assessment or vocational training. Futher development of the teaching materials will be highly encouraged as well as making full use of all the materials.
Research and Development(R&D)	<ol style="list-style-type: none">1 Basic function of research and development has been established although no long-term experts have been assigned to this division.2 Since specialized researcher has not been assigned to this division, all the R&D works need to be approved by the relating department of MOSA. It is advised that R&D division of NVRC shall be qualified as an independent official institution for R&D.

fa

Project Design Matrix (PDM) : The Project for The National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS		
<p align="center">OVERALL GOAL</p> <p>Employment for the disabled people is promoted by the establishment of vocational rehabilitation system in the Republic of Indonesia.</p>	<p>The employment rate for the graduate trainees and the disabled people increases.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Data of Ministry of Social Affairs • Data of Ministry of Manpower • Employment survey on the disabled people in enterprises • Follow up survey on trainees 	<p>The policy for the disabled people is unchanged in the Republic of Indonesia.</p>		
<p align="center">PROJECT PURPOSE</p> <p>Vocational rehabilitation system is established in the National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People (NVRC).</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Manuals of Vocational Guidance / Assessment are fully provided. • Teaching materials of Vocational Training are fully provided. • In each field, Vocational Training is executed. • Teaching materials and manuals of Staff Training are fully provided. • Staff Training is executed. • Achievements of R&D in the selected theme are reflected to the activities of NVRC 	<ul style="list-style-type: none"> • The status table on the manuals and teaching materials development • The status table on the vocational training performance • The status table on the staff training performance • The report of R&D activities 	<ul style="list-style-type: none"> • Cooperation by Ministry of Manpower and related organizations concerning placement • The establishment of law and institution for employment promotion of the disabled people. • The understanding of entrepreneur for employment and social participation of the disabled people. • The social understanding for employment and social participation of the disabled people. 		
<p align="center">OUTPUTS</p> <p>1) The organization and functions of NVRC are established. 2) Staffs of Vocational Guidance / Assessment are trained. 3) Staffs of Vocational Training are trained in each field. 4) Staffs of Staff Training are trained. 5) Staffs of Research and Development (R&D) are trained.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Necessary staff and budget is secured. • The knowledge and techniques of Vocational Guidance / Assessment staff reaches the sufficient level. • The knowledge and techniques of Vocational Training staff reaches the sufficient level. • The knowledge and techniques of Staff Training staff reaches the sufficient level. • The knowledge and techniques of R&D staff reaches the sufficient level. 	<ul style="list-style-type: none"> • The records on operation and management of NVRC • The evaluation list for staff of NVRC 	<ul style="list-style-type: none"> • The staff in the NVRC remain in the centre. • The financial support to NVRC is sufficient • The financial support to R&D is sufficient. 		
<p align="center">ACTIVITIES</p> <p>(next page)</p>	<p align="center">INPUTS</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>INDONESIAN SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Necessary personnel to implement the project 2. Necessary expenses to implement the project 3. Office space for experts </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>JAPANESE SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Personnel <ul style="list-style-type: none"> • Long-term experts Chief Advisor Coordinator Vocational Training (Metal work, Prining, Electronics) Staff Training Research and Development • Short-term experts When necessity arises. 2. Training in Japan 3. Equipment provision </td> </tr> </table>		<p>INDONESIAN SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Necessary personnel to implement the project 2. Necessary expenses to implement the project 3. Office space for experts 	<p>JAPANESE SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Personnel <ul style="list-style-type: none"> • Long-term experts Chief Advisor Coordinator Vocational Training (Metal work, Prining, Electronics) Staff Training Research and Development • Short-term experts When necessity arises. 2. Training in Japan 3. Equipment provision 	<ul style="list-style-type: none"> • The staff in the NVRC are secured. • Counterpart personnel remain in NVRC. • The trainees for vocational training are secured. • The necessary trinees for Staff Training are secured. • The import of machineries are smoothly proceeded. <p align="center">PRE-CONDITIONS</p> <ul style="list-style-type: none"> • NVRC is constructed as scheduled. • The staff of NVRC is assigned and trained as scheduled. • The C/Ps trained in RC solo are utilized. • Cooperation with RC Solo keeps steadily. • The financial budget of NVRC is secured as scheduled.
<p>INDONESIAN SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Necessary personnel to implement the project 2. Necessary expenses to implement the project 3. Office space for experts 	<p>JAPANESE SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Personnel <ul style="list-style-type: none"> • Long-term experts Chief Advisor Coordinator Vocational Training (Metal work, Prining, Electronics) Staff Training Research and Development • Short-term experts When necessity arises. 2. Training in Japan 3. Equipment provision 				

ACTIVITIES

1) Establishment of operation and management system in NVRC

- 1)-1 To establish the organization and structure
- 1)-2 To assign appropriate and qualified personnel
- 1)-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment

2) Technical transfer in Vocational Guidance / Assessment

- 2)-1 To implement the Vocational Guidance / Assessment system developed at the National Rehabilitation Centre, for the Physically Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (RC Solo).
 - a) To implement the recruitment system for wide area
 - b) To implement the selection system for wide area
 - c) To implement the placement system for wide area
- 2)-2 To improve the Vocational Guidance / Assessment system developed at RC Solo.
 - a) To improve the recruitment system for wide area
 - b) To improve the selection system for wide area
 - c) To revise the selection method and make the selection standard
 - d) To improve the placement system for wide area
- 2)-3 To assess and revise the system mentioned above

3) Technical transfer in Vocational Training

Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing

- 3)-1 To make vocational training plans
- 3)-2 To develop curricula and improve them
- 3)-3 To make teaching materials
- 3)-4 To develop training method and technical specialties
- 3)-5 To implement training courses
- 3)-6 To improve operation and maintenance methods of training machines
- 3)-7 To develop the skill evaluation method
- 3)-8 To evaluate the contents of courses

4) Technical transfer in Staff Training

- 4)-1 To make staff training plans
- 4)-2 To develop curricula and improve them
- 4)-3 To make teaching materials
- 4)-4 To develop training method and the management method
- 4)-5 To develop evaluation method

5) Technical transfer in R&D

- 5)-1 To make R&D plans
- 5)-2 To develop R&D method
- 5)-3 To develop the analysis techniques
- 5)-4 To implement R&D
- 5)-5 To evaluate the results of R&D and to reflect them of the activities of NVRC

*Activity in (5-4) is implemented by the Indonesian side.

The Revised Project Design Matrix (PDM2) : The Project for the National Vocational Rehabilitation Centre for Disabled People

Project Name: The Project for The National Vocational Rehabilitation centre for Disabled People

Duration: 20.12.1997 - 19.12.2002

Project Area: Indonesia

Target group: Disable People in Indonesia

Date: 28.6.2000

NARRATIVE SUMMARY	INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
OVERALL GOAL			
Employment for disabled people is promoted by the establishment of vocational rehabilitation system in the Republic of Indonesia.	<ul style="list-style-type: none"> • Number of disabled people who received vocational rehabilitation increases • Number of disabled people who are employed increases 	<ul style="list-style-type: none"> • Documents of BKSN • Document of Ministry of Manpower 	
PROJECT PURPOSE			
Vocational rehabilitation system is established in the National Vocational Rehabilitation Centre for disabled people (NVRC).	<ul style="list-style-type: none"> • Ratio of people employed after Magang in the same company to people placed increase. (75% at the end of the project) • Ratio of graduates who are employed (62% at the end of the project), Wage level, Ratio of graduates who quite the job after employment. • Evaluation of NVRC by trainees and graduates • Evaluation of graduates by employers • Number of visitors from other organizations • Degree of technical transfer to C/P 	<ul style="list-style-type: none"> • NVRC documents • Interviews with companies which accept Magang or employ trainees • Interviews with or questionnaires to trainees and graduates • Experts interviews • Interviews with C/P 	<ul style="list-style-type: none"> • The Indonesian polices related to vocational rehabilitation do not change
OUTPUTS			
<p>1) The organization and functions of NVRC are established.</p> <p>2) Recruitment and selection system and job placement system are implemented in wide areas.</p> <p>3) Vocational Training is implemented.</p> <p>4) The staff of social welfare institutes etc. are trained.</p> <p>5) Function of Research and Development (R&D) is established.</p>	<p>1) • Frequencies of staff absence, Growth ratio of budget, Specialities of C/P, Operation rate of machines</p> <p>• Number of patrol by member of the safety committee</p> <p>2) • Trends of number of applicants (by region)</p> <p>• Trends of number of trainees (by region)</p> <p>• Number of companies which accept Magang</p> <p>• Frequencies of case conferences</p> <p>• Regional distribution of graduates employed</p> <p>• Frequencies of visiting to companies for Magang and job seeking</p> <p>• Frequencies of aftercare (in person, by mail, by telephone)</p> <p>• Adaptability of training courses to Magan</p> <p>3) • Number of Texts and manuals produced</p> <p>• Number of curriculum committee held</p> <p>• Trends of number of trainees</p> <p>• Actual hours of training</p> <p>4) • Number of prepared manuals and teaching materials</p> <p>• Number of staff training and participants</p> <p>• Evaluation by the participants of staff training courses</p> <p>• Whether staff training is implemented along the Policy</p> <p>5) • Number of reports prepared</p> <p>• Number of presentations outside NVRC</p>	<ul style="list-style-type: none"> • NVRC documents 	<ul style="list-style-type: none"> • C/P remain in NVRC • Cooperation with related organization, such as Ministry of Manpower is secured • Discrimination against disabled people does not increase • Economic conditions do not get worse than when the project started.

ACTIVITIES	INPUTS				
(mentioned below)	INDONESIAN SIDE 1. Necessary personnel to implement the project 2. Necessary expenses and materials to implement the project 3. Training facilities and office spaces for Japanese experts	JAPANESE SIDE 1. Dispatch of Experts • Long-term experts Chief Advisor Coordinator Vocational Training (Metal work, Printing, Electronics) Staff Training Vocational Guidance/Assessment • Short-term experts If necessary. 2. Training in Japan 3. Equipment provision	<ul style="list-style-type: none"> • The structure and function of related governmental organizations does not change. • NVRC staff are secured. • NVRC staff do not quit • Local cost is secured. <p style="text-align: center;">PRE-CONDITIONS</p> <ul style="list-style-type: none"> • Work motivation of disabled people is high. • NVRC is constructed as scheduled. • Cooperation with the Solo project is secured. 		
ACTIVITIES					
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1) Establishment of organization and functions of NVRC 1)-1 To establish the organization and structure 1)-2 To assign appropriate and qualified personnel 1)-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment 2) Vocational Guidance / Assessment 2)-1 To develop recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-2 To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-3 To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas 3) Vocational Training Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing 3)-1 To make vocational training plans 3)-2 To develop curricula 3)-3 To make teaching materials 3)-4 To improve technical specialities of instructors 3)-5 To improve teaching technique 3)-6 To implement training courses 3)-7 To improve on each item above </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 4) Staff Training 4)-1 To make staff training plans 4)-2 To develop curricula 4)-3 To make teaching materials 4)-4 To improve management method 4)-5 To implement training courses 4)-6 To develop evaluation method 4)-5 To improve on each item above 5) Research and Development (R&D) 5)-1 To make R&D plans 5)-2 To improve R&D method 5)-3 To improve the analysis techniques 5)-4 To implement R&D 5)-5 To utilize the results of R&D for activities of NVRC 5)-6 To spread the results of R&D and all activities of NVRC allover Indonesia 5)-7 To improve on each item above </td> </tr> </table>				1) Establishment of organization and functions of NVRC 1)-1 To establish the organization and structure 1)-2 To assign appropriate and qualified personnel 1)-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment 2) Vocational Guidance / Assessment 2)-1 To develop recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-2 To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-3 To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas 3) Vocational Training Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing 3)-1 To make vocational training plans 3)-2 To develop curricula 3)-3 To make teaching materials 3)-4 To improve technical specialities of instructors 3)-5 To improve teaching technique 3)-6 To implement training courses 3)-7 To improve on each item above	4) Staff Training 4)-1 To make staff training plans 4)-2 To develop curricula 4)-3 To make teaching materials 4)-4 To improve management method 4)-5 To implement training courses 4)-6 To develop evaluation method 4)-5 To improve on each item above 5) Research and Development (R&D) 5)-1 To make R&D plans 5)-2 To improve R&D method 5)-3 To improve the analysis techniques 5)-4 To implement R&D 5)-5 To utilize the results of R&D for activities of NVRC 5)-6 To spread the results of R&D and all activities of NVRC allover Indonesia 5)-7 To improve on each item above
1) Establishment of organization and functions of NVRC 1)-1 To establish the organization and structure 1)-2 To assign appropriate and qualified personnel 1)-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment 2) Vocational Guidance / Assessment 2)-1 To develop recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-2 To implement recruitment and selection system and job placement system in wide areas 2)-3 To improve on recruitment and selection system and job placement system in wide areas 3) Vocational Training Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing 3)-1 To make vocational training plans 3)-2 To develop curricula 3)-3 To make teaching materials 3)-4 To improve technical specialities of instructors 3)-5 To improve teaching technique 3)-6 To implement training courses 3)-7 To improve on each item above	4) Staff Training 4)-1 To make staff training plans 4)-2 To develop curricula 4)-3 To make teaching materials 4)-4 To improve management method 4)-5 To implement training courses 4)-6 To develop evaluation method 4)-5 To improve on each item above 5) Research and Development (R&D) 5)-1 To make R&D plans 5)-2 To improve R&D method 5)-3 To improve the analysis techniques 5)-4 To implement R&D 5)-5 To utilize the results of R&D for activities of NVRC 5)-6 To spread the results of R&D and all activities of NVRC allover Indonesia 5)-7 To improve on each item above				

ANNEX II. PROJECT DESIGN MATRIX

(NARRATIVE SUMMARY)	(INDICATORS)	(MEANS OF VERIFICATION)	(IMPORTANT ASSUMPTIONS)
<p align="center">(OVERALL GOAL)</p> <p>Employment for disabled people is promoted by the establishment of vocational rehabilitation system in the Republic of Indonesia.</p>	<p>The employment rate for the graduates and disabled people increases.</p>	<ul style="list-style-type: none"> Data of Ministry of Social Affairs Data of Ministry of Manpower Employment survey on the disabled people in enterprises Follow up survey on trainees 	<p>The policy for disabled people is unchanged in the Republic of Indonesia.</p>
<p align="center">(PROJECT PURPOSE)</p> <p>Vocational rehabilitation system is established in the National Vocational Rehabilitation Centre for disabled people (NVRC).</p>	<ul style="list-style-type: none"> Manuals of Vocational Guidance / Assessment are fully provided. Teaching materials of Vocational Training are fully provided. In each field, Vocational Training is executed. Teaching materials and manuals of Staff Training are fully provided. Staff Training is executed. Achievements of R&D in the selected theme are reflected to the activities of NVRC. 	<ul style="list-style-type: none"> The status table on the manuals and teaching materials development The status table on the vocational training performance The status table on the staff training performance The report of R&D activities 	<ul style="list-style-type: none"> Cooperation by Ministry of Manpower and related organizations concerning placement The establishment of law and institution for employment promotion of disabled people The understanding of entrepreneur for employment and social participation of disabled people The social understanding for employment and social participation of disabled people
<p align="center">(OUTPUTS)</p> <ol style="list-style-type: none"> The organization and functions of NVRC are established. Staffs of Vocational Guidance/Assessment are trained. Staffs of Vocational Training are trained in each field. Staffs of Staff Training are trained. Staffs of Research and Development (R&D) are trained. 	<ul style="list-style-type: none"> Necessary staff and budget is secured. The knowledge and techniques of Vocational Guidance / Assessment staff reaches the sufficient level. The knowledge and techniques of Vocational Training staff reaches the sufficient level. The knowledge and techniques of Staff Training staff reaches the sufficient level. The knowledge and techniques of R&D staff reaches the sufficient level. 	<ul style="list-style-type: none"> The records on operation and management of NVRC The evaluation list for staff of NVRC 	<ul style="list-style-type: none"> The staff in the NVRC remain in the centre. The financial support to NVRC is sufficient. The financial support to R&D is sufficient.
<p align="center">(ACTIVITIES)</p> <p align="center">Appendix 1</p>	<p align="center">(INPUTS)</p> <p>INDONESIAN SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> Necessary personnel to implement the project Necessary expenses to implement the project Office space for experts <p>JAPANESE SIDE</p> <ol style="list-style-type: none"> Personnel <ul style="list-style-type: none"> Long-term expert <ul style="list-style-type: none"> Chief Advisor Coordinator Vocational Training (Metal work, Printing) Staff Training Short-term experts as necessity arises Training in Japan Equipment provision 		<ul style="list-style-type: none"> The staff in the NVRC are secured. Counterpart personnel remain in the NVRC. The trainees for vocational training are secured. The necessary trainees for Staff Training are secured. The import of machineries are smoothly proceeded. <p align="center">(PRE-CONDITIONS)</p> <ul style="list-style-type: none"> NVRC centre is constructed as scheduled. The staff of NVRC is assigned and trained as scheduled. The CTR, on loan to RC Solo, are returned. Cooperation with RC Solo keeps steadily. The financial budget of NVRC is secured as scheduled.

10-9

12

(ACTIVITIES)

1. Establishment of operation and management system in NVRC.

- 1-1 To establish the organization and structure
- 1-2 To assign appropriate and qualified personnel
- 1-3 To establish a maintenance system for facilities and equipment.

2. Technical transfer in Vocational Guidance /Assessment

- 2-1 To implement the Vocational Guidance/Assessment system developed at the National Rehabilitation Centre, for the Physically Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (RC Solo).
 - a) To implement the recruitment system for wide area
 - b) To implement the selection system for wide area
 - c) To implement the placement system for wide area
- 2-2 To improve the Vocational Guidance/Assessment system developed at RC Solo.
 - a) To improve the recruitment system for wide area
 - b) To improve the selection system for wide area
 - c) To revise the selection method and make the selection standard
 - d) To improve the placement system for wide area
- 2-3 To assess and revise the system mentioned above

3. Technical transfer in Vocational Training

Following activities in the fields of Metal Work, Electronics, Computer, Machine Sewing and Printing

- 3-1 To make vocational training plans
- 3-2 To develop curricula and improve them
- 3-3 To make teaching materials
- 3-4 To develop training method and technical specialties
- 3-5 To implement training courses
- 3-6 To improve operation and maintenance methods of training machines
- 3-7 To develop the skill evaluation method
- 3-8 To evaluate the contents of courses

4. Technical transfer in Staff Training

- 4-1 To make staff training plans
- 4-2 To develop curricula and improve them
- 4-3 To make teaching materials
- 4-4 To develop training method and the management method
- 4-5 To develop evaluation method

5. Technical transfer in R&D

- 5-1 To make R&D plans
- 5-2 To develop R&D method
- 5-3 To develop the analysis techniques
- 5-4 To implement R&D
- 5-5 To evaluate the results of R&D and to reflect them of the activities of NVRC.

* Activity in (5-4) is implemented by the Indonesian side.

M. J.

F

評価用プロジェクトデザインマトリックスI : インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト (終了時評価)

プロジェクト名: インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト

期間: 1997年12月19日-2002年12月20日

プロジェクト地域: インドネシア

ターゲットグループ: インドネシアの障害者

作成日: 2002年6月18日

プロジェクトの要約	指標	指標データ入力年度	外部条件
上級目標 インドネシア国において、職業リハビリテーションシステムが確立し、身体障害者の就業が促進される。	<ul style="list-style-type: none"> * 職業リハビリテーションを受けた障害者数 * 雇用されている障害者数 	<ul style="list-style-type: none"> * 社会福祉省の資料 * 労働者の資料 	
プロジェクト目標 国立障害者職業リハビリテーションセンター (NVRC) において、職業リハビリテーションシステムが確立される。	<ul style="list-style-type: none"> * マガン受入企業への就職率 (プロジェクト終了時に75%に達する) * 訓練終了生の就職率 (プロジェクト終了時に62%に達する) * 訓練終了生の賃金レベル、訓練終了生の離職率 * 訓練生、訓練終了生のNVRCに対する評価 * 雇用主による訓練終了生の評価 * 他機関からの訪問者数 * C/Pへの技術移転度 	<ul style="list-style-type: none"> * NVRCの資料 * NVRCの資料 * NVRCの資料 * 企業インタビュー (マガン受入先、就職受入先) * NVRCの資料 * インドネシアカウンターパートへのインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> * 「イ」国の障害者への職業リハビリテーションに関する政策に変更がない。 * 事業、選考、就職試験に関する全国的なシステムが確立する。 * 地方のリハビリテーションセンターや関連機関の施設が適切に維持管理される。 * 民間企業の協力が得られる。
成果			
1 NVRCの組織・機能が確立される。	1-1 職員の数 1-2 予算の増加率 1-3 配置されている職員の専門性 1-4 機械の稼働率 1-5 安全委員会の委員による巡回監視の回数 1-6 職員の配置 1-7 定期的な運営委員会の開催 1-8 NVRCの組織図	1-1 NVRCの資料 1-2 NVRCの資料 1-3 NVRCの資料 1-4 NVRCの資料 1-5 NVRCの資料 1-6 NVRCの資料 1-7 NVRCの資料 1-8 NVRCの資料	<ul style="list-style-type: none"> * インドネシア側のC/Pが離職しない。 * 労働者等の関連機関の協力が得られる。 * 障害者への偏見が悪化しない。 * 景気がプロジェクト開始時より悪くならない。
2 広域の募集・選考システム、職業紹介システムが確立される。	2-1 応募者数の推移 (地域別) 2-2 入所者数の推移 (地域別) 2-3 マガンを受け入れた企業の数 2-4 ケース会議の開催回数 2-5 就職した訓練終了生の地域分布 2-6 マガン、就職受入先開拓のための事業所訪問数 2-7 訓練終了生への職場適応指導回数 (訪問、文書、電話) 2-8 訓練コース内容とマガンの適合度	2-1 NVRCの資料 2-2 NVRCの資料 2-3 NVRCの資料 2-4 NVRCの資料 2-5 NVRCの資料 2-6 NVRCの資料 2-7 NVRCの資料 2-8 NVRCの資料	
3 職業訓練が強化される。	3-1 テキスト、マニュアルの作成数 3-2 カリキュラム委員会開催回数 3-3 訓練数の推移 3-4 訓練時間の変遷 3-5 研修コースの数の推移	3-1 NVRCの資料 3-2 NVRCの資料 3-3 NVRCの資料 3-4 NVRCの資料 3-5 NVRCの資料	
4 社会福祉施設等の職員の技能が向上する。	4-1 整備したマニュアルや教材の数 4-2 職員研修の実施回数 4-3 職員研修の参加者数 4-4 研修を受けた職員による評価 4-5 職員研修は大系に沿って実施されているか。 4-6 新しく導入される研修技能の数 4-7 就職対応に関するセミナーやワークショップの開催数	4-1 NVRCの資料 4-2 NVRCの資料 4-3 NVRCの資料 4-4 NVRCの資料 4-5 NVRCの資料 4-6 NVRCの資料 4-7 NVRCの資料	
5 調査・研究の機能が確立される。	5-1 作成された報告書の数 5-2 NVRC外で実施された研究発表回数	5-1 NVRCの資料 5-2 NVRCの資料	

活動	収入				
(下段に記載)	インドネシア側	日本側	<ul style="list-style-type: none"> * 関連の政府機関の組織・機能が変化しない。 * NVRCに関する政策が変化しない。 * NVRCの財政状況が悪化しない。 * NVRC職員が確保される。 * NVRC職員が離職しない。 * NVRCの活動費が確保される。 		
	<ol style="list-style-type: none"> 1 プロジェクト実施に必要な人員 2 プロジェクト実施に必要な経費と資材 3 訓練施設、日本人専門家執務室 	<ol style="list-style-type: none"> 1 専門家派遣 <ul style="list-style-type: none"> 長期専門家 <ul style="list-style-type: none"> チーフアドバイザー 調整員 職業訓練（金属加工、印刷、電気） 職員研修 職業指導 短期専門家 <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて 2 研修員受入 3 供与機材 4 現地コスト負担 		<p style="text-align: center;">前提条件</p> <ul style="list-style-type: none"> * 障害者の就業意欲が高い。 * センターの施設が予定通り建設される。 * ソロRCからの協力が確保される。 	
活動	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1) NVRCの組織と機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 1)-1 組織態様を整備する。 1)-2 適切な人材を配置する。 1)-3 施設・機材の維持管理体制を整備する。 2) 広域の募集・選考システムおよび職業紹介システムが確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 2)-1 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを開発する。 2)-2 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを実施する。 2)-3 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを改善する。 3) 職業訓練が強化される。 <p>金属加工、電気、コンピューター、縫製、印刷分野での活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 3)-1 職業訓練計画を作成する。 3)-2 カリキュラムを作成する。 3)-3 訓練教材を作成する。 3)-4 指導員の専門性を向上させる。 3)-5 指導技法を向上させる。 3)-6 訓練コースを実施する。 3)-7 上記各項目を改善する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 4) <u>社会福祉施設等の職員の技能が向上する。</u> <ol style="list-style-type: none"> 4)-1 職員研修計画を作成する。 4)-2 カリキュラムを作成する。 4)-3 研修教材を作成する。 4)-4 運営方法を向上させる。 4)-5 研修コースを実施する。 4)-6 評価方法を開発する。 4)-7 上記各項目を改善する。 5) 調査・研究の機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 5)-1 調査・研究計画を作成する。 5)-2 実施方法を向上させる。 5)-3 分析手法を向上させる。 5)-4 調査・研究を実施する。 5)-5 調査・研究成果をセンターの活動に反映させる。 5)-6 調査・研究成果およびNVRCの活動成果をインドネシア全国に普及させる。 5)-7 上記各項目を改善する。 </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> 1) NVRCの組織と機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 1)-1 組織態様を整備する。 1)-2 適切な人材を配置する。 1)-3 施設・機材の維持管理体制を整備する。 2) 広域の募集・選考システムおよび職業紹介システムが確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 2)-1 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを開発する。 2)-2 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを実施する。 2)-3 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを改善する。 3) 職業訓練が強化される。 <p>金属加工、電気、コンピューター、縫製、印刷分野での活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 3)-1 職業訓練計画を作成する。 3)-2 カリキュラムを作成する。 3)-3 訓練教材を作成する。 3)-4 指導員の専門性を向上させる。 3)-5 指導技法を向上させる。 3)-6 訓練コースを実施する。 3)-7 上記各項目を改善する。 	<ol style="list-style-type: none"> 4) <u>社会福祉施設等の職員の技能が向上する。</u> <ol style="list-style-type: none"> 4)-1 職員研修計画を作成する。 4)-2 カリキュラムを作成する。 4)-3 研修教材を作成する。 4)-4 運営方法を向上させる。 4)-5 研修コースを実施する。 4)-6 評価方法を開発する。 4)-7 上記各項目を改善する。 5) 調査・研究の機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 5)-1 調査・研究計画を作成する。 5)-2 実施方法を向上させる。 5)-3 分析手法を向上させる。 5)-4 調査・研究を実施する。 5)-5 調査・研究成果をセンターの活動に反映させる。 5)-6 調査・研究成果およびNVRCの活動成果をインドネシア全国に普及させる。 5)-7 上記各項目を改善する。
<ol style="list-style-type: none"> 1) NVRCの組織と機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 1)-1 組織態様を整備する。 1)-2 適切な人材を配置する。 1)-3 施設・機材の維持管理体制を整備する。 2) 広域の募集・選考システムおよび職業紹介システムが確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 2)-1 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを開発する。 2)-2 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを実施する。 2)-3 広域の募集・選考システムおよび就職斡旋システムを改善する。 3) 職業訓練が強化される。 <p>金属加工、電気、コンピューター、縫製、印刷分野での活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 3)-1 職業訓練計画を作成する。 3)-2 カリキュラムを作成する。 3)-3 訓練教材を作成する。 3)-4 指導員の専門性を向上させる。 3)-5 指導技法を向上させる。 3)-6 訓練コースを実施する。 3)-7 上記各項目を改善する。 	<ol style="list-style-type: none"> 4) <u>社会福祉施設等の職員の技能が向上する。</u> <ol style="list-style-type: none"> 4)-1 職員研修計画を作成する。 4)-2 カリキュラムを作成する。 4)-3 研修教材を作成する。 4)-4 運営方法を向上させる。 4)-5 研修コースを実施する。 4)-6 評価方法を開発する。 4)-7 上記各項目を改善する。 5) 調査・研究の機能が確立される。 <ol style="list-style-type: none"> 5)-1 調査・研究計画を作成する。 5)-2 実施方法を向上させる。 5)-3 分析手法を向上させる。 5)-4 調査・研究を実施する。 5)-5 調査・研究成果をセンターの活動に反映させる。 5)-6 調査・研究成果およびNVRCの活動成果をインドネシア全国に普及させる。 5)-7 上記各項目を改善する。 				

評価グリッド：インドネシア国立障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト(終了時評価)

作成日：2002年6月18日

4. 評価グリッド

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
実績	上位目標の達成度(見込み)	職業リハビリテーションを受けた障害者の数 雇用されている障害者数	社会福祉省、労働省の資料等 社会福祉省、労働省の資料等	資料レビュー 資料レビュー
	プロジェクト目標達成度	マガン受入企業への就職率(75%) 訓練修了生の就職率(62%)	NVRCの資料	資料レビュー 資料レビュー
	成果の達成度	成果1 予算の増加率 成果2 就職した訓練修了生の地域分布 成果3 研修コースの数の推移 成果4 研修をうけた職員による評価 成果5 NVRC外で実施された研究発表回数	NVRCの資料、モニタリング報告書等 NVRCの資料、モニタリング報告書等 NVRCの資料、モニタリング報告書等 NVRCの資料、モニタリング報告書等 NVRCの資料、モニタリング報告書等	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー
	投入の実績	インドネシア側 *プロジェクトに必要な人員 *プロジェクト実施に必要な経費と資材 *訓練施設、日本人専門家執務室 日本側 *専門家派遣 *研修員受入 *供与機材 *現地コスト負担	モニタリング報告書等 モニタリング報告書等 モニタリング報告書等 モニタリング報告書等 モニタリング報告書等 モニタリング報告書等	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー
	活動の進捗状況	プロジェクト進捗状況	モニタリング報告書等 CPs, 専門家	資料レビュー アンケート、インタビュー
	モニタリングの実施状況	モニタリングの仕組み PDM、詳細活動の軌道修正内容 外部条件の変化への対応 内部化の状況	モニタリング報告書等 過去のPDM(中間評価) モニタリング報告書等、CPs、専門家 モニタリング報告書等、CPs、専門家	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー、インタビュー 資料レビュー、インタビュー
実施プロセス	専門家とカウンターパートとの関係性	コミュニケーションの状況 共同作業による問題解決方法の見直し状況 カウンターパートの変化(主体性、積極性)	CPs, 専門家 モニタリング報告書 CPs, 専門家	アンケート、インタビュー 資料レビュー インタビュー
	受益者の事業への関わり方	障害者(訓練生)の認識の変化	CPs, 専門家	アンケート、インタビュー
	相手国実施機関のオーナーシップ	NVRCの参加の度合い 予算の手当て カウンターパートの適正度	CPs, 専門家 モニタリング報告書 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー 資料レビュー

評価項目	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
1. 妥当性 被援助国のニーズと整合性、日本の援助事業としての妥当性があるか。	1.1 上位目標のインドネシア国の開発政策との整合性	インドネシアの開発計画における障害者雇用に関する政策 インドネシアの障害者職業訓練政策 インドネシア政府のNVRCへの位置付け	国家開発計画 障害者（雇用）関係法 社会福祉省の政策 CPs	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー
	1.2 プロジェクト目標の相手側のニーズとの整合性	インドネシア政府のNVRCへの位置付け NVRCのニーズとの整合性	社会福祉省の政策 CPs、専門家	資料レビュー アンケート、インタビュー
	1.3 プロジェクト目標のターゲットグループのニーズとの整合性	ターゲットグループの選定、規模の適正度	CPs、専門家	アンケート、インタビュー
	1.4 上位目標の日本の開発援助政策との整合性	日本の国別援助方針	JICAの関係資料	資料レビュー
2. 有効性（目標達成度） プロジェクトの実施により、期待される効果が得られたか？ プロジェクトは有効であったといえるか？	2.1 プロジェクト目標の達成度合い（適正か）	NVRC訓練修了生の就職率 マガン受入企業への就職率 訓練修了生の技術レベル（訓練生技能評価）	NVRC、プロジェクトの資料 NVRC、プロジェクトの資料 NVRC、プロジェクトの資料 CPs、専門家	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー アンケート、インタビュー
	2.2 プロジェクトの目標と成果の関連	職業訓練の実施状況 職員訓練の実施状況	CPs、専門家 CPs、専門家	アンケート、インタビュー アンケート、インタビュー
	2.3 外部条件の影響	職員の研修コースの評価	CPs、専門家	アンケート、インタビュー
3. 効率性 プロジェクトは効率的であったか。（投入された資源量に見合った成果が達成されているか。）	3.1 日本側投入の適正度	専門家派遣（人数、タイミング、分野） 供与機材（種類、機種、数、タイミング）の適正 研修員受入（タイミング、人数、研修内容）	CPs、専門家 CPs、専門家 CPs、専門家	アンケート、インタビュー アンケート、インタビュー アンケート、インタビュー
	3.2 インドネシア側投入の適正度	CPsの配置（人数、タイミング、分野） プロジェクト運営費 提供された施設設備の適正度	CPs、専門家 モニタリング報告書 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー 資料レビュー
	3.3 投入の活用度	人材 資材・機材 業務費	CPs、専門家 モニタリング報告書 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー 資料レビュー
	3.4 プロジェクト運営管理	プロジェクト運営委員会、合同調整委員会の実施状況	モニタリング報告書	資料レビュー
4. インパクト プロジェクト実施により間接的・波及的効果はあったか？	4.1 障害者の雇用促進への貢献度	上位目標の達成度合い	実績表 モニタリング報告書	資料レビュー
	4.2 予想しなかったプラスの影響	NVRC内、および他の機関への波及効果の事例	CPs、専門家 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー
	4.3 予想しなかったマイナスの影響	NVRC内、および他の機関への波及効果の事例	CPs、専門家 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー
	4.4 外部条件による影響	外部条件により変更された活動	CPs、専門家 モニタリング報告書	アンケート、インタビュー 資料レビュー
5. 自立発展性 プロジェクトの効果が協力終了後も持続していくか？	5.1 政策的支援の継続	関連規制、法制度の整備状況	社会福祉省の政策	資料レビュー
	5.2 NVRCの運営財源の確保の可能性	予算の確保、財政支援の継続性 施設、機材の保守、維持管理システム	社会福祉省の政策、モニタリング報告書 CPs、専門家	資料レビュー アンケート、インタビュー
	5.3 NVRCの組織運営能力	NVRC運営体制 人材の確保	モニタリング報告書 CPs、専門家	資料レビュー アンケート、インタビュー
	5.4 移転した技術の定着と普及の仕組み	CPsの定着度 訓練修了生の企業定着度 機材維持管理能力	モニタリング報告書 モニタリング報告書 モニタリング報告書	資料レビュー 資料レビュー 資料レビュー
	5.5 持続的効果の発現要因と阻害要因		CPs、専門家	アンケート、インタビュー